■困ったときは（サポートのご案内）

ホームページで調べる

デジタル一眼レフカメラ取扱説明書および付属ソフトウェアの最新サポート情報（製品に関するQ&A、パソコンとの接続方法、アクセサリー互換情報など）はこちらのホームページから

『α』専用サポートサイト
http://www.sony.co.jp/alpha/support/

『α』オフィシャルサイト
http://www.sony.co.jp/alpha

デジタル一眼レフカメラの最新情報、撮影テクニック、アクセサリーなどに関する情報を掲載しています。英語の取扱説明書のダウンロードもできます。
(English manual download service is available.)

メモリースティック対応表
使用可能な"メモリースティック"を確認できます。
http://www.sony.co.jp/mstaiou/

電話で問い合わせる（おかけ間違いにご注意ください。）

ソニーデジタル一眼レフカメラ専用ヘルプデスク
●ナビダイヤル……0570-00-0770
（全国どこからでも市内通話料でご利用いただけます）
●携帯電話・PHSでのご利用は……0466-38-0231
（ナビダイヤルが使用できない場合はこちらをご利用ください）
受付時間：月～金曜日：午前9時～午後8時
土、日曜日、祝日：午前9時～午後5時

指定宅配便での修理品のお引取り、修理後の製品のお届けまでを一括して行います。ソニーデジタル一眼レフカメラ専用ヘルプデスクへお電話いただくか、WEBサイトをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/di-repair/

■カスタマー登録のご案内

カスタマー登録していただくと、安心・便利な各種サポートが受けられます。
詳しくは、同梱のチラシ「カスタマー登録のご案内」もしくはご登録WEBサイトをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/di-regi/

登録後は登録者専用お問い合わせ窓口をご利用いただけます。
詳しくは下記のURLをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/alpha/contact/

ソニー株式会社　〒108-0075　東京都港区港南1-7-1　http://www.sony.co.jp/

この説明書は100%古紙再生紙とVOC（揮発性有機化合物）ゼロ植物油型インキを使用しています。

Printed in Malaysia

2681187030

SONY

2-681-187-**03** (1)

デジタル一眼レフカメラ取扱説明書

活用編・困ったときは

α100
DSLR-A100

MEMORY STICK TM

「はじめにお読みください」（別冊）
本機を使うための準備と、基本的な撮影・再生の方法を説明しています。

⚠警告　**電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。**

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。本書と別冊の「デジタル一眼レフカメラ取扱説明書 はじめにお読みください」をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

商標について

- α はソニー株式会社の商標です。
- “Memory Stick”、“メモリースティック”、MEMORY STICK™、“Memory Stick PRO”、“メモリースティック PRO”、MEMORY STICK PRO、“Memory Stick Duo”、“メモリースティック デュオ”、MEMORY STICK DUO、“Memory Stick PRO Duo”、“メモリースティックPRO デュオ”、MEMORY STICK PRO DUO、“MagicGate”、“マジックゲート”およびMAGICGATEはソニー株式会社の商標です。
- Microsoft、Windows、DirectXは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- Macintosh、Mac OS、iMac、iBook、PowerBook、Power Mac、eMacはApple Computer, Inc.の登録商標または商標です。
- Intel、MMX、PentiumはIntel Corporationの登録商標または商標です。
- コンパクトフラッシュ（CompactFlash）は、米国サンディスク社の商標です。
- Microdriveは、Hitachi Global Storage Technologiesの登録商標です。
- Adobe は Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。
- Dレンジオプティマイザーアドバンスには apical アピカル社の技術を使用しています。
- その他、本書に記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中には™、®マークは明記していません。

⚠警告 安全のために

→ *155 ～ 158ページも*
あわせてお読みください。

誤った使いかたをしたときに生じる**感電や傷害など人への危害**、また**火災などの財産への損害**を未然に防止するため、次のことを必ずお守りください。

「安全のために」の注意事項を守る

定期的に点検する

1年に1度は、電源コードに傷がないか、電源プラグ部とコンセントの間にほこりがたまっていないか、故障したまま使用していないか、などを点検してください。

故障したら使わない

カメラやバッテリーチャージャーなどの動作がおかしくなったり、破損していることに気がついたら、すぐにソニーデジタル一眼レフカメラ専用ヘルプデスクへご相談ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら
煙が出たら

1. **電源を切る**
2. **電池をはずす**
3. **ソニーデジタル一眼レフカメラ専用ヘルプデスクに連絡する**

裏表紙に**ソニーデジタル一眼レフカメラ専用ヘルプデスクの連絡先**があります。

⚠危険 万一、電池の液漏れが起きたら

1. **すぐに火気から遠ざけてください。漏れた液や気体に引火して発火、破裂の恐れがあります。**
2. **液が目に入った場合は、こすらず、すぐに水道水などきれいな水で充分に洗ったあと、医師の治療を受けてください。**
3. **液を口に入れたり、なめた場合は、すぐに水道水で口を洗浄し、医師に相談してください。**
4. **液が身体や衣服についたときは、水でよく洗い流してください。**

警告表示の意味

この取扱説明書や製品では、次のような表示をしています。

⚠危険

この表示のある事項を守らないと、極めて危険な状況が起こり、その結果大けがや死亡にいたる危害が発生します。

⚠警告

この表示のある事項を守らないと、思わぬ危険な状況が起こり、その結果大けがや死亡にいたる危害が発生することがあります。

⚠注意

この表示のある事項を守らないと、思わぬ危険な状況が起こり、けがや財産に損害を与えることがあります。

注意を促す記号

火災

感電

行為を禁止する記号

禁止

分解禁止

ぬれ手禁止

行為を指示する記号

プラグをコンセントから抜く

指示

電池について

安全のためにの文中の「電池」とは、「バッテリーパック」も含みます。

目次

操作の前に

各種機能の説明（撮影）

各種機能の説明(再生)

メニュー機能

パソコンで楽しむ

画像をプリントする

困ったときは

その他

安全のために

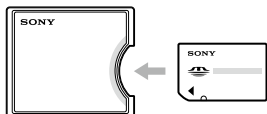
用語の解説/索引

お使いになる前に必ずお読みください

本機で使用できる"メモリースティック"(別売)

"メモリースティック"のサイズには2種類あります。

"メモリースティック":本機では使用できません。

"メモリースティック デュオ":コンパクトフラッシュスロット対応メモリースティック デュオ アダプター(付属)に入れて、本機で使用可能です。

- 誤消去防止スイッチのある"メモリースティック デュオ"の場合は、「LOCK」を解除してからお使いください。
- "メモリースティック"について詳しくは、139ページをご覧ください。

バッテリーについてのご注意

- 初めてお使いになるときは、バッテリー(付属)NP-FM55Hを必ず充電してください。(→*別冊「はじめに」手順1*)
- バッテリーを使い切らない状態でも充電できます。また充電が完了しなくても途中まで充電した容量分はお使いいただけます。
- バッテリーを長持ちさせるために、長時間使用しない場合は、本機で使い切ったあと、バッテリーを取りはずして湿度の低い涼しい場所で保管してください(142ページ)。
- バッテリーについて詳しくは、142ページをご覧ください。

撮影内容の補償はできません

万一、カメラや記録メディアなどの不具合により撮影や再生がされなかった場合、画像などの記録内容の補償については、ご容赦ください。

バックアップのおすすめ

万一の誤消去や破損にそなえ、必ず予備のデータコピー(バックアップ)をおとりください。

撮影・再生に際してのご注意

- 本機は防じん、防滴、防水仕様ではありません。「使用上のご注意」もご覧ください(147ページ)。
- 必ず事前にためし撮りをして、正常に記録されていることを確認してください。
- 本機をぬらさないでください。水滴が内部に入り込むと、故障の原因になるだけでなく、修理できなくなることもあります。
- ファインダーや取りはずしたレンズを通して、太陽や強い光を見ないでください。目に回復不可能なほどの障害をきたすおそれがあります。また故障の原因になります。
- 強力な電波を出すところや放射線のある場所で使わないでください。正しく撮影・再生ができないことがあります。
- 砂やほこりの舞っている場所でのご使用は故障の原因になります。
- 結露が起きたときは、結露を取り除いてからお使いください(147ページ)。
- 本機に振動や衝撃を与えないでください。誤作動したり、画像が記録できなくなるだけでなく、記録メディアが使えなくなったり、撮影済みの画像データが壊れることがあります。
- フラッシュの表面の汚れは取り除いてください。発光による熱でフラッシュ表面の汚れが変色したり、貼り付いたりすると、充分に発光できない場合があります。

- 本機や付属品などは乳幼児の手の届く場所に置かないでください。バッテリーやシューキャップなどを飲みこむ恐れがあります。万一飲みこんだ場合は、直ちに医師に相談してください。

液晶モニターおよびレンズについてのご注意

- 液晶モニターは有効画素99.99%以上の非常に精密度の高い技術で作られていますが、黒い点が現れたり、白や赤、青、緑の点が消えないことがあります。これは故障ではありません。これらの点は記録されていません。

黒、白、赤、青、緑の点

- 直射日光の当たる場所に放置しないでください。太陽光が近くの物に結像すると、火災の原因となります。やむを得ず直射日光下に置く場合は、レンズキャップを付けてください。
- 寒いところで使うと、画像が尾を引いて見えることがありますが、故障ではありません。また、初めは画面が通常よりも少し暗くなります。本機内部の温度が上がってくると、通常の明るさになります。
- 液晶モニターを強く押さないでください。画面にムラが出たり、液晶モニターの故障の原因になります。

焦点距離について

本機での撮影画角は、35 mmフィルムカメラの画角よりも狭くなります。お手持ちのレンズの焦点距離を約1.5倍すれば、35 mmフィルムカメラとほぼ同じ画角で撮影できる焦点距離に相当する値を求めることができます。

（例：焦点距離50 mmのレンズを付けると、35 mmフィルムカメラで約75 mmに相当する画像が得られます。）

画像の互換性について

- 本機は、（社）電子情報技術産業協会（JEITA）にて制定された統一規格“Design rule for Camera File system”（DCF）に対応しています。
- 本機で撮影した画像の他機での再生、他機で撮影/修正した画像の本機での再生は保証いたしません。

著作権について

あなたがカメラで撮影したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興業、展示物などの中には、個人として楽しむなどの目的があっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

電波障害自主規制について

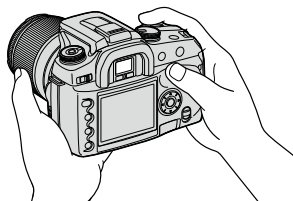
この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

本書中の画像について

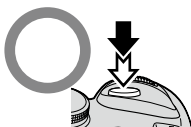
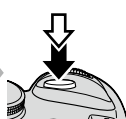
画像の例として本書に掲載している写真はイメージです。本機を使って撮影したものではありません。

表示言語について

本機のメニュー項目や警告などの表示は、日本語のみに対応しております。

ステップアップのための基礎知識

ここでは、本機を使いこなすための基礎について説明します。
本機に搭載された多彩な機能は、モードダイヤル（28ページ）や、ファンクションダイヤル（39ページ）、メニュー（77ページ）などで使うことができます。

ピント　クリアな画像を撮るために

本機はファインダーをのぞくか、シャッターを半押しすることで、ピントを自動で合わせます（オートフォーカス）。ピントが合っているかを確認するためにも、シャッターを半押しする習慣をつけましょう。

ピントを合わせても画像がクリアでないときは、手ぶれを起こしている場合があります：→次の「手ぶれを起こさないためのヒント」をご覧ください。

手ぶれを起こさないためのヒント

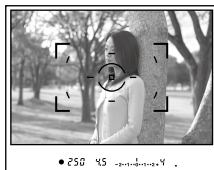
脇を締め、左手は本機とレンズの下におき、カメラをしっかり押さえてください。片足を軽く踏み出し、上半身を安定させます。壁にもたれたり、机などに肘をついたりしても効果があります。三脚を使用するか、または手ぶれ補正をオンにして使用することも効果的です。

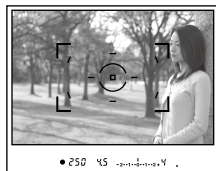
暗い場所での撮影では、フラッシュを使うと光がたりない被写体でも明るく写すことができ、手ぶれ防止にも役立ちます。
自然光を生かしたい場合や被写体にフラッシュ光が届かない場合は、フラッシュを発光させずにISO感度を上げると、シャッタースピードが速くなるので手ぶれが少なくなります（ただし、画像にざらつきが生じたり、ノイズが発生しやすくなります）。

被写体がフォーカスフレームに入らないときは（フォーカスロック撮影）

オートフォーカスで撮影する場合、通常は、ピントを合わせたい被写体をフォーカスフレーム[　]に入れて撮影します。ピントを合わせたいものが[　]に入らないときにそのまま撮影すると、[　]と重なっている背景にピントが合って人物がぼけてしまいます。このようなときは、次のようにしてピントを固定（フォーカスロック）して撮影してください。

- この方法は、オートフォーカスの苦手な被写体を撮影する際にも有効です（12ページ）。

① ピントを合わせたいものに[　]を合わせ、シャッターボタンを半押しする。

- ファインダー内の●が点灯し、ピントが合った部分のローカルフォーカスフレームが一瞬赤く点灯します。

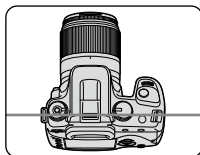
② シャッターボタンを半押ししたまま、撮りたい構図に戻す。

③ シャッターボタンを押し込んで撮影する。

- ピントと同時に露出も固定されます（多分割測光選択時のみ、（56ページ））。
- 撮影後、シャッターボタンから指を離すと、ピントの固定は解除されます。撮影後も指を離さずにそのまま半押し状態に戻すと、同じピント位置で連続して撮影できます。
- ファインダー内の●が点灯しないとき（被写体が動いているとき）は、シャッターボタン半押しによるフォーカスロック撮影はできません（51、69ページ）。

ピントが合いにくい被写体：

下記のような被写体では、オートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。
フォーカスロック撮影またはマニュアルフォーカス撮影（69ページ）を行ってください。

– 青空や白壁などコントラストのないもの
– フォーカスフレームの中に距離の異なるものが混じっているとき
– ビルの外観など、繰り返しパターンの連続するもの
– 太陽のように明るいものや、車のボディ、水面などきらきら輝いているもの

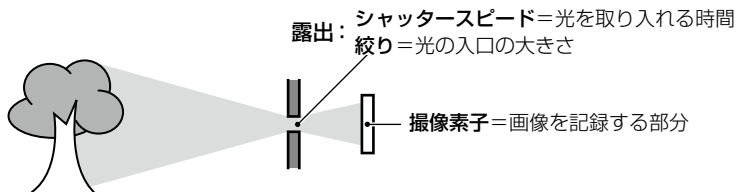
撮影距離を正確に測るには

左図に示した横線がCCD*面の位置となります。本機から被写体までの距離を正確に測るには、この線の位置を参考にしてください。

* CCD：デジタルカメラでフィルムの役割を果たす部分

露出 光の量を調整して好みの画像を撮る

シャッタースピードと絞りを調整することで、さまざまな仕上がりにすることができます。露出とはシャッターを切ったときに取り入れる光の量のことです。

露出：**シャッタースピード**＝光を取り入れる時間
絞り＝光の入口の大きさ

撮像素子＝画像を記録する部分

露出オーバー
＝光が多すぎる
画面が白くなる

露出が適正

露出アンダー
＝光が少なすぎる
画面が暗くなる

本機は露出が適正になるように自動調整します（オート撮影時）が、以下の機能でお好みの状態に調整することができます。

マニュアル露出：
シャッタースピードと絞りを手動調整
→35ページ

測光モード：
露出を測る方法を変更
→56ページ

露出補正：
自動調節した露出を補正→63ページ

色　光の影響について

被写体の見た目の色は、その場の光の影響を受けます。

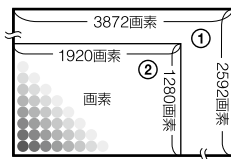
例:同じ色が光の影響で違って見えます

天候や照明	晴れ	曇り	蛍光灯	電球
光の特性	基準となる白	青みがかる	緑がかる	赤みがかる

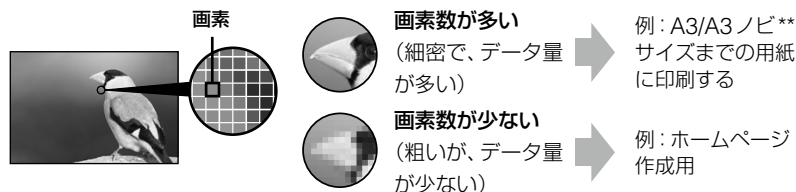
本機はこの変化を最適な仕上がりになるように自動調整します(オートホワイトバランス時)が、ホワイトバランスモード(42ページ)でお好みの色に調整することができます。

画質　「画素」と「画像サイズ」について

デジタル写真は「画素(ピクセル)」という小さな点が集まって作られています。「画素」を多く使うと、写真は大きく、データ量は多く、画面は精細になります。「画像サイズ」とはこの画素数を指し、本機の画面では違いはわかりませんが、プリントしたりパソコンの画面で見たときに、写真の精細さやデータ処理時間に影響します。

画素と画像サイズのイメージ

① 画像サイズ:L:10M
3872画素×2592画素＝10036224画素

② 画像サイズ:S:2.5M
1920画素×1280画素＝2457600画素

用途にあわせてサイズを選ぶ

お買い上げ時の設定は✓で示しています。

	画像サイズ*		用途の例	撮影可能枚数	プリント時
✓	L：10M	大きい	大切な画像を保存したり、A3/A3ノビ**サイズへの引き伸ばしやA4サイズ高精細プリントする場合	少ない	精細
	M：5.6M	↕	A4サイズプリントやA5サイズ高精細プリントする場合	↕	↕
	S：2.5M	小さい	より多くの画像を撮影する場合 ホームページ作成用の場合	多い	粗い

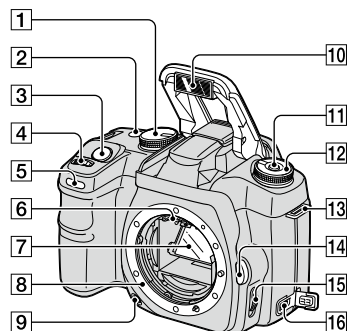
*　本機の画像サイズはすべて、写真の印画紙、ポストカードなどと同じく3：2の横縦比です。

**　A3よりもひと回り大きいサイズです。A3サイズに余白をつけて印刷することができます。

画質（圧縮率）設定をあわせて使う（80ページ）

デジタル写真を保存するときの圧縮率を変更することができます。圧縮率を高くすると写真の精細さは落ちますが、データ量は少なくなります。

各部のなまえ

*の付いたところは、直接手で触れないでください。
カッコ内の数字はページ数。

1 モードダイヤル（28）

2 ⏲/▣（ドライブ）ボタン（58）

3 シャッターボタン（→*別冊「はじめに」手順5*）

4 コントロールダイヤル（31、93）

5 セルフタイマーランプ（60）

6 レンズ信号接点*

7 ミラー*

8 マウント

9 プレビュー（絞り込み）ボタン（68）

10 内蔵フラッシュ*（→*別冊「はじめに」手順5*）

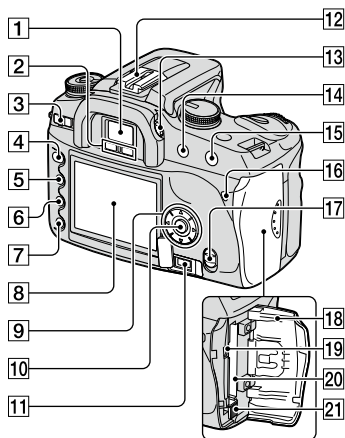
11 Fn（ファンクション）ボタン（40）

12 ファンクションダイヤル（39）

13 ショルダーストラップ取り付け部（18）

14 レンズ取りはずしボタン（→*別冊「はじめに」手順2*）

15 フォーカスモードスイッチ（69）

16 DC-IN端子（144）

1 ファインダー（→*別冊「はじめに」手順5*）

2 アイセンサー（96）

3 POWER（パワー）スイッチ（→*別冊「はじめに」手順3*）

4 MENU（メニュー）ボタン（77）

5 ▭（表示切り替え）ボタン（23、70）

6 🗑（消去）ボタン（→*別冊「はじめに」手順6*）

7 ▶（再生）ボタン（→*別冊「はじめに」手順6*）

8 液晶モニター（20、23）

9 十字キー（▲/▼/◀/▶）（→*別冊「はじめに」手順3*）
再生時：▲：📊（ヒストグラム）ボタン（72）
▼：↻（回転）ボタン（74）

10 実行ボタン（→*別冊「はじめに」手順3*）/スポットAFボタン（49）

11 REMOTE（リモートレリーズ）端子（144）

12 オートロックアクセサリーシュー（145）

13 視度調整ダイヤル（→*別冊「はじめに」手順5*）

14 撮影時：＋/－（露出補正）ボタン（35、63）
再生時：（縮小）ボタン（70、75）

15 撮影時：AEL（AEロック）ボタン（37、65）
再生時：（拡大）ボタン（75）

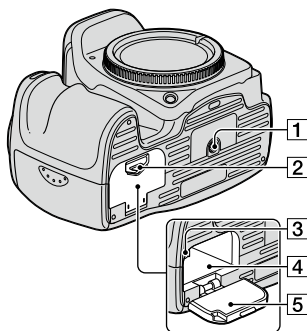
16 アクセスランプ（→*別冊「はじめに」手順4*）

17 （手ぶれ補正）スイッチ（→*別冊「はじめに」手順5*）

18 CFカードカバー（→*別冊「はじめに」手順4*）

19 VIDEO（ビデオ）/USB端子（76、107）

20 CFカード挿入口（→*別冊「はじめに」手順4*）

21 CFカード取り出しレバー（→*別冊「はじめに」手順4*）

1 三脚ねじ穴
- 三脚を取り付けるときは、ネジの長さが5.5 mm未満の三脚を使う。
ネジの長さが5.5 mm以上の三脚ではしっかり固定できず、本機を傷つけることがあります。

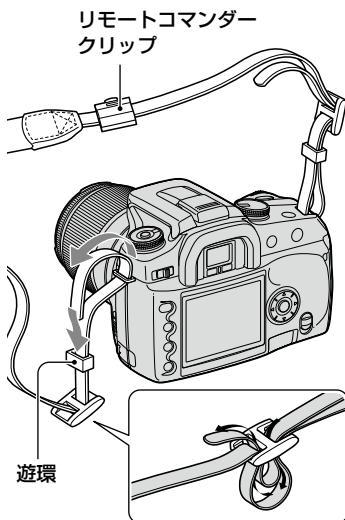
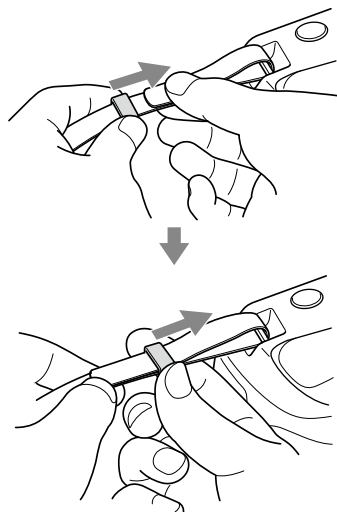
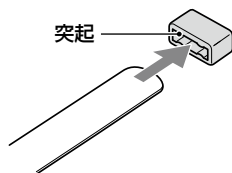
2 バッテリーカバーオープンレバー（→*別冊「はじめに」手順1*）

3 ロックレバー（→*別冊「はじめに」手順1*）

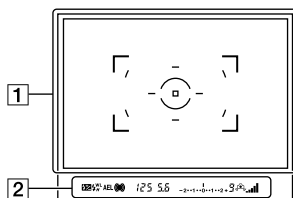
4 バッテリー挿入口（→*別冊「はじめに」手順1*）

5 バッテリーカバー（→*別冊「はじめに」手順1*）

ショルダーストラップを取り付ける

ストラップ取り付け部は2か所あります。リモートコマンダークリップのある方をグリップ側にしてストラップの両方の先端をそれぞれ取り付けます。

ストラップを遊環に通す際、固くて通しにくい場合は、下図の通り、ストラップの先端部分を指で固定して、ストラップでなく遊環を移動させるとスムーズに通ります。

遊環がストラップからはずれてしまった場合は、突起部のある方から先に通してください。

画面の表示

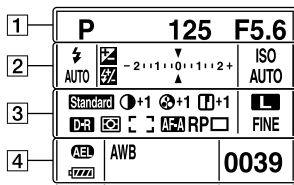
カッコ内の数字はページ数。

ファインダー

1

表示	意味
	ワイドフォーカスフレーム（49）
	ローカルフォーカスフレーム（49）
□	スポットフォーカスフレーム（49）
	スポット測光サークル（49）

2

表示	意味
	フラッシュ調光補正（55）
⚡	点滅：フラッシュ充電中 点灯：フラッシュ充電完了 （→*別冊「はじめに」手順5*）
WL	ワイヤレスフラッシュ（52）
H	ハイスピードシンクロ（146）
AEL	AEロック（65）
● (●) ( )	フォーカス（→*別冊「はじめに」手順5*）
125	シャッタースピード（33）
5.6	絞り値（32）
−2··1··0··1··2＋	測光インジケーター（36、61、66）
9	連続撮影残りコマ数（59）
	手ぶれ警告（→*別冊「はじめに」手順5*）
	手ぶれインジケーター（→*別冊「はじめに」手順5*）

液晶モニター（撮影情報画面）

• 横方向詳細表示の場合です（23ページ）。

1

表示	意味
AUTO P A S M	モードダイヤル（28）
125	シャッタースピード（33）
F5.6	絞り値（32）

2

表示	意味
AUTO	フラッシュモード（52）
M.M.	露出補正（63）/メータードマニュアル（36）
	調光補正（55）
–2··1··0··1··2+	測光インジケーター（36、61、66）
ISO AUTO ZONE	ISO感度（40）/ゾーン設定（41）

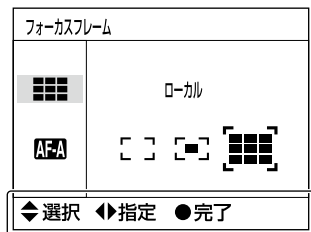
3

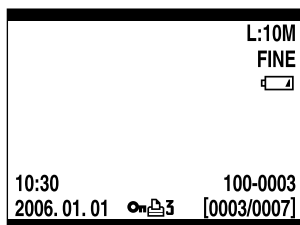
表示	意味
Standard VIVID Port. Land Sun. Night B W Adobe	画像仕上げ機能（47）
+1	コントラスト（48）
+1	彩度（48）
+1	シャープネス（48）
D-R D-R+	Dレンジオプティマイザー（46）
	測光モード（56）
	フォーカスフレーム（49）
AF-A AF-S DMF AF-C	フォーカスモード（51）
RP	レリーズ優先（91）
10 0.3 C 0.3 S Lo WB	ドライブモード（58）
L M S	画像サイズ（80）
FINE STD. RAW RAW+	画質（80）

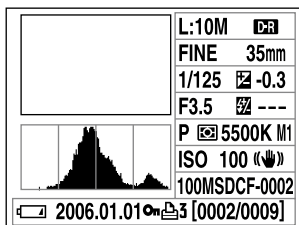
4

表示	意味
AEL	AEロック（65）
	バッテリー容量（→*別冊「はじめに」手順1*）
AWB +1 5500K M1	ホワイトバランス（オート、プリセット、色温度、CCフィルター、カスタム）（42）
0039	撮影可能枚数（24）

操作ガイド

液晶モニター下部に、次に行う操作が表示されることがあります。

表示	意味
◀▶	十字キー ◀▶
⬍	十字キー ▲▼
◀⬍▶	十字キー ▲▼◀▶
●	十字キー中央の実行ボタン
(コントロールダイヤル)	コントロールダイヤル
MENU ↶	メニューボタンで元に戻る
▶ ↶	拡大再生時に ▶ ボタンで元に戻る(75)
(Q)	タブブラウズ時にフォルダ枠と画像枠を切り替える(70)

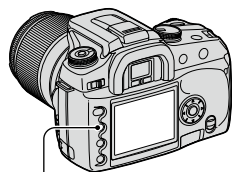
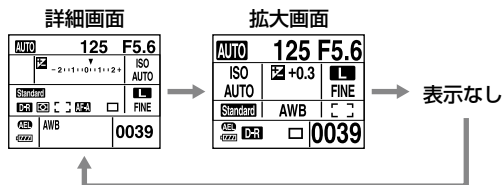
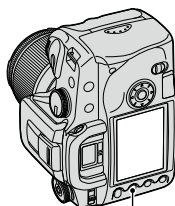
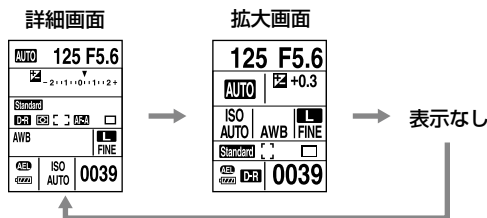
液晶モニター（1コマ再生）

表示	意味
L:10M M:5.6M S:2.5M	画像サイズ(80)
FINE STD. RAW RAW+	画質(80)
(バッテリー)	バッテリー容量(→*別冊「はじめに」手順1*)
10:30 2006.01.01	撮影日時
(プロテクト)	プロテクト(86)
3	DPOF(プリント)指定(88)
100-0003	フォルダ番号(フォルダの通し番号)-ファイル番号(ファイルの通し番号)(111)
[0003/0007]	画像番号/全体の画像数

液晶モニター（ヒストグラム再生）

表示	意味
（画像枠）	画像（72）
（ヒストグラム）	ヒストグラム（72）
L:10M M:5.6M S:2.5M	画像サイズ（80）
D-R D-R+	Dレンジオプティマイザー（46）
FINE STD. RAW RAW+	画質（80）
35mm	レンズ焦点距離（9）
1/125	シャッタースピード（33）
-0.3	露出補正（63）
F3.5	絞り値（32）
（調光補正）	調光補正（55）
AUTO **P A S M**	モードダイヤル（28）
（測光モード）	測光モード（56）
AWB +1 5500K M1	ホワイトバランス（オート、プリセット、色温度、CCフィルター、カスタム）（42）
ISO100	ISO感度（40）
（手ぶれ補正）	手ぶれ補正（→*別冊「はじめに」手順5*）
100MSDCF -0002	フォルダ名 - ファイル番号（111）
（バッテリー）	バッテリー容量（→*別冊「はじめに」手順1*）
2006.01.01	撮影日時
（プロテクト）	プロテクト（86）
3	DPOF（プリント）指定（88）
[0002/0009]	画像番号/全体の画像数

撮影情報画面を切り替える

撮影時には、カメラ後面の液晶モニターに、各種の撮影情報が表示されます。
(表示切り替え)ボタンを押すと、多くの情報を表示する詳細画面と、撮影情報を少なくして大きい文字で表示する拡大画面とを切り替えることができます。表示を消して、バッテリーの消耗を少なくすることもできます。
また、カメラを縦位置に構えると、画面が自動的に縦向きに変わります。

横位置

縦位置

- 本書では、横方向の詳細画面(上図左上)で説明しています。
- 縦位置に構えても縦画面を出さないようにすることもできます(96ページ)。
- 再生時の画面については、70ページをご覧ください。

画像の記録可能枚数

本機でフォーマットした記録メディアに記録できる撮影枚数の目安は次のとおりです。
記録枚数は撮影状況によって異なる場合があります。

画像の記録枚数（単位：枚）

“メモリースティック　デュオ”

画像サイズ：L：10M

容量 / 画質	64MB	128MB	256MB	512MB	1GB	2GB
スタンダード	22	46	85	174	358	735
ファイン	14	29	54	112	229	471
RAW＋JPEG	2	5	10	23	48	100
RAW	3	7	14	30	62	128

画像サイズ：M：5.6M

容量 / 画質	64MB	128MB	256MB	512MB	1GB	2GB
スタンダード	39	80	145	296	606	1245
ファイン	25	52	95	194	397	815

画像サイズ：S：2.5M

容量 / 画質	64MB	128MB	256MB	512MB	1GB	2GB
スタンダード	78	158	287	586	1196	2454
ファイン	53	108	197	402	822	1687

CFカード

画像サイズ：L：10M

画質＼容量	256MB	512MB	1GB	2GB	4GB
スタンダード	93	188	377	755	1508
ファイン	59	120	242	485	968
RAW＋JPEG	12	25	51	103	207
RAW	15	32	65	132	265

画像サイズ：M：5.6M

画質＼容量	256MB	512MB	1GB	2GB	4GB
スタンダード	159	319	640	1279	2553
ファイン	104	208	419	838	1673

画像サイズ：S：2.5M

画質＼容量	256MB	512MB	1GB	2GB	4GB
スタンダード	315	630	1262	2523	5034
ファイン	216	433	867	1734	3460

バッテリー使用時の撮影可能枚数

下の表は、満充電したバッテリー（付属）がなくなるまでに、何枚撮影できるかを表しています。温度25℃の環境で記録メディアを交換しながら撮影した場合の目安です。ご使用の状況によって記載より少ない数値になる場合があります。

記録メディア	撮影枚数
“メモリースティック デュオ”	約750枚
CFカード	約750枚

- 以下の設定で撮影した数値。
  - [画質]：[ファイン]
  - [AFモード]：[AF制御自動切り替え（AF-A）]
  - 30秒ごとに1回撮影
  - 2回に1度、フラッシュを発光する
  - 10回に1度、電源を入/切する
- 測定方法はCIPA規格による。（CIPA：カメラ映像機器工業会、Camera & Imaging Products Association）
- 画像サイズによって撮影枚数が変化することはありません。
- 使用回数や経年変化により、バッテリー容量は低下します（142ページ）。
- 次のような場合、撮影枚数は表示よりも少なくなります。
  - 周囲が低温のとき
  - フラッシュ多用時
  - 電源の入/切を繰り返したとき
  - [AFモード]が[コンティニュアスAF（AF-C）]のとき
  - バッテリーの容量が低下したとき
- マイクロドライブをお使いの場合は、撮影枚数が異なることがあります。

操作の流れ

下記は、準備から撮影、再生するまでの基本的な操作の流れです。必要に応じて、以下の確認・設定を行ってください。

準備

- バッテリーを準備する→*別冊「はじめに」手順1*
- レンズを取り付ける→*別冊「はじめに」手順2*
- 日時を設定する→*別冊「はじめに」手順3*、（98ページ）
- 記録メディアを入れる→*別冊「はじめに」手順4*

撮影前の確認

- 撮影モードを確認する（28ページ）
- 視度を調整する→*別冊「はじめに」手順5*
- 液晶モニター画面を切り替える（23ページ）
- 画像サイズを選択する（80ページ）
- フラッシュが必要な場合はフラッシュを上げる→*別冊「はじめに」手順5*

撮影前の設定

- ファンクションダイヤルを使う（39ページ）
（ISO感度/ゾーン切り替え、ホワイトバランス、Dレンジオプティマイザー、画像仕上げ、フォーカスモード、フラッシュモード、測光モード）
- ⏲/▭（ドライブ）ボタンを使う（58ページ）
（1コマ撮影、連続撮影、セルフタイマー、ブラケット、ホワイトバランスブラケット）
- 露出を補正する（63ページ）
- 露出を固定する（65ページ）
- 手動でピントを合わせる（マニュアルフォーカス）（69ページ）

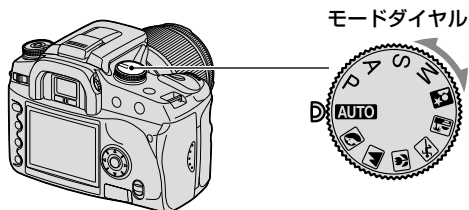
撮影

- カメラを構える→*別冊「はじめに」手順5*、（11ページ）
- ファインダーをのぞく→*別冊「はじめに」手順5*
- ズームレンズの場合はズームリングを回す→*別冊「はじめに」手順5*
- ピントを確認する→*別冊「はじめに」手順5*
- ぼけ具合を確認する（プレビュー）（68ページ）
- フラッシュが発光する場合は、フラッシュの充電完了を確認する→*別冊「はじめに」手順5*
- シャッターボタンを押して撮影する→*別冊「はじめに」手順5*

撮影画像の確認

- 再生する→*別冊「はじめに」手順6*
- 消去する→*別冊「はじめに」手順6*
- 再生画面を切り替える（70ページ）
- ヒストグラムを表示する（72ページ）
- 画像を回転する（74ページ）
- 画像を拡大する（75ページ）
- テレビで見る（76ページ）

モードダイヤルの使いかた

モードダイヤルを、操作したい機能に合わせて設定します。

画像撮影モード

AUTO　**：オート撮影**

主な設定が一時的にオートになります。カメラまかせで簡単に撮影できます。
→別冊「はじめに」手順5

：シーンセレクション

あらかじめ、撮影状況に合わせて用意された設定で撮影できます（29ページ）。

P　**：プログラムオート撮影**

露出（シャッタースピードと絞り）は本機が自動設定しますが、その他の設定は自分で調整でき、設定した値は保持されます（31ページ）。

A　**：絞り優先撮影**

絞りを手動設定します（32ページ）。

S　**：シャッタースピード優先撮影**

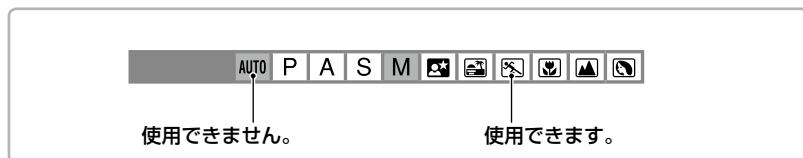
シャッタースピードを手動設定します（33ページ）。

M　**：マニュアルモード撮影**

露出（シャッタースピードと絞り）を手動設定します（35ページ）。

- オート撮影、シーンセレクションに合わせてから変更された一部の設定は、他のモードに変えたり電源を切ったりすることによりリセットされます（152ページ）。

本文中では、該当するモードダイヤルを下記のように説明しています。

シーンセレクション

あらかじめ、撮影状況に合わせた下記の設定が用意されています。
画像仕上げ(47ページ)以外の設定は、変更できます。

ポートレートモード

背景をぼかし、被写体の人物を際だたせた画像を撮る。

- 背景をよりぼかすには、レンズを望遠側にしたほうが効果があります。
- 逆光のときはフラッシュの使用をおすすめします。フラッシュを使わない場合は、画面に余分な光が写り込むのを防ぐため、レンズフードの使用をおすすめします。

風景モード

風景を鮮やかにくっきりと撮る。

- フラッシュを下げて、フラッシュ発光禁止で撮影することをおすすめします。
- 被写体が暗いときはシャッタースピードが遅くなります。ファインダー内に が現れたときは、手ぶれに注意するか、三脚を使用してください。手ぶれ補正機能も効果があります。

マクロモード

花や昆虫など、近くの被写体を撮る。
被写体全体をくっきりとシャープに写すことができます。

- 1 m以内の撮影で内蔵フラッシュを使うと、写真の下部に影ができます。内蔵フラッシュは使わないでください。
- マクロモードにしてもレンズの最短撮影距離は変わりません。より大きく撮影するためには、マクロレンズの使用をおすすめします。

スポーツモード

明るい場所で動きのある被写体を撮る。

- フォーカスモードは AF-C（コンティニュアスAF（AF-C））に設定されます（51ページ）。シャッターボタンを半押ししている間もピントが調整され続けます。
- ドライブモードは連続撮影に設定されます（59ページ）。シャッターボタンを押している間連続して撮影されます。
- フラッシュ光が届かない場合は、フラッシュを使わないでください（内蔵フラッシュを下げてください）。フラッシュ光の届く距離→*別冊「はじめに」手順5*

夕景モード

夕焼けの赤さを美しく再現することができます。

夜景／夜景ポートレートモード

- シャッタースピードが遅くなりますので、三脚を使用してください。手ぶれ補正機能も効果があります。（→*別冊「はじめに」手順5*）

夜景ポートレート撮影（人物＋夜景）

夜景をバックに、手前の人物を撮る。

フラッシュを上げて発光させてください。

- シャッタースピードは、最長2秒になります。
- 撮影される人物が動くと写真もぶれますので、動かないように注意してください。

夜景撮影（夜景のみ）

暗い雰囲気を損なわずに、夜景を撮る。

フラッシュは下げたまま発光させずに撮影してください。

- 明かりの少ない全体的に暗い夜景だと、写真がうまく仕上がらないことがあります。

プログラムオートで撮る

AUTO P A S M

プログラムオート撮影では、オート撮影（モードダイヤル：AUTO）と同様に被写体の明るさに応じてシャッタースピードと絞り値を自動的に設定します。

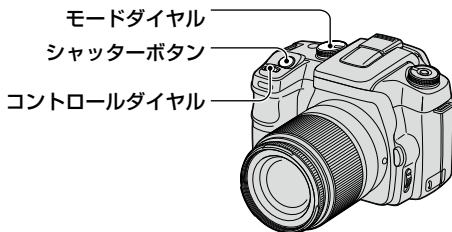
プログラムシフト

自動で設定されたシャッタースピードと絞りの組み合わせを、一時的に変更することができます。

プログラムシフトには、下記の２種類があります。

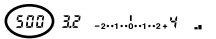
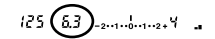
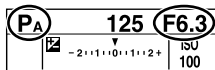
P_Sシフト：希望のシャッタースピードを選ぶことができます。絞り値は自動的に決まります。お買い上げ時の設定です。

P_Aシフト：希望の絞り値を選ぶことができます。シャッタースピードは自動的に決まります。

• カスタムメニューの［コントロールダイヤル設定］で、P_SシフトとP_Aシフトを切り替えることもできます（93ページ）。

① モードダイヤルを「P」にする。

② ファインダーをのぞく、またはシャッターボタンを半押しして、測光値（シャッタースピードと絞り値）を表示する。

③ 測光値が表示されている状態で、コントロールダイヤルを回して、シャッタースピードや絞り値を選ぶ。

P_Sシフト（お買いあげ時）

P_Aシフト

• 測光値が表示されていれば、シャッターボタンの半押しを続ける必要はありません。

各種機能の説明（撮影）

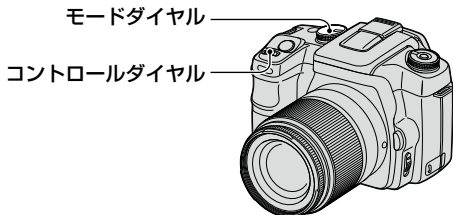
- 数秒経過して測光値が消えると、設定した値も消えます。
- フラッシュが上がっている場合は、プログラムシフトにはなりません(コントロールダイヤルを回しても何も変わりません)。また、プログラムシフト中にフラッシュを上げると、プログラムシフトはキャンセルされます。

絞り優先で撮る

AUTO P A S M

レンズに入る光量を手動で調整できます。
絞りを開く(絞り値を小さくする)と光量が増えます。ピントの合う範囲が狭くなり、被写体のみがくっきり写ります。絞りを閉じる(絞り値を大きくする)と光量が減ります。ピントの合う範囲が広がり、画面全体がシャープに写ります。
被写体の明るさに応じた適正露出になるように、シャッタースピードは自動調整されます。

絞りを開く

絞りを閉じる

① モードダイヤルを「A」にする。

② コントロールダイヤルで絞り値を選ぶ。

- 設定できる絞り値はレンズによって異なります。
- 1/3段ごとに絞り値が変わります。

- プレビュー機能を使うと、撮影前におおよその被写体のぼけ具合を確認することができます(68ページ)。

- 設定後に適正露出が得られない場合、シャッターボタンを半押しすると画面のシャッタースピードが点滅します。そのまま撮影できますが、設定し直すことをおすすめします。
- フラッシュが上がっている場合は、周囲の状態に関わらず必ず発光します（52ページ）。
- フラッシュを使用する場合、絞りを閉じる（絞り値を大きくする）と、フラッシュ光が遠くまで届かなくなります。絞りを開いて（絞り値を小さくして）撮影することをおすすめします。
- 絞りを閉じる（絞り値を大きくする）とレンズを通る光の量が減少し、シャッタースピードが遅くなります。三脚のご使用をおすすめします。

撮影のテクニック

絞りの重要な効果であるピントの合う範囲のことを「被写界深度」といいます。被写界深度は絞りを開けると浅く（ピントの合う範囲は狭く）なり、絞りを閉じると深く（ピントの合う範囲が広く）なります。

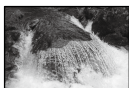
絞りを開く
背景をぼかして被写体をくっきりと強調することができます。

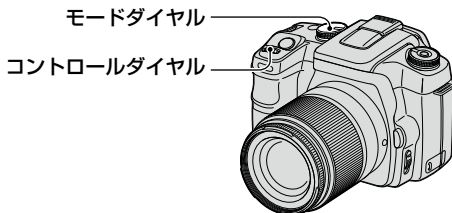
絞りを閉じる
近くから遠くまで広い範囲にピントを合わせることができます。

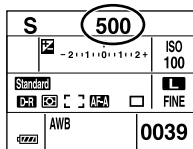
画像全体をシャープにするのか、特定部分だけを強調するのか、撮影の意図によって絞りの効果を上手に使い分けてください。

シャッタースピード優先で撮る

AUTO P A S M

シャッタースピードを手動で調整できます。
シャッタースピードを速くすると動いているものが止まっているように写り、シャッタースピードを遅くすると動いているものが流れるように写ります。
被写体の明るさに応じた適正露出になるように、絞り値は自動調整されます。

速いシャッタースピード

遅いシャッタースピード

① モードダイヤルを「S」にする。

② コントロールダイヤルでシャッタースピードを選ぶ。

- 30秒～1/4000秒の範囲から選ぶことができます。フラッシュ発光時には、30秒～1/125秒（手ぶれ補正オン）または1/160秒（手ぶれ補正オフ）の範囲で選ぶことができます。
- 1/3段ごとにシャッタースピードが変わります。

- 設定後に適正露出が得られない場合、シャッターボタンを半押しすると、画面の絞り値が点滅します。そのまま撮影できますが、設定し直すことをおすすめします。
- フラッシュが上がっている場合は、周囲の状態に関わらず必ず発光します（52ページ）。
- フラッシュを使用する場合、シャッタースピードを遅くして絞りを閉じる（絞り値を大きくする）と、フラッシュ光が遠くまで届かなくなります。シャッタースピードを遅くしたい場合は、スローシンクロ撮影をおすすめします（67ページ）。
- シャッタースピードが1秒以上の場合、撮影後にノイズ軽減処理（ノイズリダクション）が行われます（82ページ）。
- シャッタースピード優先モードでは、（手ぶれ警告）は表示されません。

撮影のテクニック

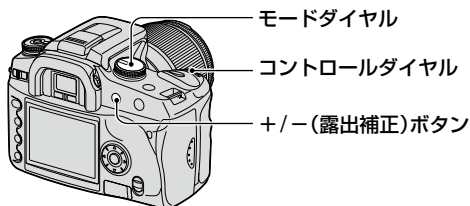
走っている人や車、波しぶきなどを高速のシャッタースピードで撮ると、肉眼ではとらえることができない瞬間を撮影できます。

また、低速のシャッタースピードで川の流れなど動きのあるものを撮影すると、より自然な流動感のある画像になります。この場合手ぶれしないように三脚のご使用をおすすめします。

マニュアルモードで撮る

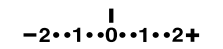
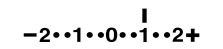
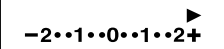
AUTO P A S M

マニュアル露出

絞り値とシャッタースピードの両方を、手動で調整できます。絞り値とシャッタースピードの両方を固定したままで撮影したいときや、露出計を使って撮影するときなどに便利です。

① モードダイヤルを「M」にする。

② コントロールダイヤルでシャッタースピードを選ぶ。

• 30秒の次には［BULB］（バルブ撮影）が表示されます（37ページ）。

③ ＋/－（露出補正）ボタンを押しながら、コントロールダイヤルで絞り値を選ぶ。

• マニュアルモードでは、［ISO］（40ページ）を［AUTO］にしていても、常にISO100に固定されます。
• カスタムメニューの［コントロールダイヤル設定］で、コントロールダイヤルの機能を入れ替えることもできます（93ページ）。
• マニュアルモードでは、（手ぶれ警告）は表示されません。
• フラッシュが上がっている場合は、必ず発光します（52ページ）。

測光インジケーターについて

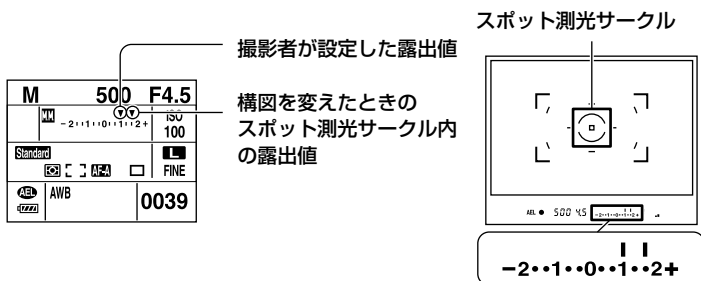
液晶モニターとファインダー内の測光インジケーターに、カメラが測光した露出値を基準値(0)として、撮影者が選んだシャッタースピードと絞り値による露出値との差が表示されます(メータードマニュアル)。

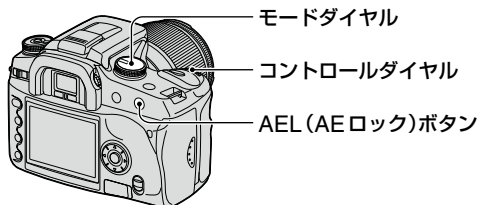
基準露出	+1段露出オーバー	+2段以上露出オーバー
本機が測光した基準値と撮影者が設定した露出値が同じ	撮影者が設定した露出値は、本機が測光した基準値より+1段オーバー	差が±2段を超すとインジケーターの端で◀▶が点灯し、さらに差が開くと点滅します。

M.M.: Metered manual(メータードマニュアル)の略

マニュアルモード時のAELボタンの使いかた

AEL(AEロック)ボタンを押している間、本機が測光した露出値が基準値(0)としてロックされます。ボタンを押しながら構図を変えるとスポット測光サークル内の露出値が常に連動して変化し、本機が測光した基準値とスポット測光サークル内の露出値との差が表示されます。

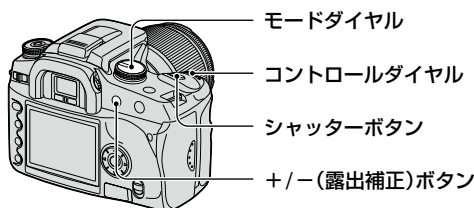
下図では、撮影者が設定した露出値は、本機が測光しロックした基準値(0)より+1段オーバーであることを示します。そこから構図を変えたときのスポット測光サークル内の値は、さらに+0.7段オーバーとなり、カメラが測光した基準値よりも+1.7段オーバーであることがわかります。

マニュアルシフト

マニュアルモード時に、露出はそのままでシャッタースピードと絞り値の組み合わせを変えることができます。

① モードダイヤルを「M」にする。

② シャッタースピードと絞り値を選ぶ（35ページ）。

③ AEL（AEロック）ボタンを押しながらコントロールダイヤルを回し、希望のシャッタースピードと絞り値の組み合わせを選ぶ。

バルブ（長時間露光）撮影

シャッターボタンを押し続けている間、シャッターが開いたままになります。花火の光が尾を引くような画像が撮影できます。本機を三脚に取り付けて撮影してください。

① モードダイヤルを「M」にする。

② コントロールダイヤルを［BULB］が出るまで左に回す。

③ ＋/－（露出補正）ボタンを押しながらコントロールダイヤルで絞り値を選ぶ。

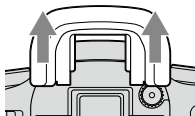
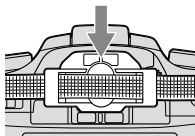
④ アイピースカバーを取り付ける（下記）。

⑤ 必要な時間、シャッターボタンを押し続けて撮影する。

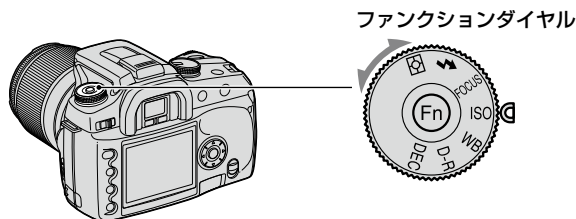
- 満充電したバッテリーで、約4時間のバルブ撮影が可能です。
- 撮影後はシャッターが開いていた時間分だけ、ノイズ軽減処理（ノイズリダクション）が行われます。その間は「ノイズリダクション実行中」というメッセージが現れ、次の撮影はできません。この機能を解除するには、82ページをご覧ください。
- 手ぶれ補正機能は、自動的にオフになります。
- ISO感度が高いほど、また露光時間が長いほど、画面内のノイズは目立ちやすくなります。
- カメラぶれを少なくするため、リモートコマンダー（別売）の使用をおすすめします（144ページ）。

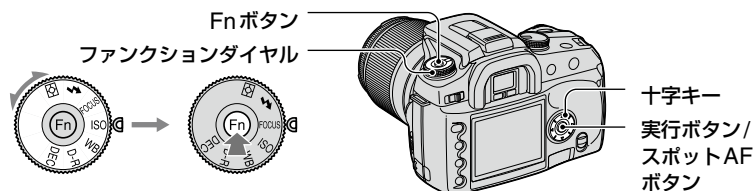
アイピースカバーを取り付けるには

バルブ撮影やセルフタイマー撮影など、ファインダーをのぞかずにシャッターを切る場合は、ファインダーから光が入って露出に影響するのを防ぐため、アイピースカバーを取り付けてください。

① アイカップを取りはずす。

② ストラップに付いているアイピースカバーを取り付ける。

- アイピースカバーを取り付けると、撮影状況によってはファインダー下のアイセンサーが作動して、ピントが動いたり液晶モニターが点滅を繰り返したりすることがあります。[アイスタートAF]を[なし]にするとこれを防止できます（82ページ）。

ファンクションダイヤルを使う

ファンクションダイヤルを、操作したい機能に合わせて設定します。
フォーカスフレームやAFモード、測光モード、調光補正、画像仕上げなどの設定ができます。

ISO	：ISO感度/ゾーン切り替え設定(40ページ)
WB	：ホワイトバランス設定(42ページ)
D-R	：Dレンジオプティマイザー設定(46ページ)
DEC	：画像仕上げ機能(47ページ)
FOCUS	：フォーカスモード設定(49ページ)
ϟ	：フラッシュ設定(52ページ)
[測光]	：測光モード設定(56ページ)

ファンクションダイヤルの使いかた

1 ファンクションダイヤルを設定したい項目に合わせる。

2 Fnボタンを押し、ファンクション操作画面を表示する。

3 十字キーの▲/▼/◀/▶で、設定したい項目、数値を選ぶ。

- 十字キーの◀/▶は、コントロールダイヤルでも設定できます。
- 設定方法の詳細は、各項目のページをご覧ください。

4 十字キー中央の実行ボタンを押す。

設定が完了します。

ISO感度/ゾーン切り替え設定

FOCUS ISO WB D-R DEC

ISO感度とゾーン切り替えを設定します。

ISO

光に対する感度をISOという単位で表します。数値が大きいほど高感度になります。

① ファンクションダイヤルとFnボタンで、ISO/ゾーン切り替え画面を表示する。

② 十字キーの▲/▼/◀/▶で、希望の数値を選び、中央の実行ボタンを押す。

- [Lo80]と[Hi200]はゾーン切り替え機能です(下記)。

(✓:お買い上げ時の設定)

✓	AUTO	ISO感度を自動調節する。
	100	暗い場所や高速で移動する被写体には大きい値を、高画質で撮るには小さい値を設定する。
	200	
	400	
	800	
	1600	

- [ISO]が[AUTO]の場合は、ISO100 ～ 800の範囲で自動的に設定されますが、モードダイヤルが「M」のときはISO100に固定されます。
- 内蔵フラッシュによる調光距離(適正露出の得られる範囲)は、絞り値とISO感度によって異なります。下記の表を目安に撮影距離を決めてください。

絞り値	ISO感度				
	ISO 100	ISO 200	ISO 400/ AUTO	ISO 800	ISO 1600
F2.8	1～4.3 m	1～6 m	1.4～8.6 m	2～12 m	2.8～17 m
F4	1～3 m	1～4.3 m	1～6 m	1.4～8.6 m	2～12 m
F5.6	1～2.1 m	1～3 m	1～4.3 m	1～6 m	1.4～8.6 m

ゾーン切り替え

高輝度域または低輝度域の多い被写体で、白とびや黒つぶれをやわらげることができます。

RAW画像の撮影でも有効です。

① ファンクションダイヤルとFnボタンで、ISO/ゾーン切り替え画面を表示する(40ページ)。

② 十字キーの▲/▼/◀/▶で、[Lo80]または[Hi200]を選んで、中央の実行ボタンを押す。

- [AUTO]と[100]、[200]、[400]、[800]、[1600]はISO感度機能です(40ページ)。

各種機能の説明(撮影)

Lo80	黒つぶれをおさえます。白とびが起こりやすいので、高輝度域の少ない場面での使用をおすすめします。
Hi200	白とびをおさえます。低輝度域ではノイズが増幅することがあるので、低輝度域の少ない場面での使用をおすすめします。

- ISO感度は、[Lo80]ではISO 80相当、[Hi200]ではISO 200相当で制御されます。
- ゾーン切り替えを設定した場合、画像仕上げ機能のコントラスト設定は無効になります。
- 内蔵フラッシュ使用時の撮影距離は、下記の表を目安に決めてください。

絞り値	ゾーン切り替え	
	Lo80	Hi200
F2.8	1～3.8 m	1～6 m
F4	1～2.7 m	1～4.3 m
F5.6	1～1.9 m	1～3 m

ホワイトバランス設定

FOCUS ISO WB D-R DEC

通常は自動的に色合いの調節が行われますが、撮影条件に応じた設定にすることができます。

① ファンクションダイヤルとFnボタンで、ホワイトバランスモード画面を表示する（40ページ）。

② 十字キーの▲/▼で、ホワイトバランスの設定方法を選ぶ。

③ [AWB]を選んだときは、十字キー中央の実行ボタンを押す。
[AWB]以外を選んだときは、それぞれの手順に進む。

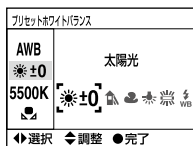
AWB[1]（オートホワイトバランス）	ホワイトバランスは自動的に調整されます。
☀（プリセットホワイトバランス）	被写体を照射している光源に応じて設定を選ぶことができます（43ページ）。
K[2]（色温度設定）	色温度を選んで撮影します。CC[3]フィルターの設定も可能です（44ページ）。
（カスタムホワイトバランス）	白く再現したい被写体を選んでカメラに記憶させます（45ページ）。

1) AWB：Auto White Balanceの略
2) K：ケルビン（色温度を表す単位）の略
3) CC：Color Compensating の略

プリセットホワイトバランス

被写体を照射している光源に応じて設定を選びます。[AWB]で思うような色が出ないときにお使いください。

① ファンクションダイヤルとFnボタンで、ホワイトバランスモード画面を表示する（40ページ）。

② 十字キーの▲/▼で、プリセットホワイトバランス画面を表示して▶を押す。

③ 十字キーの◀/▶またはコントロールダイヤルで光源を選び、微調整が必要な場合は、▲/▼で調整する。
- ＋3 〜－3の範囲で調整できます（蛍光灯は、＋4 〜－2）。
- ＋側にするほど色温度が上がり、被写体が赤っぽく写ります。－側にするほど色温度が下がり、青白く写ります。
- 1段は、約10ミレッド*に相当します。

* ミレッド：色温度変換フィルターの色温度変換能力を示すために用いられる単位

④ 中央の実行ボタンを押す。

（✓：お買い上げ時の設定）

✓	（太陽光）	晴れた明るい屋外に合わせる。
	（日陰）	晴れた明るい屋外の日陰に合わせる。
	（曇天）	曇った屋外に合わせる。
	（白熱灯）	パーティー会場など、照明条件が変化するときや、スタジオなどのビデオライトに合わせる。
	（蛍光灯）	蛍光灯の光に合わせる。
	（フラッシュ）	フラッシュ光に合わせる。

- ホワイトバランスについて→14ページ
- 蛍光灯アイコン（蛍光灯）を選んでいるときに、微調整を行うと、微調整でなく、以下の通り蛍光灯の種類を選ぶことになります。＋側ほど赤っぽく、－側ほど青白く写ります。

	蛍光灯の種類
－2	電球色蛍光灯
－1	温白色蛍光灯（三波長）
0	白色蛍光灯
＋1	昼白色蛍光灯
＋2	昼白色蛍光灯（三波長）
＋3	昼光色蛍光灯
＋4	昼光色蛍光灯（三波長）

- 水銀灯やナトリウムランプの場合、光源の特性上それらだけでは正確なホワイトバランスは得られません。フラッシュの使用をおすすめします。

色温度

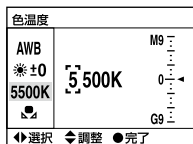
ホワイトバランス値を、色温度で指定することができます。また、設定した色温度を基準にG[1]（緑色）からM[2]（マゼンタ）の方向に、写真用のCC（色補正）フィルターを使う感覚で、色を補正できます。

[1] G：Greenの略

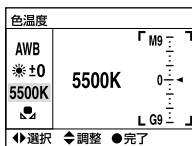
[2] M：Magentaの略

- カラーメーターをお使いの場合、蛍光灯やナトリウム灯、水銀灯下では、カスタムホワイトバランスの使用またはためし撮りを行ってください。カラーメーターはフィルムカメラ用であり、これらの光源下では値が異なるためです。

① ファンクションダイヤルとFnボタンで、ホワイトバランスモード画面を表示する（40ページ）。

② 十字キーの▲/▼で、色温度画面を表示して▶を押す。

③ ▲/▼/◀/▶で、色温度を設定する。

- ◀/▶で変更したい色温度の桁（千または百の桁）を選び、▲/▼で、選んだ桁の数値を設定します。
- 色温度は、2500K～9900Kの範囲から選ぶことができます。

④ CCフィルターが必要な場合は、▶でCCフィルターの設定エリアを選び、▲/▼でCCフィルターを設定する。

• ▲を押すとM（マゼンタ）の方向に、▼を押すとG（グリーン）の方向にそれぞれ9段階色補正ができます。
• 1段分のCC指数は約5に相当します。

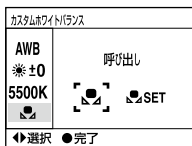
⑤ 中央の実行ボタンを押す。

• CCフィルターを設定後、色温度を変更すると、現在のCCフィルターの値が新しい色温度に反映されます。

カスタムホワイトバランス

複数の種類の光源で照明されている場合などで、より正確に白さを表現したいときは、カスタムホワイトバランスの使用をおすすめします。

① ファンクションダイヤルとFnボタンで、ホワイトバランスモード画面を表示する（40ページ）。

② 十字キーの▲/▼で、カスタムホワイトバランス画面を表示して▶を押す。

③ ▶で[SET]を選び、中央の実行ボタンを押す。
液晶モニターに「シャッターボタンでスポット測光エリア内のデータを取込みます。」というメッセージが表示されます。

④ 白く写したいものがスポット測光サークルを覆うようにカメラを構え、シャッターボタンを押し込む。シャッター音がして、取り込んだ値（色温度とCC）が表示されます。

• ピントを合わせる必要はありません。

⑤ 中央の実行ボタンを押す。
登録したカスタムホワイトバランス値が設定された状態で、撮影情報画面に戻ります。

設定されたカスタムホワイトバランスを呼び出すには

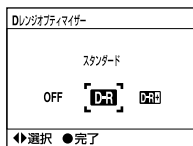
上記の手順②で、◀/▶で[ ]を選び、中央の実行ボタンを押す。

- この操作で登録されたカスタムホワイトバランス値は、次に別の値が登録されるまで有効です（POWERスイッチを「OFF」にしても消えません）。
- シャッターボタンを押すときにフラッシュを発光させると、フラッシュ光でカスタムホワイトバランスが登録されます。呼び出した後の撮影でもフラッシュを発光させて撮影してください。
- 「カスタムWB設定エラー」というメッセージが表示されたときは、値が想定外であることを表します（近距離でフラッシュを発光させた場合や、鮮やかな色の被写体に向けた場合など）。値は登録され、液晶モニター撮影情報画面の 表示が黄色になります。撮影はできますが、より正確なホワイトバランスを得るには、設定し直すことをおすすめします。

Dレンジオプティマイザー

FOCUS ISO WB D-R DEC

撮影シーンを分析し、自動補正を行って画質を向上させます。

① ファンクションダイヤルとFnボタンで、Dレンジオプティマイザー画面を表示する（40ページ）。

② 十字キーの◀/▶で、希望のモードを選び、中央の実行ボタンを押す。

（✓：お買い上げ時の設定）

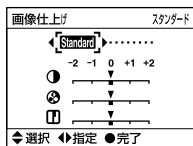
	OFF（オフ）	補正しない。
✓	D-R（スタンダード）	画面全体の明るさ、コントラストを自動調整する。
	D-R+（アドバンス）	撮影画像の階調、色再現を画像の領域ごとに最適化する。

- 下記の場合には、効果が出ません。
  - 中央重点測光
  - スポット測光
  - モードダイヤルが「M」のとき
  - ［画質］が［RAW］または［RAW＋JPEG］のとき
- AEロック時は、AEロックした画像データに対して自動補正処理を行います。
- 連続撮影時は、1枚目で補正が固定され、2枚目以降も同じ補正になります。

画像仕上げ機能

FOCUS ISO WB D-R DEC

画像仕上げ機能では、撮影シーンや用途に最適な色調やホワイトバランス、コントラスト、彩度、シャープネスがあらかじめ設定されています。モードダイヤルが「P」、「A」、「S」、「M」のときに、シーンセレクションの効果も使いたいときに便利です。画像仕上げ機能内のコントラスト、彩度、シャープネスは、さらにお好みの状態に調整することができます。

① ファンクションダイヤルとFnボタンで、画像仕上げ画面を表示する（40ページ）。

② 十字キーの◀/▶で、希望の画像仕上げ機能を選ぶ。

③ コントラスト、彩度、シャープネスを設定するときは、▼で調整画面に移動して▲/▼で希望の項目を選び、◀/▶で数値を選ぶ。

④ 中央の実行ボタンを押す。

（✓：お買い上げ時の設定）

✓	Standard（スタンダード）*	さまざまなシーンを豊かな階調と美しい色彩で表現します。
	VIVID（ビビッド）*	青い空、夕焼け、新緑、紅葉など印象に残る風景を深く鮮やかな色彩で表現します。
	Port.（ポートレート）*	人物を引き立たせ、肌を柔らかに再現します。
	Land（風景）*	風景の色味を、鮮やかに、かつシャープに再現します。
	Sun.（夕景）*	夕焼けの赤さを美しく再現します。
	Night（夜景）*	明るい部分は鮮やかに、暗い部分はしまりのある画像が得られます。
	BW（モノクロ）	白黒で撮影されます。
	Adobe（Adobe RGB）	Adobe RGB色空間になります。画像にはICCプロファイルは埋め込まれません。

* sRGB色空間になります（48ページ）。

◑（コントラスト）	コントラスト（明暗差）を－２～＋２の５段階で調整します。＋側にするとコントラストが強くなり、メリハリの効いたくっきりした画像になります。－側にするとコントラストが弱くなり、白い部分が飛んだり黒い部分がつぶれたりすることが少なくなります。 • ゾーン切り替えを設定している場合は、コントラスト設定のみ一時的に0にリセットされ、変更できません。
（彩度）	彩度（色の鮮やかさ）を－２～＋２の５段階で調整します。＋側にすると彩度が強くなり、鮮やかなくっきりした画像になります。－側にすると落ち着いた画像になります。 • 画像仕上げ機能が BW （モノクロ）のときは、設定できません。
（シャープネス）	撮影する画像のシャープネス（鮮鋭度）を－２～＋２の５段階で調整することができます。＋側にすると輪郭が明確に表現され、くっきりとした鮮明な画像になります。－側にすると輪郭のやわらかな画像になります。

• オートホワイトバランス（42ページ）を選ぶと、より効果的な色合いに仕上がります。特に夕景モードのときはオートホワイトバランスをお使いください。

sRGB色空間とAdobe RGB色空間について

sRGB色空間

デジタルカメラの標準となっている色空間です。通常のほとんどの撮影に適しています。平均的なモニターの特性を反映させた色空間なので、ホームページなどWeb表示用の画像を扱う場合にも適しています。

Adobe RGB色空間

Adobe RGB色空間は、sRGBに比べて広い色再現範囲を持っています。プリントを主目的とする撮影、特に鮮やかな緑色や赤色の多い被写体をプリントする場合に効果があります。

• 撮影した画像のファイル名は“_DSC”で始まります（111ページ）。

「Adobe RGB」のカラーマッチングについて

画像の表示やプリントには、「Picture Motion Browser」（付属）などのカラーマネジメントに対応したソフトをお使いください。

「Adobe RGB」で撮影した画像の表示、編集や加工、プリントには、「Picture Motion Browser」など、カラーマネジメントに対応し、DCF2.0オプション色空間に対応したアプリケーションソフトをご利用ください。カラーマネジメント非対応のソフトでは、正しい色で表示やプリントができないことがあります。また、画像を正しい色でプリントするには、プリンターがDCF2.0オプション色空間に対応している必要があります。

フォーカスモード

FOCUS ISO WB D-R DEC

フォーカスフレームとAFモードを設定します。

• オートフォーカスで撮影するときはフォーカスモードスイッチが「AF」になっていることを確認してください。

フォーカスフレーム

ピント合わせの方法を変更します。ピントが合いにくいときなどに使います。

① ファンクションダイヤルとFnボタンでフォーカスモード設定画面を表示する（40ページ）。

② 十字キーの▲でフォーカスフレーム画面を表示する。

③ ◀/▶で、希望のモードを選び、中央の実行ボタンを押す。

（✓：お買い上げ時の設定）

✓	（ワイド）	ワイドフォーカスフレーム内の9つのセンサー（ローカルフォーカスフレーム）のうち、どこをピント合わせに使うかをカメラが自動的に決定します。 • シャッターボタンを半押しすると、ピントの合ったフレームが一瞬点灯します。 • 希望しないフレームにピントが合った場合は、スポットフォーカスフレームに変えることもできます。十字キー中央のスポットAFボタンを押して中央でピントを合わせ、押したままシャッターボタンで撮影してください。

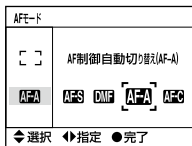
	[■](中央に固定)	常にスポットフォーカスフレームが使われます。 スポットフォーカスフレーム • ファインダーをのぞくと、スポットフォーカスフレームが一瞬点灯します。
	▦(ローカル)	9つのローカルフォーカスフレームから、任意のフレームを選びます。 十字キーを押すと、押した方向のローカルフォーカスフレームでピントが合います(8方向)。中央のスポットAFボタンを押すと、スポットフォーカスフレームでピントが合います。 ローカルフォーカスフレーム スポットフォーカスフレーム • ファインダーをのぞくと、選んだフォーカスフレームが一瞬点灯します。 • 撮影後もフレームは常に切り替えが可能です。不用意に十字キーを押さないようご注意ください。

- 十字キーまたはスポットAFボタンを押し続けている間は、ピントが固定されています。撮影後も押し続けていると、同じピント位置で続けて撮影することができます。
- 多分割測光時は、ピントと同時に露出も固定されます。
- ワイドの場合、十字キーを押してもピントが合います。そのピントで撮影するには、十字キーを押したままシャッターボタンを押してください。十字キーを押す方向とピントの合うフレームとは無関係です。
- 中央に固定の場合、十字キーまたはスポットAF ボタンを押してもピントが合いますが、どこの方向キーを押しても常にスポットフォーカスフレームが選択されます。そのピントで撮影するには、十字キーまたはスポットAFボタンを押したままシャッターボタンを押してください。
- 連続撮影時やシャッターボタンを一気に押し込んだときなど、ローカルフォーカスフレームが点灯しないことがあります。

AFモード

自動ピント合わせ(オートフォーカス)の種類を選びます。

① ファンクションダイヤルとFnボタンでフォーカスモード設定画面を表示する(40ページ)。

② 十字キーの▼でAFモード画面を表示する。

③ ◀/▶で、希望のAFモードを選び、中央の実行ボタンを押す。

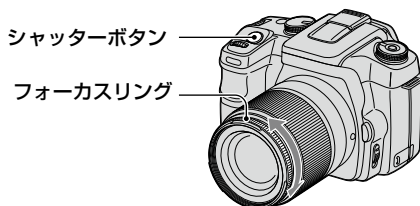
(✓:お買い上げ時の設定)

	AF-S(シングルAF(AF-S))	シャッターボタンを半押しするとピントはそこで固定されます。動きのない被写体を撮影するときに便利です。
	DMF(ダイレクトマニュアルフォーカス)	オートフォーカスでピントを合わせた後、手動でピントの微調整ができます。マクロ撮影時などで意図したものとは違う被写体にピントが合った場合などに便利です。
✓	AF-A(AF制御自動切り替え(AF-A))	被写体の動きに応じて、コンティニュアスAFとシングルAFとが自動的に切り替わります。被写体が動いているときは、シャッターボタン半押し中はピントを合わせ続けます。静止被写体の場合は、シャッターボタン半押しでピント位置を固定(フォーカスロック)します。人物撮影や記念撮影からスナップ、風景写真など幅広いシーンでお使いいただけます。
	AF-C(コンティニュアスAF(AF-C))	シャッターボタンを半押ししている間中、ピントを合わせ続けます。動いている被写体の撮影に便利です。 • ワイドフォーカスフレーム設定時は、被写体が動くと、それに合わせてピントを合わせるフレームも変わります。新たにピントの合ったフレームは赤く点滅します。 • ピントが合ったときのブザー音は鳴りません。

DMF(ダイレクトマニュアルフォーカス)のピントを微調整するには

① [AFモード]の DMF(ダイレクトマニュアルフォーカス)を選ぶ。

② シャッターボタンを半押ししてピントを固定する。

③ シャッターボタンを半押ししたまま、フォーカスリングを回してピントを調整する。

④ シャッターボタンを押し込んで撮影する。

• シャッターボタンから指を離すと、次に半押ししたときに再度ピント合わせが行われます。

フラッシュ設定

FOCUS ISO WB D-R DEC

フラッシュモードと調光補正を設定します。

フラッシュモード

お買い上げ時の設定では内蔵フラッシュを上げると、光量が足りないと判断した場合に自動で発光しますが、フラッシュモードを意図的に変えて撮影することができます。

① ファンクションダイヤルとFnボタンでフラッシュモード画面を表示する(40ページ)。

② 十字キーの▲で、フラッシュモード画面を表示する。

③ ◀/▶で、希望のモードを選び、中央の実行ボタンを押す。

• 撮影情報画面のフラッシュ表示は、フラッシュが上がっているときのみ現れます。

（✓：お買い上げ時の設定）

✓	AUTO（自動発光）	光量不足/逆光と判断したとき発光する。 • モードダイヤルが「A」、「S」、「M」のときは選べません。
	⚡（強制発光）	内蔵フラッシュを上げていれば必ず発光する。
	REAR（後幕シンクロ）	通常発光では、シャッターが開いた直後にフラッシュが発光し、その後にフラッシュ光以外で照らされた部分が写ります。そのため、シャッタースピードが遅い場合には、光の流れなどが不自然に写ることがあります。 後幕シンクロでは、先にフラッシュ光以外で照らされた部分が写り、最後にフラッシュが発光します。動いている被写体を低速のシャッタースピードでフラッシュ撮影するときに用いると、光の流れや被写体の軌跡をより自然に描写することができます。
	WL（ワイヤレス）	内蔵フラッシュで撮影したり外部フラッシュ（別売）をカメラの上に取り付けて撮影すると、平面的な写真になることがあります。このような場合にフラッシュをカメラから取りはずして離して撮影すると、フラッシュの位置を工夫することで、陰影を付けて立体感を出すことができます。 一般的にこのような撮影をする場合はカメラとフラッシュをコードで接続しなければならないことが多いのですが、本機ではコードがなくてもこのような撮影ができます。これは、カメラとフラッシュの信号の伝達をコードではなく、フラッシュの光を利用して行うことができるからです。この撮影をワイヤレスフラッシュ撮影といいます。露出は適正露出になるよう自動調整されます。 • ワイヤレスフラッシュ撮影には、フラッシュ（別売）HVL-F56AM、HVL-F36AMのいずれかが必要です。

ワイヤレスフラッシュ撮影を行うには

① 外部フラッシュを本機に取り付け（145ページ）、本機とフラッシュの電源を入れる。

② フラッシュモードの WL（ワイヤレス）を選ぶ。

③ フラッシュを本機から取りはずし、本機の内蔵フラッシュを上げる。
ファインダーと液晶モニターに「WL」が表示されます。

④ カメラとフラッシュの位置を決める。

⑤ 本機の内蔵フラッシュとフラッシュの充電完了を確認する。
- 内蔵フラッシュは、ファインダー内の ⚡ が点灯すれば充電完了です。
- フラッシュは、後面の ⚡ が点灯して前面の赤いランプが点滅すれば充電完了です。

⑥ 本機のAEL（AEロック）ボタンを押して、フラッシュが発光することを確認する（テスト発光）。
- 発光しない場合は、本機とフラッシュ、被写体の配置場所を変えてください。

⑦ もう一度両方のフラッシュの充電完了を確認し、シャッターボタンを押し込んで撮影する。

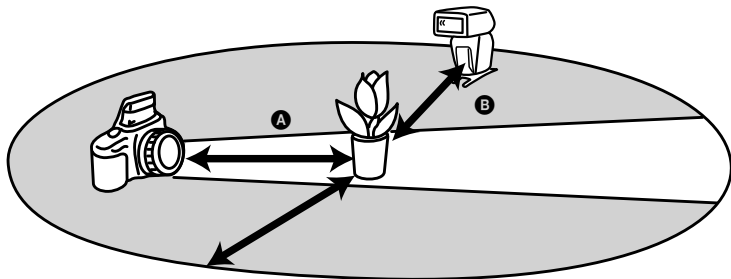
- ワイヤレスフラッシュ撮影後は、ワイヤレスフラッシュを解除しておいてください。（カメラとフラッシュを別々に解除する、フラッシュをカメラに取り付けてワイヤレス以外に設定する（52ページ）のどちらの方法でも可能。）ワイヤレスフラッシュ設定のまま内蔵フラッシュで撮影しても、適正露出は得られません。
- フラッシュとカメラを別々にワイヤレス設定することもできます。カメラは52ページの方法で、フラッシュはフラッシュの取扱説明書をご覧ください。

AEL（AEロック）ボタンの機能と操作を変更している場合

ワイヤレスフラッシュご使用の際には、⚙ カスタムメニューの[AELボタン]（91ページ）を、[押す間AEL]または[押す間スポットAEL]に設定しておくことをおすすめします。

ボタンから指を離してもその機能が残る設定（再押しAEL/再押しスポットAEL）の場合、ファインダーと液晶モニターに「AEL」が点灯している間は、スローシンクロ撮影になります。またテスト発光のたびに、スローシンクロ撮影とそうでない状態とが切り替わります。

カメラとフラッシュの位置について

本機は内蔵フラッシュの発光を信号として、カメラから離したフラッシュを発光させせます。信号が正しく受け取れるよう、以下の点に気をつけてください。
- 室内など暗いところで撮影してください。
- 下図の灰色の部分にフラッシュを設置してください。

A：カメラと被写体の距離
B：フラッシュと被写体の距離
被写体の真後ろにフラッシュを置かないでください

ワイヤレスフラッシュ調光距離（ISO 100時）

	カメラと被写体の距離 A	フラッシュと被写体の距離 B HVL-F56AM使用時			フラッシュと被写体の距離 B HVL-F36AM使用時		
シャッタースピード / 絞り値	全シャッタースピード	同調速度以下	1/250秒	1/1000秒	同調速度以下	1/250秒	1/1000秒
F2.8	1.4－5 m	1－5 m	1－5 m	1－2.5 m	1－5 m	1－4 m	1－2 m
F4	1－5 m	1－5 m	1－3.5 m	1－1.7 m	1－5 m	1－3 m	1－1.5 m
F5.6	1－5 m	1－5 m	1－2.5 m	1－1.2 m	1－5 m	1－2 m	

- 同調速度は、手ぶれ補正オン時で1/125秒、オフ時で1/160秒です。
- ISO 400の場合は、遠い側が上記の値の2倍になります（上限は5mです）。

ワイヤレスフラッシュのチャンネルについて

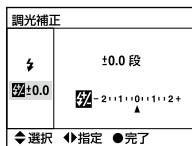
ワイヤレスフラッシュを設定すると、設定すると同時にフラッシュのチャンネル情報がカメラに転送されます。撮影会などで近くに別にワイヤレスフラッシュ撮影をしている人がいて、その人の内蔵フラッシュの信号光でお使いのフラッシュが発光してしまうような場合は、フラッシュのチャンネルを変更してください。

チャンネルの変更について詳しくは、フラッシュの取扱説明書をご覧ください。

調光補正

フラッシュ撮影の際、露出補正とは別に、フラッシュの発光量だけを調整することができます。フラッシュ光の届かない背景の露出はそのままで、フラッシュ光が届く主被写体だけの露出を変えることができます。

① ファンクションダイヤルとFnボタンでフラッシュモード画面を表示する（40ページ）。

② 十字キーの▼で、調光補正画面を表示する。

③ ◀/▶で、希望の補正値を選び、中央の実行ボタンを押す。

（✓：お買い上げ時の設定）

	～＋2.0段	＋側：発光量を増やす。
✓	0段	本機が自動調節した発光量
	～－2.0段	－側：発光量を減らす。

各種機能の説明（撮影）

- 1/3段ごとに設定できます。
- 内蔵フラッシュを上げると、設定した調光補正値が液晶モニターの測光インジケーターの下側に表示されます。
- シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内に 🅆 が表示されます。
- 内蔵フラッシュで調光補正を行う場合、フラッシュの光量が限られているため、被写体がフラッシュ光の最大到達距離（調光距離）付近にあるときは、オーバー側（＋側）の効果が出ないことがあります。また、近接撮影ではアンダー側（－側）の効果が出ないことがあります。

露出補正と調光補正の違い

露出補正では、シャッタースピード・絞り値・ISO感度（AUTOの場合）が変化することによって補正が行われます。フラッシュが発光する場合は、フラッシュの発光量も同時に変化*します。

一方、調光補正では、フラッシュの発光量のみが変化します。写真全体に対するフラッシュ光の影響を相対的にコントロールすることができます。例えば、フラッシュ光を少なめに仕上げたいときは、調光補正をややアンダー側（－側）に設定しておき、同時に露出補正をオーバー側（＋側）にかけて全体の明るさを調整する、といった使いかたができます。

* 露出補正をかけてもフラッシュの発光量を変化させないようにすることもできます（93ページ）。

測光モード設定

FOCUS ISO WB D-R DEC

測光モード（カメラが被写体の明るさを測る方法）を3通りの中から選ぶことができます。

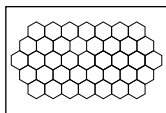
① ファンクションダイヤルとFnボタンで、測光モード画面を表示する（40ページ）。

② 十字キーの◀/▶で、希望の測光モードを選び、中央の実行ボタンを押す。

（✓：お買い上げ時の設定）

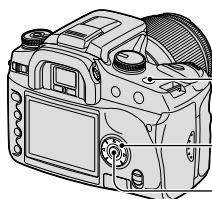
✓	（多分割測光）	画面全体を40分割して測光します（40分割ハニカムパターン測光）。
	（中央重点平均測光）	画面の中央部に重点をおきながら、全体の明るさを平均的に測光します。逆光時や被写体が画面中央にない場合などは、露出補正が必要になります（63ページ）。
	（スポット測光）	中央部のスポット測光サークル内のみで測光を行います。コントラストの大きい被写体や、画面のある特定の部分だけを測光するのに適しています。測光したい部分が画面中央にないときは、AEロック撮影をしてください（65ページ）。 **スポット測光サークル** 被写体をここに合わせる

多分割測光（40分割ハニカムパターン測光）について

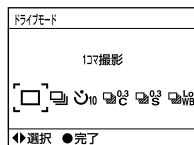
画面全体を40分割して測光します。画面内には、39個のハニカム（ハチの巣）形状の測光素子と、その周囲との合計40個の測光素子が配置されています。これらの素子はオートフォーカスと連動しており、画面内のどこに被写体があってもカメラがその位置と明るさを的確に判断し、露出を決定します。人の目で見た感じにいちばん近く撮れる測光方式で、逆光撮影を含む一般撮影に適しています。

- 多分割測光（40分割ハニカムパターン）では、シャッターボタンを半押しして、ピントが固定されると、露出（シャッタースピードと絞り値）も同時に固定されます（オートフォーカスでAFモードが AF-S （シングルAF（AF-S））または AF-A （AF制御自動切り替え（AF-A））の場合のみ）。

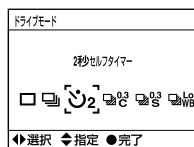
⏲/ ▣ ドライブボタンを使う

⏲/ ▣（ドライブ）ボタンの使いかた

⏲/ ▣（ドライブ）ボタンで、連続撮影、セルフタイマー、ブラケット（露出ずらし）撮影、ホワイトバランス（WB）ブラケット撮影ができます。

1 **⏲/ ▣（ドライブ）ボタンを押す。**

2 **十字キーの◀/▶で、設定したいドライブモードを選ぶ。**

- 十字キーの◀/▶のかわりに、コントロールダイヤルを回しても選択できます。

3 **十字キーの▲/▼で、希望の設定を選ぶ。**

- 1コマと連続撮影の場合、この手順は不要です。

4 **十字キー中央の実行ボタンを押して設定を完了する。**

- 実行ボタンのかわりに、⏲/ ▣（ドライブ）ボタンやシャッターボタンを半押ししても設定が確定します。

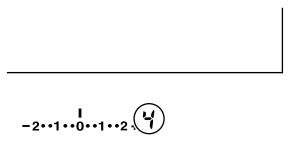
（✓：お買い上げ時の設定）

✓	□	1コマ撮影 • 他のドライブモードの設定解除も行います。
	⧉	連続撮影（下記）
	◌10 ◌2	セルフタイマー（60ページ）
	BKT 0.3 C BKT 0.7 C	連続ブラケット（60ページ）
	BKT 0.3 S BKT 0.7 S	1コマブラケット（61ページ）
	BKT Lo WB BKT Hi WB	ホワイトバランスブラケット（62ページ）

連続撮影する

シャッターボタンを押し続けている間、毎秒最高約3コマ*の速度で連続して撮影します。

* 弊社測定条件による：[画像サイズ]が[L：10M]、[画質]が[ファイン]、マニュアルフォーカス、シャッタースピード1/250秒以上。

• ファインダー内に、連続して撮影できる最大コマ数が表示されます。メモリー容量（一時的に画像を蓄えておく領域の容量）の関係上、続けて撮影して数が減っても、撮影データの記録メディアへの保存が終了すれば、コマ数は元に戻ります。

• 内蔵フラッシュが発光するときは、フラッシュの充電が完了してから撮影されます。

• [AFモード]が AF-C（コンティニュアスAF（AF-C））または AF-A（AF制御自動切り替え（AF-A））のときは、1コマごとにピントが変わります。 AF-S（シングルAF（AF-S））は1コマ目で固定されます。

• アフタービューは最後に撮影された画像のみが表示されます。

• 連続撮影の枚数には上限があります。

最大連続撮影枚数

ファイン/スタンダード	制限なし* （カード容量まで）
RAW＋JPEG	3コマ
RAW	6コマ

* [画像サイズ]が[M：5.6M]、[S：2.5M]の場合、4コマ目以降は連続撮影の速度が若干遅くなります。

• これらの値は記録メディアの書き込み速度や撮影条件などにより異なるので、あくまでも目安です。

操作方法は58ページ

セルフタイマーで撮る

シャッターボタンを押してから、約10秒後または2秒後に撮影されます。10秒セルフタイマーは撮影者も一緒に写真に入るときに、2秒セルフタイマーはミラーが先に上がるので、シャッターボタンを押す際のカメラぶれを和らげるのに便利です。

被写体にピントが合っているのを確認してから、シャッターボタンを押す。

（✓：お買い上げ時の設定）

✓	**(10秒セルフタイマー)**	シャッターボタンを押してから10秒後に撮影する。
	(2秒セルフタイマー)	シャッターボタンを押してから2秒後に撮影する。

- 10秒セルフタイマーの場合、作動中は、本機前面のセルフタイマーランプが点滅し、直前には点灯します。また、後面の液晶モニターのセルフタイマー表示が反転します。ブザー音でもお知らせします。
- 作動中の10秒セルフタイマーを止めるには、/ (ドライブ)ボタンを押してください。POWERスイッチを「OFF」にする、または撮影が終わると、セルフタイマーモードが解除されます。2秒セルフタイマーは途中で止められません。
- カメラの後ろに明るい光源や反射物などがあり、かつファインダーをのぞかずにシャッターボタンを押す場合は、ファインダーから光が入って露出に影響するのを防ぐため、ストラップに付いているアイピースカバーを付けてください（38ページ）。

最適な露出を探すーブラケット

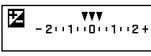
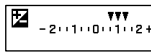
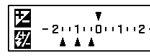
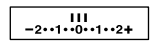
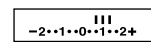
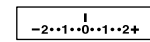
厳密な露出を要求される撮影では、適正露出での撮影以外に、少し露出をずらして何枚か撮影することがあります。本機では、それらの撮影が自動ででき、計3コマの画像が記録されます。

適正露出　ーに補正　＋に補正

連続ブラケット

（✓：お買い上げ時の設定）

✓	**(連続ブラケット0.3段)**	露出値を上下に0.3段ずつずらして連続して撮影する。撮影が終わるまでシャッターボタンを押し続けてください。
	(連続ブラケット0.7段)	露出値を上下に0.7段ずつずらして連続して撮影する。撮影が終わるまでシャッターボタンを押し続けてください。

1コマブラケット

（✓：お買い上げ時の設定）

✓	(1コマブラケット0.3段)	露出値を上下に0.3段ずつずらして1枚ずつ撮影する。1コマずつシャッターボタンを押してください。
	(1コマブラケット0.7段)	露出値を上下に0.7段ずつずらして1枚ずつ撮影する。1コマずつシャッターボタンを押してください。

- フラッシュが発光する場合は、設定にかかわらず、1コマずつシャッターボタンを押して撮影してください。
- 撮影は、0（適正）、－、＋の順に行われます。撮影メニューの[ブラケット順序]で変更もできます(84ページ)。
- 基準となる露出値は、ブラケット1コマ目で固定されます。露出補正をかけると、基準値が移動します。
- ピント位置は、通常は撮影のたびに変わります。連続ブラケット撮影で、AFモードが AF-S（シングルAF（AF-S））または AF-A（AF制御自動切り替え（AF-A））で被写体が静止している場合のみ、ピント位置は固定されます。
- フラッシュが発光しない場合は、定常光*ブラケット撮影となり、シャッタースピードと絞り値が変化してブラケット撮影が行われます。フラッシュが発光する場合は、フラッシュブラケット撮影となり、フラッシュ光が変化します。
- 定常光ブラケット撮影では、プログラムオートモードではシャッタースピードと絞り値、絞り優先モードではシャッタースピード、シャッタースピード優先モードでは絞り値が変化します。マニュアルモードでは通常はシャッタースピードが変化しますが、AEL（AEロック）ボタンを押しながら撮影すると絞り値が変化します。

* 定常光：自然光や電球・蛍光灯など、フラッシュ光以外の総称。フラッシュ光が一瞬だけ光るのに対し、常に一定して存在する光なのでこう呼ばれる。

ブラケット撮影時の測光インジケーター

ブラケット撮影にすると、測光インジケーター表示が変わります。

	定常光ブラケット 段数0.3段 露出補正±0.0段	定常光ブラケット 段数0.3段 露出補正＋1.0段	フラッシュブラケット 段数0.7段 調光補正－1.0段
液晶モニター	–2··1··0··1··2+ （上段に表示）	–2··1··0··1··2+ （上段に表示）	–2··1··0··1··2+ （下段に表示）
ファインダー	–2··1··0··1··2+	–2··1··0··1··2+	–2··1··0··1··2+

- 定常光ブラケットの測光インジケーターは、ファインダー内にも表示されます。フラッシュブラケットは表示されません。
- ブラケット撮影を開始すると、撮影済みの指標が順に消えて行きます。
- 「1コマブラケット」の場合、シャッターボタンを半押し後に指を離すと、ファインダー内に、定常光ブラケットの場合は「br 1」、フラッシュブラケットの場合は「Fbr 1」の表示が現れます。撮影を開始すると、「br 2」「br 3」などと次のコマが何コマ目かが表示されます。

ホワイトバランスブラケット撮影

選択されているホワイトバランス・色温度/CCフィルターの値を基準に、色温度を自動的にずらして3枚の写真を撮影します。1回の撮影で、「基準のホワイトバランスの画像」→「－側（青みがかった画像）」→「＋側（赤みがかった画像）」の順で、計3コマの画像が記録されます。

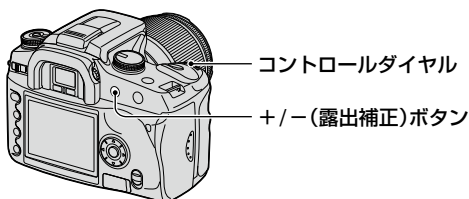
（✓：お買い上げ時の設定）

✓	（WBブラケット弱）	ホワイトバランスを10ミレッド*ずらして撮影する。
	（WBブラケット強）	ホワイトバランスを20ミレッド*ずらして撮影する。

* ミレッド：色温度変換フィルターの色温度変換能力を示すために用いられる単位

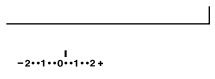
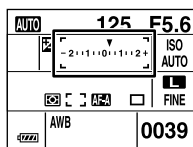
- アフタービューは、最後に記録された画像のみが表示されます（81ページ）。

⊕ 露出補正する

本機が決定した露出を手動で変えることができます。被写体と背景のコントラスト（明暗の差）がきわめて大きい場合など、適正な露出が得られないときに使用します。

＋/－（露出補正）ボタンを押し、コントロールダイヤルを回し希望の数値を選ぶ。

－方向　＋方向

＋側：画像が明るくなる。
0：本機が自動設定した露出。
－側：画像が暗くなる。

露出補正値は、液晶モニターとファインダー内の測光インジケーターに表示されます。

- 露出について→13ページ
- ±2.0の範囲で、1/3段ごとに設定できます。
- 露出補正の結果は、再生画像のヒストグラム（輝度分布）表示で確認することができます（72ページ）。

撮影のテクニック

撮影時、本機は自動で露出を設定しています。

逆光の人物や雪景色などのように全体が白っぽい被写体を撮影すると、本機が明るいと判断して、露出が暗めになることがあります。その場合は＋方向に補正すると効果的です。

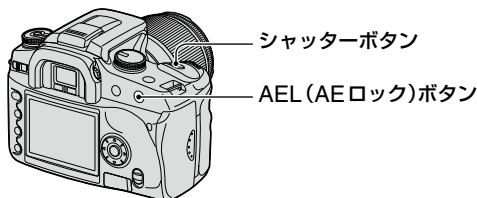
＋方向に補正

また、画面いっぱいに黒い被写体を撮影するときは、本機が暗いと判断して、露出が明るめになることがあります。その場合は－方向に補正すると効果的です。

－方向に補正

どの明るさが良いかは好みによるので、露出を変えていろいろな画像を試してみましょう。

(AEL) 露出を固定する(AEロック撮影)

露出を先に決めてから撮りたい構図にして撮影できます。測光したいものとピントを合わせたいものが異なる場合や、露出を一定に保ったまま連続撮影したい場合などに有効です。

① 測光したい状態にカメラを構える。
- ピントを合わせておいてください(固定させる必要はありません)。

② AEL(AEロック)ボタンを押す。
- ファインダー内と液晶モニターの「AEL」*が点灯し、露出値がロック(固定)されていることをお知らせします。

* AEL:Auto exposure lockの略

③ AEL(AEロック)ボタンを押したまま、必要なら構図を変え、シャッターボタンを押して撮影する。

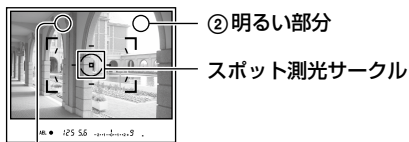
- 撮影後もAEL(AEロック)ボタンを押し続けていると、同じ露出で連続して撮影できます。指を離すと解除されます。
- シャッタースピード優先/マニュアルモード以外でのフラッシュ発光時は、スローシンクロ制御となりAEロックされます(67ページ)。
- AEL(AEロック)ボタンから指を離しても露出値が固定されたままになるように(押し続けなくてもいいように)することができます(91ページ)。
- どの測光モードを選択していても、AEL(AEロック)ボタンを押すと一時的にスポット測光で露出が固定される(スポットAEL)ようにすることもできます(91ページ)。

AEL(AEロック)ボタンを押したときの測光インジケーターについて

AEL(AEロック)ボタンを押して露出を固定すると、固定された露出値を基準値(0)として、構図を変えた後のスポット測光サークル内の測光値が、測光インジケーターに表示されます。画面内の複数エリアの明るさの違いを知ることができます。

- 基準値に対してスポット測光サークル内の測光値が±2段を越すとインジケーターの端で ◁▷ が点灯し、さらに差が開くと点滅します。

例：下の場面で構図を決めてAEL（AEロック）ボタンを押した場合

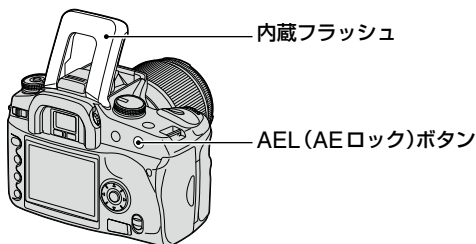
②明るい部分

スポット測光サークル

①やや暗めの部分

AEL（AEロック）ボタンを押すと、インジケーターは以下の通りになります。

	AEL（AEロック）ボタンを押す。 →	AEL（AEロック）ボタンを押したまま①に構図を合わせる。	AEL（AEロック）ボタンを押したまま②に構図を合わせる。
多分割/中央重点測光	固定された露出値 −2••1••0••1••2 + スポット測光サークル内の測光値はAELボタンでロックされた値よりも−0.3段（構図を変えると連動して変化）	①に合わせると、①の測光値が表示されます。固定された露出値（0）はそのままです。 −2••1••0••1••2 + ①の測光値はAELボタンでロックされた値よりも−1.3段（構図を変えると連動して変化）	②に合わせると、②の測光値が表示されます。ここでは②が白くとんでしまうことが分かります。 −2••1••0••1••2 +
スポット測光	−2••1••0••1••2 + 固定された露出値＝スポット測光サークル内の測光値	①に合わせると、①の測光値が表示されます。固定された露出値（0）はそのままです。 −2••1••0••1••2 + ①の測光値はAELボタンでロックされた値よりも−1.0段（構図を変えると連動して変化）	

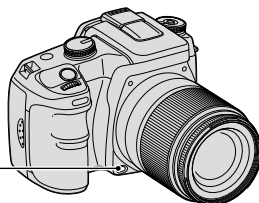
(AEL) スローシンクロ撮影(夜景を背景にしたフラッシュ撮影)

夜景を背景にして記念撮影する場合、通常のフラッシュ撮影では手前の人物はきれいに写りますが、フラッシュの届かない背景は黒くつぶれてしまいます。このような場合、スローシンクロ撮影(シャッタースピードの遅いフラッシュ撮影)をすると、人物も背景もきれいに撮ることができます。

① 内蔵フラッシュを上げる。

② AEL(AEロック)ボタンを押しながら撮影する。
ファインダー内と液晶モニターの「AEL」が点灯し、露出値がロック(固定)されていることをお知らせします。

- シャッタースピードが遅くなりますので、三脚の使用をおすすめします。
- フラッシュが発光しないときにAEL(AEロック)ボタンを押しながら撮影すると、露出が固定されます(65ページ)。
- シャッタースピード優先/マニュアルモードでは、AEL(AEロック)ボタンによるスローシンクロ撮影はできません。
- AEL(AEロック)ボタンから指を離してもスローシンクロ撮影のままになるように(押し続けなくてもいいように)することもできます(91ページ)。

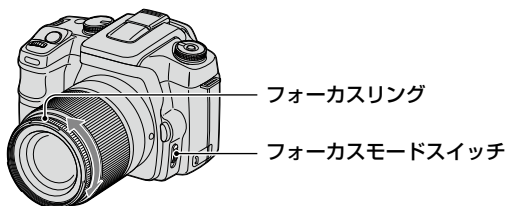
プレビュー（絞り込み）

ファインダーには絞りが一番開いた状態の像が見えています。絞りが異なると被写体のぼけ具合いも変わるため、ファインダーで見えるぼけ具合いと実際の写真のぼけ具合いとは異なります。プレビュー機能を使うと、実際の撮影のときの絞りまで絞り込まれるので、撮影前におおよその被写体のぼけ具合いを確認することができます。

ピントを合わせた後、プレビュー（絞り込み）ボタンを押す。
押している間、表示されている絞り値まで絞りが絞り込まれます。

- 絞りとぼけ具合いについて→絞り優先モード（32ページ）
- 絞りを閉じる（絞り値を大きくする）ため、ファインダー内の画像は暗くなります。
- プレビュー中に絞り値を変更することもできます。

- ピントを固定させずにプレビュー（絞り込み）ボタンを押した状態では撮影できません。ファインダー内に●が点灯した状態で、プレビュー（絞り込み）ボタンを押してください。
- フォーカスホールドボタン付きレンズ使用時には、フォーカスホールドボタンでプレビューを行うようにすることができます（91ページ）。

手動でピントを合わせる（マニュアルフォーカス）

オートフォーカスが効きにくいときは、手動でピントを合わせると便利です。

① フォーカスモードスイッチを「MF」*にする。

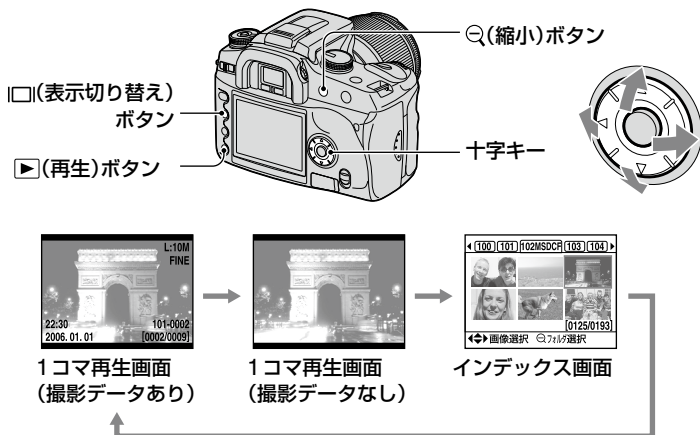
* MF：Manual focus（マニュアルフォーカス）の略

② レンズのフォーカスリングを左右に回して、被写体が最もはっきり見えるようにする。

- オートフォーカスでピントが合うような被写体の場合は、ピントが合うとファインダー内のフォーカス表示●が点灯します。ワイドフォーカスフレーム時は中央のフレームが、ローカルフォーカスフレーム時は十字キーで選んだフレームが使用されます。
- 本機では、マニュアルフォーカス時でもより安定した露出が得られるよう、露出の決定に距離情報を利用しています。距離情報の精度を高めるため、POWERスイッチを「ON」にすると、ピントがいったん無限遠位置（∞）にリセットされます。

再生画面を切り替える

再生中は、|□|（表示切り替え）ボタンを押すたびに、インデックス画面と1コマ再生画面が切り替わります。

1コマ再生画面（撮影データあり）　1コマ再生画面（撮影データなし）　インデックス画面

インデックス画面（タブブラウズ）

フォルダごとに6コマ分の画像を一度に液晶モニターに表示します（タブブラウズインデックス）。十字キーの▲/▼/◀/▶でコマの移動ができます。見たい画像をすばやく探したいときに便利です。

• フォルダごとではなく、すべてまとめて表示することもできます。4コマ、9コマ、16コマから選べます（87ページ）。

フォルダを選ぶには

① （縮小）ボタンでフォルダ名を反転させる。

② 十字キーの◀/▶で希望のフォルダを選ぶ。

③ （縮小）ボタンで画像領域に移動し、▲/▼/◀/▶で希望の画像を選ぶ。

フォルダごと画像を消去する

タブブラウズで画像を表示している場合、フォルダごと画像を消去することができます。

① 十字キーの◀/▶で、消去したいフォルダを選ぶ。

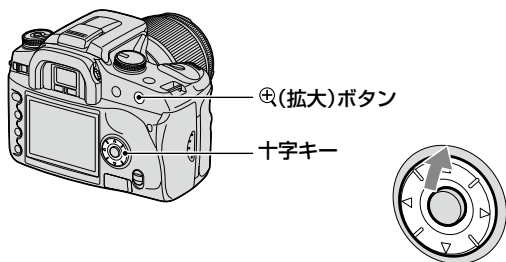
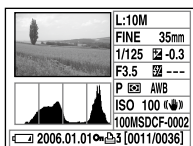
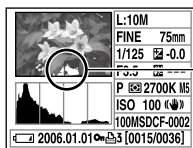
② 🗑（消去）ボタンを押す。
「このフォルダとフォルダ内の全コマを消去しますか？」というメッセージが表示されます。

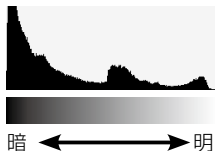
③ ◀で「はい」を選び、中央の実行ボタンを押す。
選んだフォルダが消去されます。

- この後、続けてフォルダを消去することもできます。
- 🔧 セットアップメニューで「はい」を先に選択した状態にすることもできます（102ページ）。
- コマを選択して消去するときは85ページをご覧ください。

- 大量の画像を消去すると、長時間かかることがあります。パソコンで画像を消去するか、カメラでのフォーマットをおすすめします。
- 1度消去した画像は元に戻せません。
- プロテクトされている画像は消去できません。
- フォルダ選択で選んでいる撮影フォルダを消去した場合は、🔧 セットアップメニューの[フォルダ選択]で、撮影フォルダを選択してください（100ページ）。

ヒストグラム（輝度分布）を表示する

画像のヒストグラム（輝度分布）と撮影データを表示できます。

1コマ再生時に、十字キーの▲を押すとヒストグラム表示になります。再度▲を押すと元に戻ります。

- ◀/▶で画像の選択ができます。
- (拡大)ボタンを押すと画像を拡大できます。

画像に白とびまたは黒つぶれの箇所が存在する場合、ヒストグラム画面の画像の該当箇所が点滅します（白とび黒つぶれ警告）。

ヒストグラムについて

ヒストグラムとは輝度分布のことで、どの明るさの画素がどれだけ存在するかを表します。本機のヒストグラム表示は、横軸が明るさ（左端が黒、右端が白）、縦軸が画素数を表しています。露出補正をかけると、ヒストグラムもそれに応じて変化します。下はその一例です。

画素について→14ページ

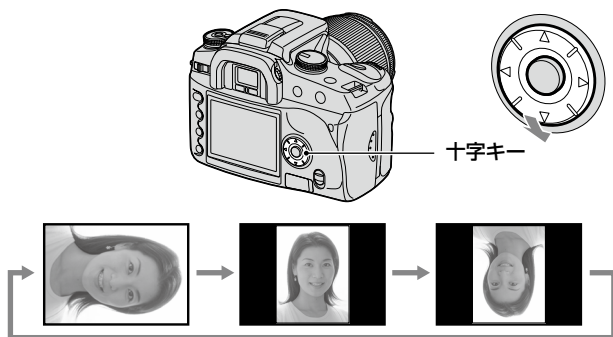
＋側に露出補正をかける

＋側に露出補正をかけて撮影すると、画面全体が明るくなるので、ヒストグラムが全体に明るい方（右側）にずれます。－側だと逆にずれます。

ヒストグラムの左右両端には、黒または白100％のデータ* しか存在しません。よって後でパソコンに取り込んで補正しても、つぶれた部分の再現は不可能だということになります。ヒストグラムを確認することにより、このような画像の状態を前もって知ることができます。

* 正確にはカラー画像の場合RGBで表されるので、白はR255、G255、B255、黒はR0、G0、B0

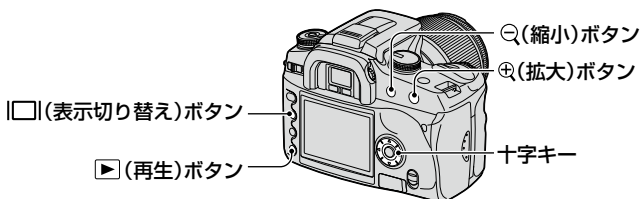
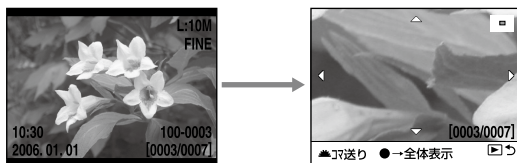
画像を回転する

画像を回転します。

① 回転させたい画像を1コマ再生で表示する。

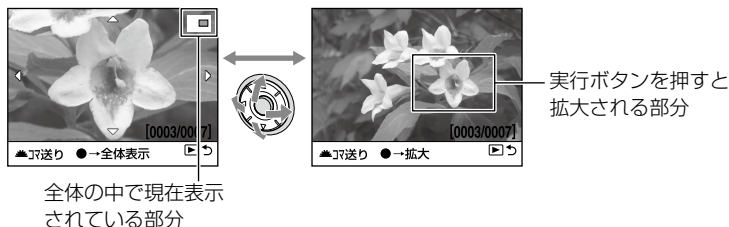
② 十字キーの▼を押すたびに、上記のように回転します。

- いったん回転させた後、別のコマを表示させたりカメラの電源を切っても再びそのコマを再生すると、回転された状態で再生されます。
- パソコンに取り込んだ画像は、「Picture Motion Browser」（付属）では、正しく回転された状態で表示されます。使用するソフトウェアによっては回転していない状態で表示されることがあります。
- 書き込み禁止になっている記録メディアを使っても回転はできますが、再びそのコマを再生しても回転前の状態で再生されます。

画像を拡大する

画像再生中に、画像の一部を拡大できます。

① 1コマ(またはインデックス)再生中に(拡大)ボタンを押す。
画面中央部分が拡大されます。

- (拡大)ボタン、(縮小)ボタンで、拡大倍率を変更できます。

② 十字キーの▲/▼/◀/▶で、拡大する場所を選ぶ。

- コントロールダイヤルを回すと、コマの選択ができます。
- 十字キー中央の実行ボタンを押すたびに、拡大再生画面と全体表示画面が交互に表示されます。

③ (再生)ボタンを押すと、拡大再生を終了し、1コマ再生(またはインデックス再生)に戻る。

拡大倍率範囲は下記の通りです(倍率は表示されません)。

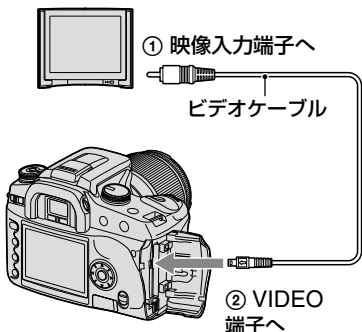
画像サイズ	拡大倍率範囲
L:10M	約1.1～12倍
M:5.6M	約1.1～9倍
S:2.5M	約1.1～6倍

- (表示切り替え)ボタンを押すと、拡大再生中の画面内の表示を消すことができます。

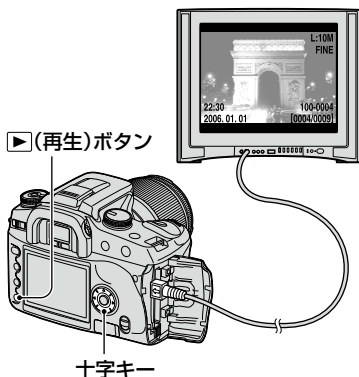
テレビで見る

本機とテレビをつないで、撮影した画像をテレビで見ることができます。

本機とテレビの電源を切った状態で接続してください。

1 本機とテレビを接続する。

2 テレビの電源を入れ、テレビ/ビデオ切り替えスイッチを「ビデオ」にする。

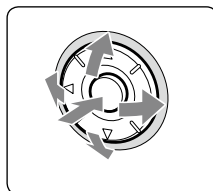
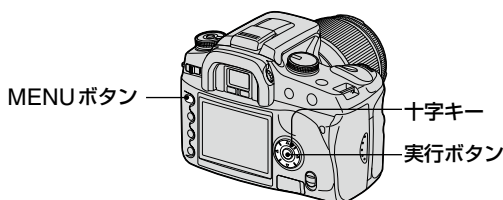
- 詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

3 本機の電源を入れ、▶(再生)ボタンを押す。

撮影した画像がテレビに表示される。

十字キーの◀/▶で画像を選ぶ。

- 海外で見るときは[ビデオ出力]の切り替えが必要な場合があります(97ページ)。

- Adobe RGBで撮影した画像を、本機やAdobe RGB(DCF2.0/Exif2.21)に対応していない液晶モニターやテレビなどのsRGB環境下で再生すると、低彩度な画像になります。
- カメラ後面の液晶モニターは点灯しません。
- テレビに映る画像はパソコンの画像と比べると、システムの違いにより画質が多少劣化します。

メニューの使いかた

1 電源を入れる。

2 MENUボタンを押し、メニューを表示する。

3 十字キーの◀/▶で、設定するメニューを選び、中央の実行ボタンを押す。

撮影メニュー　カスタムメニュー
再生メニュー　セットアップメニュー

- すでに希望のメニューになっている（左側に表示されている）ときは、この操作は不要です。

選択中のメニュー　選択されていないメニュー

1 2	
画像サイズ	L: 10M
画質	ファイン
アフタービュー	2秒
ノイズリダクション	あり
アイスタートAF	あり

MENU

4 十字キーの◀/▶で、各メニューのページを選ぶ。

1 2	
消去	–
フォーマット	–
プロテクト	–
インデックス画面	タブブラウズ

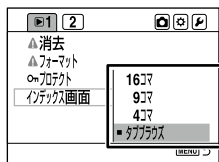
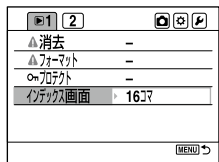
MENU

5 十字キーの▲/▼で、希望の項目を選ぶ。

1 2	
消去	–
フォーマット	–
プロテクト	–
インデックス画面	タブブラウズ

MENU

6 十字キーの▶で、設定内容を表示させる。

- ◀で元に戻ります。

7 十字キーの▲/▼で、希望の設定を選び、中央の実行ボタンを押す。

8 MENUボタンを押し、メニュー表示を消す。

- シャッターボタンの半押しでも戻ります。

- メニューの設定では、十字キーの◀/▶の代わりに、コントロールダイヤルを回しても左右に移動します。
- 設定中にMENUボタンを押すと、設定が中断され、撮影(または再生)モードに戻ります。
- メニューを表示したときに、前回選択したメニューが最初にくるようにすることもできます(101ページ)。

メニュー一覧

操作方法は77ページ

撮影メニュー（80ページ～84ページ）

1	2
画像サイズ 画質 アフタービュー ノイズリダクション アイスタートAF	赤目軽減発光 調光モード フラッシュモード初期値 ブラケット順序 撮影モードリセット

再生メニュー（85ページ～90ページ）

1	2
消去 フォーマット プロテクト インデックス画面	スライドショー DPOF指定 • 日付プリント • インデックスプリント • 取り消し

カスタムメニュー（91ページ～96ページ）

1	2
フォーカス/レリーズ優先 フォーカスフォールドボタン AELボタン コントロールダイヤル設定 露出補正の効果 AF補助光	カードなしレリーズロック レンズなしレリーズロック AFフレーム投光時間 モニター自動消灯 撮影情報画面 撮影構図（縦横）

セットアップメニュー（97ページ～103ページ）

1	2	3
モニター明るさ USB接続 ビデオ出力 ブザー音 日時設定	ファイルNo.メモリー • リセット フォルダ形式 フォルダ選択 • 新規作成	撮影情報表示 パワーセーブ メニュー呼び出し先 消去確認画面 クリーニングモード 設定値リセット

撮影メニュー1

☞ 操作方法は77ページ

お買い上げ時の設定は ✓ で示しています。

画像サイズ

詳しくは14ページをご覧ください。

✓	L：10M	3872×2592画素の集合
	M：5.6M	2896×1936画素の集合
	S：2.5M	1920×1280画素の集合

- 画像サイズを変更した場合の撮影枚数については24ページをご覧ください。
- [画質]を[RAW]または[RAW＋JPEG]にすると、画像サイズは[L：10M]で固定されます。

画質

画像の圧縮率によって画質が決まります。画像を圧縮しないとデータ量（14ページ）が多くなるため、デジタルカメラでは画像を圧縮して記録する方法が一般的です。

	RAW（RAW）	ファイル形式：RAW（生データ） より専門的な用途に合わせてパソコンで加工を行うための素材となる形式です。CD-ROM（付属）内の「Image Data Converter SR」で開くことができます（118ページ）。 • 画像サイズは常に[L：10M]で固定されます。液晶モニターには画像サイズは表示されません。
	RAW+JPEG（RAW+）	ファイル形式：RAW（生データ）＋JPEG 一度シャッターボタンを押すと、上記RAW画像とJPEG画像が同時に作成されます。閲覧用にはJPEG画像、編集用にはRAW画像というように、両方の画像を作成したい場合に便利です。JPEG画像の画像サイズは[L：10M]、画質は[ファイン]に固定されます。
✓	ファイン（FINE）	ファイル形式：JPEG 画像がJPEG形式で圧縮されて記録されます。圧縮率が大きくなるほどデータ量は少なくなり、1枚の記録メディアに記録できる枚数が増えますが、画質は劣化します。 いったん劣化した画質を撮影後にパソコンなどで復元することはできませんので、後で画像の加工や編集を行う場合、画質設定は慎重に行ってください。
	スタンダード（STD.）	

- 画質について→14ページ
- 画質を変更した場合の撮影枚数については、24ページをご覧ください。

RAWについて

デジタルカメラでは、被写体の映像を受け取る部分、すなわち通常のカメラのフィルムにあたる役割を果たすのがCCD（撮像素子）です。そのCCDに記録された、デジタル処理などの加工をしていないそのままのデータがRAW（ロー）形式のファイルです。これはJPEGのような一般的なファイル形式でなく、より専門的な用途に合わせた加工を行うための素材となる形式です。

本機で撮影したRAW画像を開くにはCD-ROM（付属）の「Image Data Converter SR」が必要です。このソフトウェアを使えば、RAWファイルを開いた後、JPEGやTIFFのような一般的なフォーマットに変換したり、ホワイトバランス、彩度、コントラストなどを再調整することができます。

- RAW形式の画像を撮影する際には、以下のような制限があります。
  – 画像サイズは常に最大サイズ（L：10M）になります。
  – DPOF（プリント）指定やPictBridge対応プリンターでの印刷はできません。
  – RAW画像にはJPEGなどで行われている一般的な画像処理が加えられていないため、再生やアフタービュー画面では色が正確に再現されません。データは正確に記録されているので、パソコン上では正しい色で再現されます。

アフタービュー

撮影直後に、撮影した画像を確認したり消去したりすることができます。

	10秒	撮影後、撮影した画像を10秒間液晶モニターに表示する。
	5秒	撮影後、撮影した画像を5秒間液晶モニターに表示する。
✓	2秒	撮影後、撮影した画像を2秒間液晶モニターに表示する。
	なし	アフタービューを表示しない。

アフタービュー中に消去を行うときは

（消去）ボタンを押し、確認の画面が出たら、十字キーの◀で［はい］を選んで、中央の実行ボタンを押す。

- アフタービュー中に撮影データの表示/非表示を切り替えたり（70ページ）、ヒストグラムを表示したり（72ページ）、画像を拡大したり（75ページ）することができます。拡大時、ローカルフォーカスフレームを選択していると選んだフレームを中心に拡大されます。
- 連続撮影、連続ブラケット、ホワイトバランスブラケットのアフタービューは、最後に撮影された画像のみが表示されます。上記の方法で消去すると、表示された画像だけが消去されます。
- ［撮影構図（縦横）］を［記録する］にしていても、アフタービュー時は縦方向で表示されません（96ページ）。

☞ 操作方法は77ページ

ノイズリダクション

長時間露光時にはノイズが目立ちやすくなります。シャッタースピードが１秒以上の場合は、ノイズリダクション*が機能して、長時間露光時に目立ちやすい粒状ノイズなどを低減させます。

* リダクション：Reduction（低減、削減）

✓	**あり**	１秒以上の撮影を行うと、シャッターが開いていた時間分だけノイズ軽減処理（ノイズリダクション）が行われる。この間、液晶モニターには「ノイズリダクション実行中」というメッセージが現れます。終了するまで次の撮影はできません。
	なし	ノイズ軽減処理を行わない。撮影のタイミングを優先させたい場合に便利ですが、ノイズが目立ちやすくなるので、長時間露光時にはノイズリダクション［あり］をおすすめします。

• 連続撮影および連続ブラケット撮影時は、ここでの設定にかかわらずノイズリダクションは行われません。

アイスタートAF

ファインダーをのぞくとピントが合い、シャッタースピードと絞り値が自動で調整されます。

✓	**あり**	自動ピント合わせをする。 • ［なし］よりもバッテリーの消耗が早くなります。
	なし	自動ピント合わせをしない。

撮影メニュー2

操作方法は77ページ

お買い上げ時の設定は✓で示しています。

赤目軽減発光

フラッシュ撮影時、撮影の直前に小光量のフラッシュが何回か発光して目が赤く写るのを抑制します。

	あり	赤目軽減する。
✓	**なし**	赤目軽減しない。

• 赤目軽減発光は内蔵フラッシュでのみ可能です(フラッシュ(別売)では目が赤く写ることはほとんどありません)。

調光モード

フラッシュの発光量を決めるために調光モードを選びます。

✓	**ADI調光**	撮影の直前にフラッシュを一度発光(プリ発光)させ、反射してきた光の量と距離情報を合わせて調光します。被写体の反射率にはほとんど影響されない正確な調光が可能。
	P-TTL調光	撮影の直前にフラッシュを一度発光(プリ発光)させ、反射してきた光の量のみを測る。被写体までの距離情報は加味されない。

ADI : Advanced Distance Integrationの略
P-TTL : Pre-flash, Through the lensの略

• 被写体とフラッシュ間の距離が定まらない場合(外部フラッシュ(別売)でワイヤレスフラッシュ撮影・ケーブルを使ったオフカメラ撮影などを行う場合や、マクロツインフラッシュ使用時など)は、自動的にP-TTL調光になります。
• 以下の場合はADI調光だと正確な距離情報が得られませんので、[P-TTL調光]に設定してください。
  ーフラッシュ HVL-F36AMにワイドパネルを取り付けた場合
  ーフラッシュ発光部にディフューザーを取り付けた場合
  ー露出倍数のかかるフィルター(NDなど)使用時
  ークローズアップレンズ使用時
• ADI調光は距離エンコーダー内蔵レンズとの組み合わせで可能です。距離エンコーダー内蔵かどうかは、レンズの取扱説明書の主な仕様をご覧ください。

操作方法は77ページ

フラッシュモード初期値

モードダイヤルを「AUTO」、「P」、シーンセレクションにすると、フラッシュモードは初期値の自動発光になります。フラッシュを上げたときに必ず発光させたい場合、初期値を強制発光にすることもできます。どちらの場合も、ファンクションダイヤルとFnボタンでフラッシュモードの変更は可能です。

✓	**自動発光**	「AUTO」、「P」、シーンセレクションでフラッシュを上げると自動発光となり、必要時に自動的に発光します。
	強制発光	「AUTO」、「P」、シーンセレクションでフラッシュを上げると強制発光となり、必ず発光します。

ブラケット順序

ブラケット撮影（60ページ）で、撮影する順序が選べます。定常光ブラケットとフラッシュブラケットの両方に共通です。

• ホワイトバランスブラケットには適用されません。

✓	0→−→＋	最もシャッターチャンスの大きい1枚目を±0段で撮影する。 撮影例：±0段 → −0.3段 → ＋0.3段
	−→0→＋	露出が暗い方から順に並ぶ。 撮影例：−0.7段 → ±0段 → ＋0.7段

撮影モードリセット

本機の撮影モードの主な設定がお買い上げ時の設定に戻ります。

① [撮影モードリセット]の[実行する]を選ぶ。
「撮影モードを初期値に戻しますか？」というメッセージが表示されます。

② 十字キーの◀で[はい]を選び、中央の実行ボタンを押す。
撮影モードの主な設定がリセットされます。

• リセットされる項目については、「リセット一覧表」（152ページ）をご覧ください。

▶ 再生メニュー1

操作方法は77ページ

お買い上げ時の設定は✓で示しています。

消去

不要な画像を消去します。

✓	**コマを指定**	指定した画像だけを消去する。 下記の手順をご覧ください。
	全コマ	記録メディア内の画像すべてを消去する。 下記の手順をご覧ください。

- 1度消去した画像は元に戻せません。
- プロテクトされている画像は消去できません。
- 1コマずつ手早く消去するには、🗑（消去）ボタンをお使いください。（→*別冊「はじめに」手順6*）
- タブブラウズインデックス画面では、フォルダごと消去できます（71ページ）。

コマを指定して消去するには

① ［消去］の［コマを指定］を選ぶ。

② 十字キーの◀/▶で画像を選び、▲を押す。
画像に🗑マークが付く。

- 解除するときは、▼を押してください。

③ 他の画像も消去したいときは、手順②を繰り返す。

④ 中央の実行ボタンを押す。
「指定したコマを消去しますか？」というメッセージが表示される。

⑤ ◀で［はい］を選び、中央の実行ボタンを押す。
画像が消去され、メニュー画面に戻ります。

すべての画像を消去するには

① ［消去］の［全コマ］を選ぶ。
「カード内の全コマを消去しますか？」というメッセージが表示される。

② 十字キーの◀で［はい］を選び、中央の実行ボタンを押す。
すべての画像が消去され、メニュー画面に戻ります。

- ［全コマ］で、大量の画像を消去すると、長時間かかることがあります。パソコンで画像を消去するか、本機でのフォーマットをおすすめします。

操作方法は77ページ

フォーマット

記録メディアをフォーマット（初期化）します。

- フォーマットすると、プロテクトしてある画像も含めて、すべてのデータが消去され、元に戻せません。

① [フォーマット]の[実行する]を選ぶ。
「データが全て消去されます よろしいですか？」というメッセージが表示される。

② 十字キーの◀で[はい]を選び、中央の実行ボタンを押す。
フォーマットが実行される。

- フォーマット中はアクセスランプが点灯します。点灯中は記録メディアを抜かないでください。
- 記録メディアによっては、フォーマットに数分かかる場合があります。
- 記録メディアのフォーマットは、本機で行ってください。パソコンで記録メディアのフォーマットを行うと、フォーマットの形式によっては記録メディアが使えなくなることがあります。

プロテクト

画像を誤って消さないように保護（プロテクト）します。

✓	**コマを指定**	指定した画像だけにプロテクトをかける。 下記の手順をご覧ください。
	全コマ	記録メディア内の画像すべてにプロテクトをかける。
	全コマ取消	記録メディア内の画像すべてのプロテクトを取り消す。

コマを指定してプロテクトするには

① [プロテクト]の[コマを指定]を選ぶ。

② 十字キーの◀/▶で画像を選び、▲を押す。
画像がプロテクトされ、マークが付く。

- 解除するときは、▼を押してください。

③ 他の画像もプロテクトしたいときは、手順②を繰り返す。

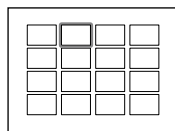
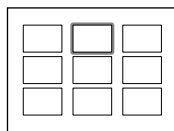
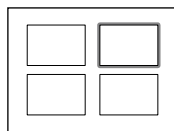
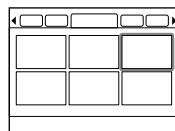
④ 中央の実行ボタンを押す。
画像がプロテクトされ、メニュー画面に戻ります。

☞ 操作方法は77ページ

インデックス画面

インデックス画面の表示方法を下記の設定から選ぶことができます。

	16コマ	1画面に16コマの画像を表示する。
	9コマ	1画面に9コマの画像を表示する。
	4コマ	1画面に4コマの画像を表示する。
✓	タブブラウズ	1画面に6コマの画像を、フォルダごとに表示する。

☞ 操作方法は77ページ

お買い上げ時の設定は ✓ で示しています。

スライドショー

撮影した画像を、5秒ずつ順番に表示します。

[スライドショー]の[実行する]を選ぶ。
スライドショーが開始されます。

終了するには、十字キーの▼またはMENUボタンを押す。

- スライドショー再生中に、◀/▶で、画像を戻す/送ることができます。
- 十字キー中央の実行ボタンで一時停止/再生開始ができます。
- |□|(表示切り替え)ボタンで撮影データあり/なしの切り替えができます。

DPOF指定

撮影した画像を、ご自分のプリンターでプリントする場合やプリント店に依頼する際に、あらかじめどの画像を何枚プリントするかを指定しておくことができます。

✓	**コマを指定**	指定した画像だけをプリントする。 下記の手順をご覧ください。
	カード内全コマ	記録メディア内の画像すべてをプリントする。 下記の手順をご覧ください。

- RAW画像にはDPOF指定はできません。
- 「Adobe RGB」で撮影した画像を正しい色でプリントするには、プリンターがDCF2.0オプション色空間に対応している必要があります。
- 枚数指定は9枚までです。

コマを指定して(DPOF指定)マークを付けるには

① [DPOF指定]の[コマを指定]を選ぶ。

② 十字キーの◀/▶で画像を選び、▲/▼で枚数を指定する(▲で枚数が増え、▼で枚数が減る)。
画像に(DPOF指定)マークが付き、枚数が指定されます。

- 解除するときは、▼を繰り返し押して、(DPOF指定)マークを消してください。

☞ 操作方法は77ページ

③ 他の画像にも凸(DPOF指定)マークを付けたいときは、手順②を繰り返す。
④ 中央の実行ボタンを押す。
画像に凸(DPOF指定)マークが付き、メニュー画面に戻ります。

すべての画像に凸(DPOF指定)マークを付けるには

① [凸 DPOF指定]の[カード内全コマ]を選ぶ。
② 十字キーの▲/▼で枚数を指定する(▲で枚数が増え、▼で枚数が減る)。
全コマとも同じ枚数しか選べません。
③ 中央の実行ボタンを押す。
画像に凸(DPOF指定)マークが付き、メニュー画面に戻ります。

- 再生時、DPOF指定された画像には、凸と枚数が表示されます。
- 他のデジタルカメラでDPOF指定した記録メディアをこのカメラに入れ、新たに指定を行うと、他のカメラでの指定は解除されます。

日付プリント

プリントする際に、プリンター側で日付を入れることができます。日付の入る場所(画面内/画面外、サイズなど)は、お使いのプリンターによって異なります。

	あり	日付を入れる。
✓	**なし**	日付を入れない。

- 通常プリントされるのは年月日だけですが、お使いのプリンターにより異なるものがあります。また、プリンターによっては、この機能に対応していないものもあります。

インデックスプリント

フォルダに記録されているすべての画像をまとめてプリントすることができます(インデックスプリント)。このカメラでは、1コマずつのプリントと合わせて、このインデックスプリントの作成を指定することができます。

	作成する	インデックスプリントを作成する。
✓	**作成しない**	インデックスプリントを作成しない。

- 1枚のプリントに印刷される画像の数や印刷内容は、プリンターによって異なります。RAW画像は、インデックスプリントには入りません。
- インデックスプリント設定後に撮影した画像は、インデックスプリントには含まれません。プリントの直前に作成されることをおすすめします。

☞操作方法は77ページ

取り消し

🖨(DPOF指定)マークをすべて取り消すことができます。インデックスプリントも取り消されます。DPOF印刷後も🖨(DPOF指定)マークは残ったままなので、いったん取り消すことをおすすめします。

① [取り消し]の[実行する]を選ぶ。
「全コマ取り消しますか？」というメッセージが表示される。

② 十字キーの◀で[はい]を選び、中央の実行ボタンを押す。
全コマの🖨(DPOF指定)マークが取り消される。

☼ カスタムメニュー1

☞ 操作方法は77ページ

お買い上げ時の設定は ✓ で示しています。

フォーカス/レリーズ優先

シャッターレリーズの設定をします。

✓	**フォーカス優先**	ピントが合わなければシャッターを切ることができない。
	レリーズ優先(RP*)	ピントが合わなくてもシャッターを切ることができる。シャッターチャンスを優先する場合は、こちらを選んでください。

*RP：Release Priority（レリーズ優先）の略

- [レリーズ優先]にすると、撮影情報画面に「RP」が表示されます。ファインダー内でピントが合うのを確認してから撮影することをおすすめします。

フォーカスホールドボタン

フォーカスホールドボタンの付いたレンズをお使いの場合、そのボタンの機能をプレビューボタンに変更することができます。

✓	**フォーカスホールド**	フォーカスホールドボタンとして使う。
	プレビュー	フォーカスホールドボタンをプレビューボタンとして使う。

AELボタン

AEL（AEロック）ボタンの機能と操作方法を変更することができます。
AEL（AEロック）ボタンの機能には、測光モードにかかわらず測光値（シャッタースピードと絞り値）をロックする「AEL」、一時的にスポット測光になってその測光値をロックする「スポットAEL」の2つがあります。操作方法には、押している間だけ機能する「押す間」、一度押して機能・再度押して解除という「再押し」の2つがあります。これらを以下の通り組み合わせることができます。

操作方法は77ページ

✓	**押す間AEL**	押し続けている間、選択されている測光モードでそのときの測光値がロックされる。 AEL（AEロック）ボタンを押したまま、シャッターボタンを押して撮影してください。露出を一定に保ちたい場合に便利です。
	再押しAEL	一度押して放すと、選択されている測光モードでそのときの測光値がロック、再度押すと解除される。 シャッターを切るときにAEL（AEロック）ボタンを押し続ける必要がありません。露出を一定に保ちたい場合に便利です。
	押す間スポットAEL	押し続けている間、どの測光モードにしていても一時的にスポット測光になり、そのときの測光値がロックされる。 AEL（AEロック）ボタンを押したまま、シャッターボタンを押して撮影してください。通常は多分割（40分割ハニカムパターン）または中央重点平均測光を使用するが、被写体により一時的にスポット測光を行う場合に便利です。
	再押しスポットAEL	一度押して放すと、どの測光モードにしていても一時的にスポット測光になり、そのときの測光値がロック、再度押すと解除される。 シャッターを切るときにAEL（AEロック）ボタンを押し続ける必要がありません。通常は多分割（40分割ハニカムパターン）または中央重点平均測光を使用するが、被写体により一時的にスポット測光を行う場合に便利です。

- 測光値がロックされている間は、液晶モニター/ファインダー内に「AEL」が点灯します。特に「再押し」を選んでいる場合は、解除し忘れのないようにしてください。
- シャッタースピード優先/マニュアルモード以外でのフラッシュ発光時は、スローシンクロ制御となりAEロックされます（67ページ）。
- ここでの「押す間」、「再押し」設定は、マニュアルモードでのマニュアルシフト（37ページ）にも影響します。

コントロールダイヤル設定

マニュアルモード、およびプログラムシフト時のコントロールダイヤルの機能を変更することができます。

✓	**シャッター**	マニュアルモード	コントロールダイヤル：シャッタースピード ＋/－（露出補正）ボタン＋コントロールダイヤル：絞り値
		プログラムシフト	P_Sシフト（コントロールダイヤルでシャッタースピードが変わる）
	絞り	マニュアルモード	コントロールダイヤル：絞り値 ＋/－（露出補正）ボタン＋コントロールダイヤル：シャッタースピード
		プログラムシフト	P_Aシフト（コントロールダイヤルで絞り値が変わる）

露出補正の効果

お買い上げ時の設定では、フラッシュ発光時に露出補正をかけると、シャッタースピード、絞り値、ISO感度（AUTO時のみ）、フラッシュ発光量のすべてが変化して露出補正（63ページ）を行います。これを、フラッシュ発光量を一定にして、定常光（フラッシュ以外の光）で照射されている背景だけに、露出補正の効果を出すことができます。

✓	**定常光＋フラッシュ**	定常光範囲（フラッシュ光の届かない背景）とフラッシュ光の届く範囲の両方に補正がかかる。 • 変化するもの：シャッタースピード/絞り値/ISO感度（AUTO時のみ）/フラッシュ発光量 • 変化しないもの：なし
	定常光のみ	フラッシュ光の届く範囲の露出をほぼ一定にしたまま、届かない定常光範囲（背景）にのみ補正をかけることができる。 • 変化するもの：シャッタースピード/絞り値/ISO感度（AUTO時のみ） • 変化しないもの：フラッシュ発光量

• 調光補正の場合は、フラッシュ光の届かない定常光範囲の露出をほぼ一定にしたまま、届く範囲にのみ補正をかけることができます（55ページ）。
  変化するもの：フラッシュ発光量
  変化しないもの：シャッタースピード/絞り値/ISO感度

操作方法は77ページ

AF補助光

暗いところでフラッシュ撮影をすると、シャッターボタンを半押ししたときに、フラッシュ光が発光することがあります。これはオートフォーカスでピントを合わせやすくするためのAF補助光です。このAF補助光の有無を設定することができます。

✓	**あり**	AF補助光を発光する。
	なし	AF補助光を発光しない。

• AF補助光を［なし］にすると、外部フラッシュ（別売）のAF補助光も発光しません。

☼ カスタムメニュー2

☞ 操作方法は77ページ

お買い上げ時の設定は ✓ で示しています。

カードなしレリーズロック

記録メディアが本機に入っていない状態で、シャッターが切れるかどうか設定します。

	あり	記録メディアを本機に入れていないとシャッターが切れない。
✓	**なし**	記録メディアを本機に入れていなくてもシャッターが切れる。

レンズなしレリーズロック

レンズを取り付けていない状態で、シャッターが切れるかどうか設定します。本機を天体望遠鏡に取り付ける場合などは、[なし]を選んでおくと、シャッターが切れるようになります。

✓	**あり**	レンズを取り付けていないとシャッターが切れない。
	なし	レンズを取り付けていなくてもシャッターが切れる。

AFフレーム投光時間

シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った部分のローカルフォーカスフレームが一瞬赤く点灯します。その点灯時間を変更したり、点灯しないようにすることができます。

	0.6秒	ローカルフォーカスフレームが0.6秒間点灯する。
✓	**0.3秒**	ローカルフォーカスフレームが0.3秒間点灯する。
	表示なし	点灯しない。

• [表示なし]にした場合は、十字キーやスポットAFボタンを押したときだけ、ローカルフォーカスフレームが点灯します。

操作方法は77ページ

モニター自動消灯

ファインダーのすぐ下にはアイセンサーがあり、撮影者がファインダーをのぞいているかどうかを検知します。ファインダーをのぞいている間、液晶モニターの画面を消灯するかどうかを選びます。

✓	**あり**	ファインダーをのぞいている間は液晶モニターを消灯する。
	なし	ファインダーをのぞいている間も液晶モニターを消灯しない。

• ここでの設定にかかわらず、一定時間（お買い上げ時の設定では5秒）を過ぎると、撮影情報画面は消灯します（101ページ）。

撮影情報画面

本機を縦に構えたとき、撮影情報画面を縦画面にするかどうか設定します。

✓	**縦横自動切替え**	本機を縦位置に構えると、表示が縦画面に切り替わる。
	横のみ	本機を縦位置に構えても、表示が縦画面に切り替わらない。

撮影構図（縦横）

縦横の構図情報を画像に記録し、縦位置で撮影した画像を自動的に縦方向で再生するようにできます。

✓	**記録する**	縦横の構図情報を画像に記録する。
	記録しない	縦横の構図情報を画像に記録しない。

• ［記録する］を選ぶと、パソコンに取り込んだ画像は、「Picture Motion Browser」/「Image Data Converter SR」（付属）では、縦方向で表示されます。使用するソフトウェアによっては縦方向で表示されないことがあります。

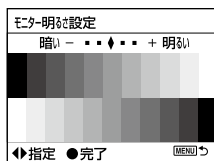
• 再生画像を手動で回転するときは、74ページをご覧ください。

セットアップメニュー1

操作方法は77ページ

お買い上げ時の設定は ✓ で示しています。

モニター明るさ

液晶モニターの明るさを調整できます。

① [モニター明るさ]の「実行する」を選ぶ。
② 十字キーの◀/▶またはコントロールダイヤルで明るさを調整して、十字キー中央の実行ボタンを押す。

USB接続

カメラをUSBケーブルでパソコンなどに接続する際の、接続の種類を選びます。

✓	マスストレージ	本機で撮影した画像をパソコンに取り込むときに使用する。 本機がUSBマスストレージとしてパソコンに認識されます。
	PTP	撮影した画像をPictBridge対応のプリンターで印刷する場合や、その他のPTP*対応機器に転送する場合に使用する。 • PictBridge対応のプリンターでの印刷方法については、122ページをご覧ください。 * PTP：Picture Transfer Protocolの略。画像ファイルの転送における通信上の決まり（通信プロトコル）のひとつ。

ビデオ出力

接続するビデオ機器のカラーテレビ方式に合わせて設定します。

✓	NTSC	ビデオ出力をNTSCモードに設定する（日本、米国など）。
	PAL	ビデオ出力をPALモードに設定する（欧州など）。

☞ **操作方法は77ページ**

ブザー音

ピントが合ったときやセルフタイマー作動時には、本機からブザー音が出ます。その有無を切り替えることができます。

✓	**あり**	ブザー音がする。
	なし	ブザー音がしない。

日時設定

日時を再設定します。

[日時設定]を選び、[実行する]を選ぶ。その後日時合わせの手順（→*別冊「はじめに」手順3*）を行う。

セットアップメニュー2

操作方法は77ページ

お買い上げ時の設定は✓で示しています。

ファイルNo.メモリー

撮影画像のファイル番号の付けかたを設定します。

✓	**あり**	フォルダの変更、全画像の消去、記録メディアの交換やフォーマットを行っても、ファイル番号はそのまま続く。
	なし	撮影フォルダを変えたり、日付形式フォルダで日付が変わってフォルダが変わったりすると、ファイル番号は0001に戻る。同一フォルダ内にすでにファイルが存在する場合は、その続き番号から始まります。

リセット

ファイル番号をリセットすることができます。番号が「0001」に戻ります。同一フォルダ内にすでにファイルが存在する場合は、その続き番号から始まります。
［リセット］の［実行する］を選ぶ。

フォルダ形式

お買い上げ時の設定の標準形式フォルダ（100MSDCFなど）を日付形式フォルダに変更し、日付別のフォルダに分けて保存や再生を行うことができます。

✓	**標準形式**	標準形式のフォルダにする。
	日付形式	日付形式のフォルダにする。撮影する日付が変わるごとに自動的にフォルダが1つ作成される。

- 標準形式フォルダで保存されたフォルダと画像はそのまま残ります。
- フォルダを日付形式にすると、フォルダ名は以下の通りに表されます。

例：**101** **6 01 01**
Ⓐ Ⓑ

Ⓐ：フォルダ番号
Ⓑ：西暦（下1桁）　月　日

☞操作方法は77ページ

フォルダ選択

標準形式フォルダを選択中でフォルダが２つ以上存在する場合、撮影した画像が保存されるフォルダ（撮影フォルダ）を選ぶことができます。

① ［フォルダ選択］を選び、十字キーの▶を押す。

② ▲/▼で希望のフォルダを選び、中央の実行ボタンを押す。

- 日付形式フォルダ設定中は、撮影フォルダの選択はできません。

新規作成

記録メディアの中に、新しいフォルダを作成します。
既存番号＋１のフォルダが作成される。次に撮影する画像は新しく作成したフォルダに記録される。

セットアップメニュー3

操作方法は77ページ

お買い上げ時の設定は✓で示しています。

撮影情報表示

撮影時には、液晶モニターに撮影情報画面が表示されます。その表示時間を変更することができます。

	1分	1分間表示する。
	30秒	30秒間表示する。
	10秒	10秒間表示する。
✓	**5秒**	5秒間表示する。

• 消灯後は、シャッターボタン半押しなど何かカメラを操作すれば、再度点灯します。

パワーセーブ

本機は、一定時間何も操作をしないでいると、自動的に省電力設定になり、ほぼ電源オフに近い状態になります(パワーセーブ(→*別冊「はじめに」手順3*))。このパワーセーブまでの時間を変更することができます。

	30分	30分後にパワーセーブになる。
	10分	10分後にパワーセーブになる。
	5分	5分後にパワーセーブになる。
✓	**3分**	3分後にパワーセーブになる。
	1分	1分後にパワーセーブになる。

• シャッターボタン半押しなど何かカメラを操作すれば、撮影が再開できます。

メニュー呼び出し先

MENUボタンを押すと、お買い上げ時の設定では常に撮影1または再生1のメニュー画面が現れます。これを、MENUボタンを押せば前回選択したメニューが最初にくるようにすることができます。

✓	**先頭**	撮影1または再生1のメニュー画面を最初に表示する。
	前回位置	前回選択したメニューを最初に表示する。

操作方法は77ページ

消去確認画面

画像消去、フォルダ消去の際に、「このコマを消去しますか？」などの確認画面が現れます。通常はあらかじめ[いいえ]が選択された状態になっていますが、これを[はい]を先に選択した状態にすることができます。

	"はい"が先	「はい」が選択された状態にする。
✓	**"いいえ"が先**	「いいえ」が選択された状態にする。

• 消去確認画面の設定は画像の消去とフォルダの消去の両方に適用されます。

クリーニングモード

本機内にゴミやほこりが入ってCCD(フィルムに該当する部分)に付着すると、撮影条件によっては、ゴミやほこりが画像に写り込むことがあります。付着した場合は、市販のブロアーを使用して、以下の手順でCCDの清掃を行ってください。
アンチダスト機能の効果によりブロアーだけで簡単にほこりを落とすことができます。

• **バッテリー残量が [バッテリーアイコン] でないと、クリーニングモードは行えません。クリーニングの途中でバッテリーの残量がなくなると、シャッター幕破損の原因となるため、清掃はすみやかに行ってください。**

① バッテリー容量が充分にあるのを確認する。
  • ACアダプター/チャージャー(別売)の使用をおすすめします。

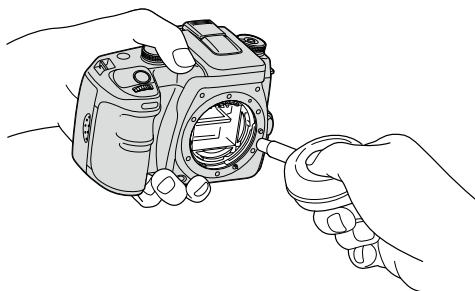
② [クリーニングモード]を選び、[実行する]を選ぶ。
「カメラの電源をOFFにすると終了します。開始しますか？」というメッセージが表示される。

③ 十字キーの◀で[はい]を選び、中央の実行ボタンを押す。
  • CCDが短時間振動した後、ミラーが上がります。

④ レンズをはずす。

⑤ ブロアーでCCD表面とその周辺のほこりを吹き飛ばす。

  • ブロアーの先端をCCDに当てないように、手早く行ってください。

操作方法は77ページ

- ほこりが下に落ちやすいよう、本機をやや下向きにしてください。
- スプレー式のブロアーは、水蒸気がカメラ内部に飛び散るので使用しないでください。
- **清掃の際に、ブロアーの先端をレンズマウントより中にいれないでください。ブロアーを近づける必要はありません。**

⑥ レンズを取り付け、本機のPOWERスイッチを「OFF」にする。

- クリーニング中にバッテリーが消耗しそうな場合は、本機のブザーが鳴ってお知らせします。すぐにクリーニングを中断して、POWERスイッチを「OFF」にしてください。
- 上記の手順でクリーニングを行っても取れない場合は、ソニーデジタル一眼レフカメラ専用ヘルプデスク（裏表紙）にお問い合わせください。

カメラ内部にほこりが入りにくくするには

本機内部へのほこりの侵入を100%防ぐことはできませんが、以下の点を注意すればかなり減らすことが可能です。

- レンズ交換は素早く、ほこりの少ない場所で行う。
- レンズやボディキャップをはずしたまま本機を放置しない。
- ボディキャップを取り付ける場合、先にボディキャップのほこりを落としてから取り付ける。

設定値リセット

本機の主な設定が、お買い上げ時の設定に戻ります。

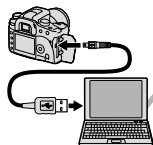
① [設定値リセット]の[実行する]を選ぶ。
「設定を初期値に戻しますか？」というメッセージが表示されます。

② 十字キーの◀で[はい]を選び、中央の実行ボタンを押す。
主な設定がリセットされます。

- リセットされる項目については、「リセット一覧表」（152ページ）をご覧ください。

Windowsパソコンでできること

Macintoshについては、「Macintoshを
お使いのときは」をご覧ください
（119ページ）。

まずは、本機とパソコンを接続しよう！（106ページ）

本機とパソコンを準備して、USB接続する

パソコンに画像を取り込もう！（107ページ）

画像をパソコンで見る

α100アプリケーションソフトウェアで活躍の幅を広げよう！（113ページ）

- パソコン内の画像を見る
- 撮影日ごとにまとめられた写真を見る
- 画像を編集する

画像をプリントする

パソコンの推奨環境

本機とつなぐパソコンは、下記の推奨環境が必要です。

画像を取り込むときの推奨環境

OS(工場出荷時にインストールされていること): Microsoft Windows 2000 Professional/Millennium Edition/XP Home Edition/XP Professional

- 上記のOSでもアップグレードされた場合や、マルチブート環境の場合は、動作保証いたしません。

USB端子: 標準装備

「Picture Motion Browser」使用時の推奨環境

OS(工場出荷時にインストールされていること): Microsoft Windows 2000 Professional/Millennium Edition/XP Home Edition/XP Professional

CPU/メモリ: Pentium III 500MHz 以上/RAM 128MB 以上(Pentium III 800MHz 以上/RAM 256MB 以上を推奨)

必要なソフトウェア: DirectX 9.0c以降

ハードディスク: インストール時に必要な容量:約200 MB

ディスプレイ: 800×600ドット以上、High Color(16 bitカラー)以上

- 本ソフトウェアはDirectXテクノロジーに対応しているため、DirectXのインストールが必要になることがあります。

「Image Data Converter SR Ver.1.1」使用時の推奨環境

OS(工場出荷時にインストールされていること): Microsoft Windows 2000 Professional/XP Home Edition/XP Professional

CPU: MMX Pentium III 1 GHz以上推奨

メモリ: 256 MB以上(512 MB以上を推奨)

仮想メモリー: 700 MB以上

ディスプレイ: 1024×768ドット以上、High Color(16 bitカラー)以上

パソコン接続についてのご注意

- 推奨環境のすべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。
- 1台のパソコンで2台以上のUSB機器を接続している場合、同時に使用するUSB機器によっては、本機が動作しないことがあります。
- USBハブ経由でご使用の場合は、動作保証いたしません。
- Hi-Speed USB(USB2.0準拠)のため、対応のUSBインターフェースに接続すると、高速な転送(high-speed転送)が行えます。
- セットアップメニューの[USB接続]が[マスストレージ]になっていることを確認してください。[PTP]では認識されません。
- パソコンがサスペンド・レジューム機能、またはスリープ機能から復帰しても、通信状態が復帰できないことがあります。

『α』専用サポートサイト

では、最新サポート情報をご覧いただけます。

http://www.sony.co.jp/alpha/support/

画像をパソコンに取り込む

ここでは、Windowsパソコンでの手順を説明します。
本機の画像をパソコンに取り込むには、下記の方法があります。

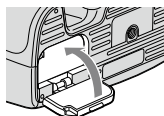
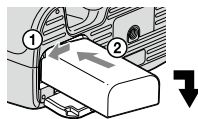
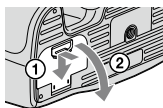
記録メディアを直接パソコンに挿入する場合：
本機から記録メディアを取りはずして、パソコンに挿入して、画像データをコピーする。

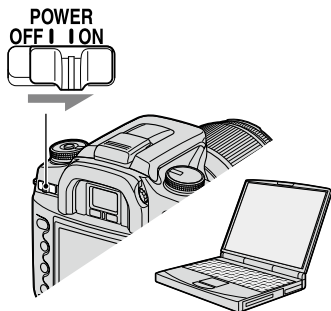
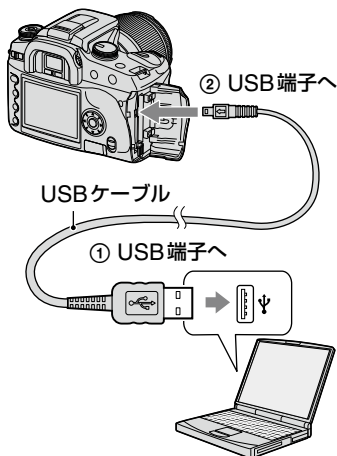
記録メディアを入れた本機でUSB接続する場合：
106 〜 110ページ記載の操作1 〜 4で、画像をパソコンにコピーできます。

- セットアップメニューの[USB接続]が[マスストレージ]になっていることを確認してください(97ページ)。

操作1：本機とパソコンを準備する

1 画像を記録した記録メディアを本機に入れる。

2 充分に充電したバッテリーを本機に入れる、またはACアダプター/チャージャー（別売）で本機とコンセントをつなぐ。

- 残量のないバッテリーを使用して画像をコピーすると、バッテリー切れのため、データを転送できなかったり、データを破損する恐れがあります。

3 本機とパソコンの電源を入れる。

操作2：本機とパソコンをつなぐ

• Windows XPの場合は、パソコンの画面に自動再生ウィザードが表示されます。

操作3-A：画像をパソコンに取り込む

XP

• Windows 2000/Me使用時：
→「操作3-B：画像をパソコンに取り込む」（108ページ）
• Windows XP使用時で自動再生ウィザードが起動しない時：→「操作3-B：画像をパソコンに取り込む」（108ページ）

ここでは、パソコンの「マイドキュメント」に画像を取り込む例を説明します。画面が表示されない場合は、カメラのシャッターボタンを半押ししてください。

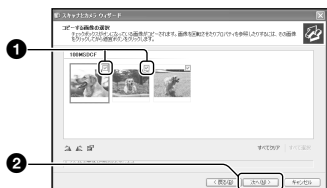
1 **「操作2」で接続完了後、パソコンで自動再生ウィザードが起動するので、[コンピュータにあるフォルダに画像をコピーする。Microsoftスキャナとカメラウィザード使用] → [OK]の順にクリック。**

「スキャナとカメラウィザードの開始」画面が表示される。

2 **[次へ]をクリック。**

本機の記録メディアに記録されている画像が表示される。

• ソフトウェア（付属）をインストールしている場合は、パソコンに[画像の取り込み]画面が表示されることがあります（114ページ）。
「Picture Motion Browser」を使ってそのまま画像を取り込むこともできます。

3 **パソコンにコピーしない画像の をクリックして にし、[次へ]をクリック。**

「画像の名前とコピー先」画面が表示される。

4 **画像の名前とコピー先を指定し、[次へ]をクリック。**

画像のコピーを開始します。画像のコピーが終了すると、「そのほかのオプション」画面が表示される。

- ここでは、画像のコピー先を「マイドキュメント」にしています。

5 **[作業を終了する]の ○ をクリックして ⊙ にし、[次へ]をクリック。**

「スキャナとカメラウィザードの完了」画面が表示される。

6 **[完了]をクリック。**

ウィザード画面が閉じる。

- 続けて画像をコピーしたい場合は、110ページの手順で、USBケーブルを一度抜いて、「操作2：本機とパソコンをつなぐ」から行う。

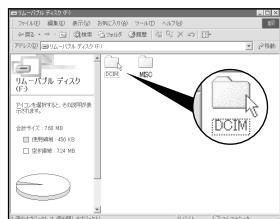
- RAW画像はこの方法では表示されません。手順1で「フォルダを開いてファイルを表示する」を選択し、そのあと操作3-Bの方法で[DCIM]フォルダを開いて画像をコピーしてください。

操作3-B：画像をパソコンに取り込む

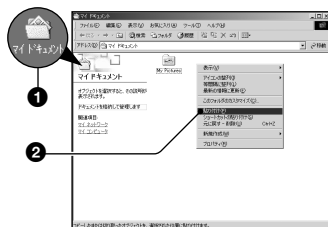
2000 **Me**

- Windows XP使用時：→「操作3-A：画像をパソコンに取り込む」（107ページ）

ここでは、パソコンの「マイドキュメント」に画像を取り込む例を説明します。画面が表示されない場合は、カメラのシャッターボタンを半押ししてください。

1 [マイコンピュータ]→[リムーバブルディスク]→[DCIM]の順にダブルクリック。

2 取り込みたい画像の入っているフォルダをダブルクリック。次に、取り込みたい画像ファイルを右クリックしてメニューを表示し、[コピー]をクリック。

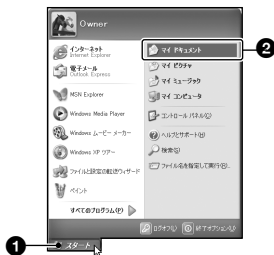
• 画像ファイルの保存先については、111ページをご覧ください。

3 [マイドキュメント]フォルダをダブルクリックして開く。次に、右クリックでメニューを表示し、[貼り付け]を選ぶ。

「マイドキュメント」フォルダに画像がコピーされる。

• コピー先に同じファイル名の画像があるときは、元の画像を上書きしてもよいかを確認するメッセージが表示されます。
上書きすると、元のファイルデータは消えます。上書きしない場合は、ファイル名を希望の名称に変更してからコピーします。ただし、ファイル名を変更する（112ページ）と本機で再生できなくなる場合があります。

操作4：パソコンで画像を見る

「マイドキュメント」に保存された画像を見ます。

1 [スタート]→[マイドキュメント]をクリック。

「マイドキュメント」フォルダの内容が表示される。

• Windows XP以外の場合は、デスクトップ画面上の[マイドキュメント]をダブルクリックする。

2 見たい画像ファイルをダブルクリック。

画像が表示される。

パソコンとの接続を切断するには

以下の操作を行いたいときは、ここで説明する手順をあらかじめ行ってください。

• USBケーブルを抜く
• 記録メディアを取り出す
• 本機の電源を切る

■Windows 2000/Me/XPの場合

① タスクトレイの をダブルクリック。

ここをダブルクリック

② (USB大容量記録装置デバイス)→[停止]をクリック。

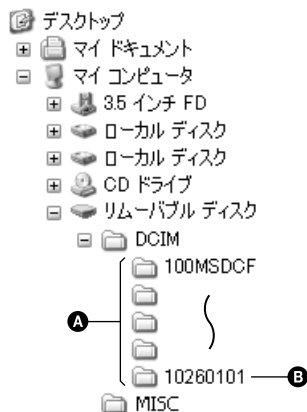
③ 取りはずすドライブを確認して、[OK]をクリック。

④ [OK]をクリック。
パソコンの接続が切断されました。

• Windows XPをお使いの方は、手順④は不要です。

画像ファイルの保存先とファイル名

本機で撮影した画像ファイルは、記録メディア内のフォルダにまとめられています。

Windows XPの例

A 本機で撮影した画像ファイルのフォルダ（最初の3桁はフォルダ番号）。

B 日付別にフォルダを作成することもできます（99ページ）。

- 「MISC」フォルダは、本機で記録/再生できません。
- タブブラウズで最新フォルダ以外を消去すると、フォルダ番号は欠番となります。
- 画像ファイル名は、下記のようになります。□□□□（ファイル番号）は0001 ～ 9999の半角数字、RAWデータファイルとそのJPEG画像ファイル名の数字部分は同じです。
  – JPEGファイル：DSC0□□□□.JPG
  – JPEGファイル（Adobe RGB）：_DSC□□□□.JPG
  – RAWデータファイル：DSC0□□□□.ARW
  – RAWデータファイル（Adobe RGB）：_DSC□□□□.ARW
- お使いのパソコンによっては、拡張子が表示されない場合があります。
- フォルダについては、99、100ページをご覧ください。

パソコンで楽しむ

パソコン内の画像を本機で見る

ここでは、Windowsパソコンでの手順を説明します。
パソコンにコピー後、記録メディアから消去した画像をもう一度本機で見るには、パソコンから記録メディアに画像をコピーしてから本機で再生します。

- 本機設定のファイル名を変更していない場合、手順1は必要ありません。
- 画像サイズによっては再生できない画像があります。
- パソコンで画像を加工したファイルや、本機以外で撮影した画像は本機での再生を保証しません。
- フォルダがない場合は、まず本機でフォルダを作成してから（100ページ）画像ファイルのコピーを行ってください。

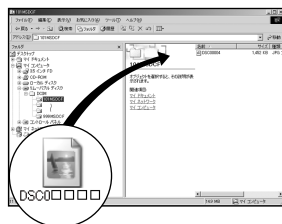
1 画像ファイルを右クリックし、[名前の変更]をクリックする。ファイル名を「DSC0□□□□」に変更する。

□□□□には、0001から9999までの半角数字を入れる。

- 上書きの警告が出た場合は、別の数字を入れなおしてください。
- パソコンによっては、画像の拡張子「JPG」が表示されます。拡張子は変更しないでください。

2 下記の手順で、ファイルを記録メディア内のフォルダにコピーする。

① 画像を右クリック→[コピー]をクリック。
② [マイコンピュータ]内の[リムーバブルディスク]または[SonyMemoryStick]をダブルクリック。
③ [DCIM]フォルダ内の[□□□MSDCF]フォルダを右クリックし、[貼り付け]をクリック。

- □□□には、100 ～ 999までの半角数字が入る。

ソフトウェア(付属)をインストールする

下記の手順で、ソフトウェア(付属)をインストールします。

- Windows 2000/XPをお使いの場合は、コンピュータの管理者権限でログオンしてください。
- 「Picture Motion Browser」と「Image Data Converter SR」が同時にインストールされます。

1 **パソコンの電源を入れた状態で、CD-ROM(付属)をCD-ROMドライブに入れる。**

インストール画面が表示される。

- インストール画面が表示されないときは、(マイコンピュータ)→(SONYPICTUTIL)の順にダブルクリックする。

2 **[インストール]をクリックする。**

「言語の選択」画面が表示される。

3 **[日本語]を選び、[次へ]をクリックする。**

使用許諾画面が表示される。

内容をよく読み、「使用許諾契約の全条項に同意します」にチェックを入れ、[次へ]をクリックする。

4 **以降、画面の指示に従ってインストールを進める。**

「Image Data Converter SR Ver.1.1」も続いてインストールされます。

- パソコンの再起動を求める画面が表示された場合は、画面の指示に従って再起動してください。
- ご利用の環境によってはDirectXも続いてインストールされます。
- Windows Meをお使いの場合は、「Image Data Converter SR Ver.1.1」はインストールされません。

5 **インストール後、パソコンからCD-ROMを取り出す。**

インストールすると、デスクトップ上にソニー製品カスタマー登録WEBサイトのショートカットが表示されます。

- カスタマー登録していただくと安心・便利な各種サポートが受けられます。
http://www.sony.co.jp/di-regi/

インストールすると、デスクトップ上にSony マイページのショートカットが表示されます。

- マイページではお持ちの登録製品に合わせたサポート情報をご覧いただけます。
http://www.sony.co.jp/mypage

ソフトウェア(付属)で楽しむ

本機で撮影した画像をよりいっそうご活用いただくために、「Picture Motion Browser」、「Image Data Converter SR」の2つのソフトウェアが付属されています。ここでは、これらのソフトウェアの概要と、基本的な利用方法を紹介します。

「Picture Motion Browser」のご紹介

「Picture Motion Browser」では、次のことができます。

- 本機で撮影した画像をパソコンに取り込み、表示できます。
- パソコンにある画像を、撮影日ごとにカレンダー上に整理して、閲覧できます。
- 画像の補正、印刷、メール送信、撮影日時の変更などの活用ができます。
- 詳しいご利用方法については、ヘルプをご覧ください。

ヘルプを起動するには、[スタート]→[すべてのプログラム](Windows 2000/Meでは[プログラム])→[Sony Picture Utility]→[ヘルプ]→[Picture Motion Browser]の順にクリックします。

「Picture Motion Browser」を起動/終了するには

起動する

デスクトップ上のショートカット[Picture Motion Browser]をダブルクリックする。
スタートメニューから起動するときは、[スタート]→[すべてのプログラム](Windows 2000/Meの場合は[プログラム])→[Sony Picture Utility]→[Picture Motion Browser]の順にクリックする。

終了する

画面右上の ☒ ボタンをクリックする。

基本的な操作方法

「Picture Motion Browser」の基本的な利用方法として、本機の画像をパソコンに取り込み、表示する方法を説明します。

画像の取り込み

1 メディア監視ツール*が起動していることを確認します。

タスクバーに(メディア監視ツール)アイコンが存在することを確認する。

* 「メディア監視ツール」は、画像が保存されている記録メディアやカメラがパソコンに接続されると、自動的に検出して画像の取り込みを行うプログラムです。

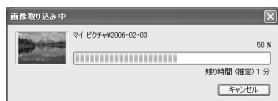
- (メディア監視ツール)アイコンが存在しない場合は、[スタート]→[すべてのプログラム](Windows 2000/Meでは[プログラム])→[Sony Picture Utility]→[ツール]→[メディア監視ツール]の順にクリックします。

2 パソコンと本機をUSBケーブルで接続する。

本機が自動認識され、[画像の取り込み]画面が表示されます。

- 記録メディアを直接パソコンに挿入する場合は、106ページをご覧ください。
- Windows XPの場合は、自動再生ウィザードが起動したら終了してください。

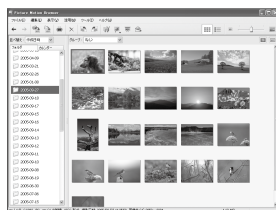
3 画像を取り込む。

[取り込み開始] ボタンを押すと、画像の取り込みが開始されます。

初期設定では、「マイ ピクチャ」に取り込み日を名前にしたフォルダが作成され、その中に画像が取り込まれます。

- 取り込みフォルダを変更したい場合は、117ページをご覧ください。

画像の閲覧

1 取り込んだ画像を確認する。

取り込みが完了すると、「Picture Motion Browser」が起動して、取り込んだ画像のサムネイルが表示されます。

- 初期設定では、「閲覧フォルダ」として「マイ ピクチャ」フォルダが設定されています。
- サムネイル画像をダブルクリックすると1枚で表示されます。

2 「閲覧フォルダ」の画像を、撮影日ごとにカレンダー上に整理して見る。

① [カレンダー]タブをクリックする。

画像が撮影された年の一覧が表示されます。

② 年の項目をクリックする。

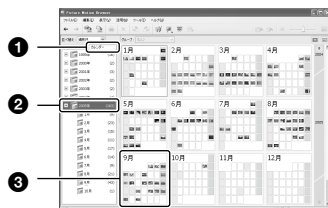
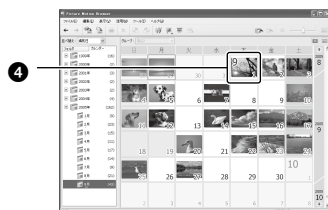
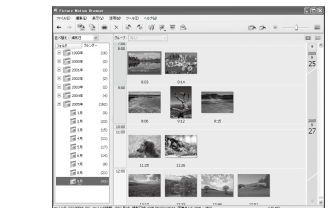
その年に撮影された画像が、年単位で撮影日ごとにカレンダー表示されます。

③ 月表示するときは、見たい月の部分をクリックする。

その月に撮影されたサムネイル画像が表示されます。

④ 撮影時間ごとの画像を表示したいときは、見たい日にちの部分をクリックする。

その日に撮影されたサムネイル画像が、撮影時間ごとに表示されます。

[年表示画面]

[月表示画面]

[時間表示画面]

- 画面左の年、または月の項目をクリックすると、その年、またはその月の撮影画像の一覧画面が表示されます。

3 個々の画像を表示するには

時間表示画面で、サムネイル画像をダブルクリックすると、別ウィンドウが起動し、その画像が1枚表示されます。

- ツールバーの[ ]ボタンから、表示されている画像を編集できます。

画像を全画面表示にするには

[ ]ボタンを押すと、閲覧している画像が全画面のスライドショーで再生されます。

- スライドショーの再生/一時停止を行うには、画面左下の[ ]ボタンを押します。
- スライドショーを終了するには、画面左下の[×]ボタンを押します。

その他の機能

パソコンに保存してある画像を閲覧できるようにするには

そのためには、保存してある画像があるフォルダを、「閲覧フォルダ」として登録します。

1 **メイン画面の をクリックするか、[ファイル]メニューから[閲覧フォルダの登録]を選ぶ。**

閲覧フォルダの登録画面が表示されます。

2 **閲覧する画像の入っているフォルダを選び、[登録]をクリックする。**

3 **[はい]をクリックする。**

画像情報のデータベースへの登録が始まります。

- 取り込み元のフォルダ内にサブフォルダがある場合、サブフォルダの画像も登録されます。

「取り込み先フォルダ」を変更するには

「取り込み先フォルダ」は、取り込み設定画面から変更できます。

1 **「ファイル」メニューの[画像の取り込み設定]→[画像の取り込み先]を選ぶ。**

画像の取り込み先画面が表示されます。

2 **画像の取り込み先を選ぶ。**

- [取り込み先フォルダ]は、[閲覧フォルダ]として登録されているフォルダの中から指定できます。

画像の登録情報を最新にするには

[ツール]メニューから[データベースを最新の情報に更新]を選択すると更新されます。

- データベースの更新には、時間がかかる場合があります。
- 「閲覧フォルダ」にある、画像やフォルダの名称を変えると、「Picture Motion Browser」で表示できなくなります。その場合は、データベースの更新を行ってください。

「Picture Motion Browser」をアンインストールするには

1 ［スタート］→［コントロールパネル］（Windows 2000/Meでは［スタート］→［設定］→［コントロールパネル］）より「プログラムの追加と削除」をダブルクリック。
2 「Sony Picture Utility」を選択し、［削除］（Windows 2000/Meでは［変更と削除］）をクリックしてアンインストールを実行する。

「Image Data Converter SR Ver.1.1」のご紹介

CD-ROM（付属）に入っているソフトウェア「Image Data Converter SR Ver.1.1」を使うと、RAWモードで撮影した画像をトーンカーブやシャープネスなど多彩な補正機能で編集できます。また、汎用ファイルフォーマット形式で保存することができます。

- ARW形式のデータをRAWで保存すると、SR2形式に変換されます。
- 詳しいご利用方法については、ヘルプをご覧ください。

「Image Data Converter SR」を起動/終了するには

起動する

デスクトップ上のショートカット［Image Data Converter SR］をダブルクリックする。
スタートメニューから起動するときは、［スタート］→［すべてのプログラム］（Windows 2000では［プログラム］）→［Sony Picture Utility］→［Image Data Converter SR］の順にクリックする。

終了する

画面右上の ☒ ボタンをクリックする。

『α』専用サポートサイト

その他のサポート情報や、製品に関するお問い合わせは、こちらのホームページから
http://www.sony.co.jp/alpha/support/

Macintoshをお使いのときは

Macintoshに画像を取り込んで見たり、「Image Data Converter SR Ver.1.1」を使ってRAW画像を編集できます。

- 「Picture Motion Browser」は、Macintosh には対応しておりません。

パソコンの推奨環境

画像を取り込む時の推奨環境

OS(工場出荷時にインストールされていること): Mac OS X(v10.1.3以降)

USB端子: 標準装備

「Image Data Converter SR Ver.1.1」使用時の推奨環境

OS(工場出荷時にインストールされていること):Mac OS X v10.3-10.4

CPU:iMac、eMac、iBook、PowerBook、Power Mac G4/G5シリーズ、Mac mini

メモリ:256 MB以上(512 MB以上を推奨)

ディスプレイ:1024×768 ドット以上、32000色以上

パソコン接続についてのご注意

- 推奨環境のすべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。
- 1台のパソコンで2台以上のUSB機器を接続している場合、同時に使用するUSB機器によっては、本機が動作しないことがあります。
- USBハブ経由でご使用の場合は、動作保証いたしません。
- Hi-Speed USB(USB2.0準拠)のため、対応のUSBインターフェースに接続すると、高速な転送(high-speed転送)が行えます。
- セットアップメニューの[USB接続]が[マスストレージ]になっていることを確認してください。[PTP]では認識されません。
- パソコンがサスペンド・レジューム機能、またはスリープ機能から復帰しても、通信状態が復帰できないことがあります。

画像を取り込んで見る

1 本機とMacintoshを準備する。

「操作1:本機とパソコンを準備する」(106ページ)と同じ準備をします。

2 USBケーブルで接続する。

「操作2:本機とパソコンをつなぐ」(107ページ)と同じ操作で接続します。

3 画像ファイルをMacintoshにコピーする。

① [デスクトップ画面上の新しく認識されたアイコン]→[DCIM]→[取り込みたい画像の入ったフォルダ]の順にダブルクリック。

② 画像ファイルをハードディスクアイコンにドラッグ&ドロップ。
ハードディスクに画像ファイルがコピーされる。

- 画像ファイルの保存先とファイル名については、111ページをご覧ください。

4 Macintoshで画像を見る

[ハードディスクアイコン]→[画像ファイル]の順にダブルクリックすると画像が開く。

パソコンとの接続を切断するには

以下の操作を行いたいときは、ここで説明する手順をあらかじめ行ってください。

- USBケーブルを抜く
- 記録メディアを取り出す
- 本機の電源を切る

記録メディアまたはドライブのアイコンをゴミ箱にドラッグ&ドロップする。

パソコンとの接続が切断されました。

「Image Data Converter SR Ver.1.1」をインストールする

RAWモードで撮影した画像をトーンカーブやシャープネスなど多彩な補正機能で編集できます。また、汎用ファイルフォーマット形式で保存することができます。

- インストールは管理者としてログオンした状態で行ってください。

① Macintoshの電源が入った状態で、CD-ROM(付属)を、ディスクドライブに入れる。

② CD-ROMアイコンをダブルクリック。

③「MAC」フォルダの中の「IDCSR_INST.pkg」を任意のフォルダにコピー。

④ コピー先のフォルダの中の[IDCSR_INST.pkg]をダブルクリック。
「ようこそ　Image Data Converter SRのインストールへ」画面が表示される。
以降、画面の指示に従ってインストールを進め、完了する。

  - パソコンの再起動を求める画面が表示された場合は、画面の指示に従って再起動してください。

- ARW形式のデータをRAWで保存すると、SR2形式に変換されます。

「Image Data Converter SR Ver.1.1」を起動するには

[アプリケーション]フォルダから[Image Data Converter SR」をダブルクリックする。

『α』専用サポートサイト

その他のサポート情報や、製品に関するお問い合わせは、こちらのホームページから
http://www.sony.co.jp/alpha/support/

画像をプリントするには

ダイレクトプリントする（PictBridge対応プリンター使用）（122ページ）

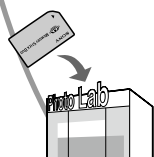
PictBridge対応プリンターに本機を直接接続してプリントします。

ダイレクトプリントする（"メモリースティック デュオ"/CFカード/マイクロドライブ対応プリンター使用）

"メモリースティック デュオ"/CFカード/マイクロドライブ対応プリンターでプリントします。詳しくはプリンターの取扱説明書をご覧ください。

パソコンを使ってプリントする

付属のCD-ROM収録のソフトウェア「Picture Motion Browser」を使って画像をパソコンに取り込んでから、プリントします。

お店でプリントする

プリントサービス店に、画像を撮影した記録メディアを持参します。プリントしたい画像にあらかじめ 🖶（DPOF指定）マークを付けておくこともできます。

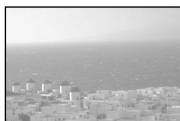
ダイレクトプリントする(PictBridge対応プリンター使用)

PictBridge対応プリンターなら、本機で撮影した画像をパソコンなしでプリントできます。

PictBridge

- 「PictBridge」は、「ピクトブリッジ」と読みます。カメラ映像機器工業会(CIPA)で制定された統一規格のことです。

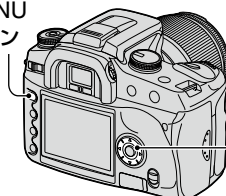
シングルプリント

1枚のプリント用紙に1枚の画像をプリントします。

インデックスプリント

1枚のプリント用紙に複数の画像を縮小プリントします。

- インデックスプリントはプリンターによっては対応していない場合があります。
- プリンターによって、1枚のインデックスプリントでプリントされる画像枚数は異なります。
- RAWデータファイルはプリントできません。

操作1:本機を準備する

本機とプリンターをUSB接続するために、本機を設定します。

- プリントの途中で電源が切れないように、ACアダプター/チャージャー(別売)のご使用をおすすめします。

1 MENUボタンを押し、メニューを表示する。

2 十字キーの◀/▶で[🔧](セットアップ)を選び、中央の実行ボタンを押す(77ページ)。

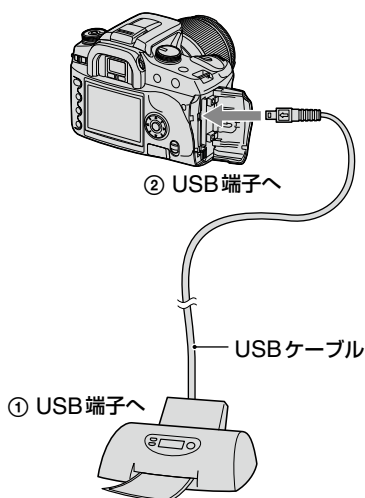
3 十字キーの▲/▼で[USB接続]を選び、▶を押す。

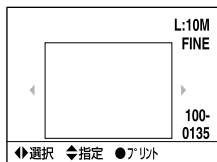
4 十字キーの▼で[PTP]を選び、中央の実行ボタンを押す。

USB接続が[PTP]に設定される。

5 電源を切って、画像を記録した記録メディアを本機に入れる。

操作2：本機とプリンターをつなぐ

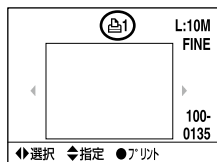
1 本機とプリンターを接続する。

2 本機とプリンターの電源を入れる。

下記の画面が表示される。

- 画面が表示されない場合は、カメラのシャッターボタンを半押ししてください。

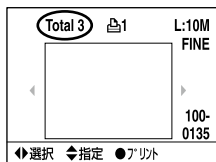
操作3：プリントする

1 十字キーの◀/▶でプリントする画像を選ぶ。

- その画像を1枚だけプリントする場合は、手順4に進んでください。

2 十字キーの▲/▼でプリントする枚数を選ぶ。

- ▲で枚数が最大20枚まで増えます。▼で枚数が減ります。
- 一括して枚数を指定することもできます（124ページ）。

3 必要なだけ手順1、2の操作を繰り返す。

- 他の画像に移動すると、それまでのプリント合計枚数がTotal欄に表示されます。

- ▯（表示切り替え）ボタンを押すと、1コマ表示とインデックス表示を切り替えることができます。
- ⊕（拡大）ボタンを押すと、画像の拡大再生ができます。

4 中央の実行ボタンを押す。

プリント設定確認画面が表示されます。

5 もう一度、十字キー中央の実行ボタンを押す。

画像がプリントされます。

6 プリント終了画面が出たら、中央の実行ボタンを押す。

プリントを中止するには

プリント中に中央の実行ボタンを押すとプリントは途中で中止します。USBケーブルをはずすか、本機の電源を切ってください。再度プリントする場合は、前ページの手順に従ってプリントしてください。

プリントメニューでプリント設定するには

本機とプリンターを接続後、MENUボタンを押すと以下の設定画面が表示されます。操作方法は、77ページをご覧ください。

1（1ページ目）

[一括枚数指定]

全コマ	記録メディア内すべての画像を同一枚数プリントする。
全コマ取消	設定したプリント設定をすべて解除する。

- 最大20枚まで枚数指定できます。

[インデックスプリント]

実行する	記録メディア内のすべての画像をまとめてプリントする。プリント設定確認画面が出て、十字キー中央の実行ボタンを押すとプリントがスタートする。

- インデックスプリントでは、1枚の用紙にプリントされる画像の数や印刷内容は、お使いのプリンターによって異なります。

2（2ページ目）

[用紙サイズ]

✓	プリンタの設定に従う	
	L	89×127 mm
	はがき	100×147 mm
	2L	127×178 mm
	A4	210×297 mm
	CardSize	54×85.6 mm
	10×15cm	10×15cm
	4"×6"	101.6× 152.4 mm
	8"×10"	203.2× 254 mm
	Letter	216× 279.4 mm

[レイアウト]

✓	プリンタの設定に従う
	フチ無し1コマ/1枚
	1コマ/1枚
	2コマ/1枚
	4コマ/1枚

[印刷品質]

✓	プリンタの設定に従う
	FINE

[情報印刷]

✓	プリンタの設定に従う
	なし
	日付
	ファイル名
	日付＋ファイル名

3（3ページ目）

[DPOF プリント]

実行する	表示されている画像と関係なく、あらかじめ ▶ 再生メニューでDPOF指定した画像をプリントする。プリント設定確認画面が出て、十字キー中央の実行ボタンを押すとプリントがスタートする。

故障かな？と思ったら

困ったときは、次の項目をチェックし、本機を点検してください。それでも調子が悪いときは『α』専用サポートサイトまたはソニーデジタル一眼レフカメラ専用ヘルプデスクに電話でお問い合わせください（裏表紙）。

バッテリー・電源

本機にバッテリーを入れられない。

- バッテリーの先端でロックレバーを押しながら入れる（→*別冊「はじめに」手順1*）。
- 正しい向きに入れる（→*別冊「はじめに」手順1*）。

バッテリーの残量表示が正しくない。またはバッテリー残量表示が充分なのに電源がすぐ切れる。

- 温度が極端に高いまたは低いところで使用しているときの現象です（142ページ）。
- バッテリーが消耗しています。充電されたバッテリーを取り付ける（→*別冊「はじめに」手順1*）。
- バッテリーの寿命です（142ページ）。新しいバッテリーと交換する。

バッテリーの消耗が早い。

- 充分に充電する（→*別冊「はじめに」手順1*）。
- 温度が極端に低いところで使用しているときの現象です（142ページ）。
- バッテリー端子が汚れていると、充電が充分できません。綿棒などで掃除する。
- バッテリーの寿命です（142ページ）。新しいバッテリーと交換する。

電源が入らない。

- バッテリーが正しく取り付けられているか確認する（→*別冊「はじめに」手順1*）。
- バッテリーが消耗しています。充電されたバッテリーを取り付ける（→*別冊「はじめに」手順1*）。
- バッテリーの寿命です（142ページ）。新しいバッテリーと交換する。

電源が途中で切れる。

- 操作しない状態が一定時間続くと、省電力設定（パワーセーブ）になり、ほぼ電源オフに近い状態になります。シャッターボタンを半押しするなどのカメラ操作をすれば、パワーセーブが解除されます（→*別冊「はじめに」手順3*）。
- バッテリーが消耗しています。充電されたバッテリーを取り付ける（→*別冊「はじめに」手順1*）。

撮影する

電源を入れても液晶モニターがつかない。

- 液晶モニターは、初期設定では5秒以上何も操作をしないでいると、節電のため自動的に消灯します。この時間を変更することもできます（101ページ）。
- 液晶モニターをオフにしている。[□]（表示切り替え）ボタンを押して、液晶モニターを点灯させてください（23ページ）。
- アイセンサーの近くに手などをかざしたため、アイセンサーが作動した。ファインダー下部のアイセンサーが作動すると、撮影者がファインダーをのぞいたと判断され、液晶モニターが消灯します。この機能を解除することもできます（96ページ）。
- バルブ撮影など、1秒以上の撮影をした。撮影中は液晶モニターには何も表示されません。

ファインダーの画像がはっきりしない。

- 視度を正しく調節する（→*別冊「はじめに」手順5*）。

撮影できない。

- 記録メディアの空き容量を確認する（24ページ）。いっぱいのときは、下記のいずれかを行う。
  – 不要な画像を消去する（→*別冊「はじめに」手順6*）。
  – 記録メディアを交換する。
- 誤消去防止スイッチのある“メモリースティック デュオ”を使用し、スイッチが「LOCK」になっている。解除する（139ページ）。
- 内蔵フラッシュ充電中は撮影できません。

シャッターが切れない。

- ピントが合わないとシャッターは切れません。（合わなくてもシャッターが切れるようにすることもできます（91ページ）。）
- カメラを天体望遠鏡などに取り付けた場合は、シャッターが切れません。（この状態でもシャッターが切れるようにすることもできます（95ページ）。）
- 液晶モニター右下に「----」、ファインダー内に「E」が点滅してシャッターが切れないときは記録メディアが入っていません。記録メディアを入れてください（→*別冊「はじめに」手順4*）。
- 液晶モニター右上に「--」が表示されるときは、レンズが正しく取り付けられていません。正しく取り付ける（→*別冊「はじめに」手順2*）。

撮影に時間がかかる。

- ノイズ軽減処理機能が働いている（82ページ）。故障ではありません。
- RAWモードで撮影している（80ページ）。RAWモードでの撮影はデータ量が大きいため、撮影に多少時間がかかる場合があります。

ピント（フォーカス）が合わない。

- 被写体が近すぎる。レンズの最短撮影距離を確認する。
- マニュアルフォーカスになっている。フォーカスモードスイッチを「AF」にする（69ページ）。
- オートフォーカスの苦手な被写体（12ページ）を撮ろうとしている。フォーカスロック撮影またはマニュアルフォーカス撮影を行ってください（69ページ）。

フラッシュ撮影ができない。

- フラッシュ発光部が閉じている。持ち上げてください。
- フラッシュが自動発光になっている。必ず発光させたいときは、強制発光にする（52ページ）。

フラッシュ撮影した画像に、ぼんやりとした丸い斑点が写っている。

- 空気中のほこりがフラッシュの強い光に反射して写りこんだためです。故障ではありません。

フラッシュ撮影した画像が全体的に暗い。

- フラッシュの調光距離（フラッシュ光の届く距離）より撮影距離が遠い場合は、フラッシュ光が被写体に届かずに暗い画像となります。また、ISO感度を変更するとフラッシュの調光距離も変化します（40ページ）。

フラッシュ撮影した画像の下部が暗い。

- レンズフードを付けたまま撮影した。内蔵フラッシュで撮影するときは、レンズフードをはずしてください。なおレンズによっては、フードをはずしても下部が暗くなるものもあります（→*別冊「はじめに」手順5*）。

フラッシュの充電時間が長い。

- 短時間に連続してフラッシュを発光させた。連続してフラッシュを発光すると、本機が熱くなるのを防ぐため、通常より充電時間が長くなることがあります。

正しい撮影日時が記録されない。

- 日付・時刻を合わせる（98ページ、→*別冊「はじめに」手順3*）。

シャッターを半押しすると絞り値、シャッタースピードが点滅する。

- 被写体が明るすぎる、または暗すぎるため、設定の範囲を超えています。設定しなおす。

画像が暗い。

- 逆光になっています。測光モード選択（56ページ）、または露出補正（35、63ページ）する。
- 画面が暗いときは、液晶モニターの明るさを調節する（97ページ）。

画像が明るい。

- 舞台など暗いところでスポットライトが当たっている状態で撮影しています。露出補正する（35、63ページ）。
- 画面が明るすぎるときは、液晶モニターの明るさを調節する（97ページ）。

画像に余分な光が入っている。

- 逆光で撮影したため、レンズに余分な光が入った。レンズフードを取り付けてください。

画面の隅が暗くなる。

- フィルターやフードをご使用の場合は、いったん取りはずしてお試しください。フィルターの厚みやフードの不適切な取り付けにより、画面にフィルターやフードが写り込むことがあります。また、レンズの光学的な特性により、画面周辺部が暗く写る場合（光量低下）があります。

被写体の目が赤く写る。

- 赤目軽減モードにする（83ページ）。
- 被写体に近づいてフラッシュ調光距離内（→*別冊「はじめに」手順5*）で撮影する。
- 室内を明るくして撮影する。

画面に点が現れて消えない。

- 故障ではありません。これらの点は記録されません（9ページ）。

画像がぶれる。

- 暗いところでフラッシュを使わずに撮影したので、手ぶれを起こした。シャッタースピードが遅くなるので、手ぶれ補正機能または三脚の使用をおすすめします。フラッシュを使う方法もあります（11ページ、→*別冊「はじめに」手順5*）。
- マクロ撮影など、近距離の被写体を撮影した。近距離の被写体に対しては、手ぶれ補正機能が効きにくい場合があります。手ぶれ補正をオフにして、三脚の使用をおすすめします（11ページ、→*別冊「はじめに」手順5*）。
- 被写体の動きが速くて被写体ぶれを起こしている。シャッタースピードを早くするか、ISO感度を高くするとぶれが少なくなります（ISO感度を高くするとノイズが多くなります）。

ファインダー内の測光インジケーター ◀▶ が点滅する。

- 被写体が明る過ぎる、または暗過ぎて、カメラの測光範囲を超えている。

カスタムホワイトバランスの設定時にエラーが表示される。

- フラッシュを発光させて近距離でカスタムホワイトバランス設定を行った、または鮮やかな色の被写体で設定しようとした。フラッシュを発光させる場合は、少し距離をあけてください。また、設定は白い被写体に向けて行ってください（45ページ）。

画像を見る

「パソコン」（131ページ）もあわせてご覧ください。

再生できない。

- ▶（再生）ボタンを押して再生モードにする（→*別冊「はじめに」手順6*）。
- パソコンでフォルダ/ファイルの名前を変更したためです（112ページ）。
- パソコンで画像を加工したファイルや、本機以外で撮影した画像は本機での再生は保証いたしません。
- USBモードになっています。USB接続を終了する（110ページ）。

テレビに画像が出ない。

- ［ビデオ出力］が［NTSC］になっているか確認する（97ページ）。
- 接続が正しいか確認する（76ページ）。
- USB端子が接続されている場合は、取りはずす（110ページ）。

画像を消去する/編集する

消去できない。

- 画像のプロテクトを解除する（86ページ）。
- 誤消去防止スイッチのある"メモリースティック デュオ"を使用し、スイッチが「LOCK」になっている。解除する（139ページ）。

誤って消してしまった。

- 一度消去した画像は元に戻せません。画像にプロテクトをかける（86ページ）か、誤消去防止スイッチのある"メモリースティック デュオ"を使用し、スイッチを「LOCK」にする（139ページ）と誤消去を防げます。

DPOF指定マークが付かない。

- RAWデータファイルにはDPOF指定マークを付けられません。

タブブラウズインデックス表示中にフォルダごと画像を消去できない。

- Windowsで記録メディア内のフォルダを表示した場合にフォルダを消去できないことがあります。パソコンでフォルダを消去してください。

パソコン

最新サポート情報は、『α』専用サポートサイトをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/alpha/support/

対応しているOSがわからない。

- 「パソコンの推奨環境」を確認する（105、119ページ）。

本機がパソコンに認識されない。

- 本機の電源が入っているか確認する（→*別冊「はじめに」手順3*）。
- バッテリー残量が少ないときは、充電されたバッテリーを取り付ける（→*別冊「はじめに」手順1*）、またはACアダプター/チャージャー（別売）を使用する（144ページ）。
- 接続には、付属のUSBケーブルを使う（107ページ）。
- 一度パソコンと本機からUSBケーブルを抜いて再びしっかりと差し込む。
- [USB接続]を[マスストレージ]にする（97ページ）。
- パソコンのUSB端子に、本機/キーボード/マウス以外の機器が接続されているときは、取りはずす。
- USBハブ経由などでなく、本機とパソコンを直接接続する（107ページ）。

画像をコピーできない。

- 本機とパソコンを正しくUSB接続する（107ページ）。
- OSに対応した手順でコピーする（107、119ページ）。
- パソコンでフォーマットした記録メディアで撮影した場合、画像をパソコンへコピーできないことがあります。本機でフォーマットした記録メディアで撮影する（86ページ）。

USB接続をしたときに「Picture Motion Browser」が自動起動しない。

- メディア監視ツールを起動する（114ページ）。
- パソコンの電源を入れた状態でUSB接続をする（106ページ）。

画像を再生できない。

- 「Picture Motion Browser」をお使いの場合は、ヘルプをご覧ください。
- パソコンメーカーまたはソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

画像をプリントできない。

- プリンターの設定を確認する。

パソコンからコピーした画像ファイルが本機で見られない。

- 100MSDCFなど本機で認識するフォルダにコピーする（111ページ）。
- 正しい手順で操作する（112ページ）。

Picture Motion Browser

画像が正しく表示されない。

- 表示したい画像があるフォルダが「閲覧フォルダ」に登録されていることを確認する。フォルダが「閲覧フォルダ」に登録されていても画像が表示されない場合、データベースを更新してください（117ページ）。

取り込んだ画像が見つからない。

- 「マイピクチャ」フォルダをご覧ください。
- 初期設定を変更した場合は、117ページの「「取り込み先フォルダ」を変更するには」をご覧いただき、「取り込み先フォルダ」をご確認ください。

「取り込み先フォルダ」を変更したい。

- 「取り込み先フォルダ」は、取り込みの設定画面から変更できます。取り込み先フォルダは「Picture Motion Browser」の「閲覧フォルダ」として登録されているフォルダから指定できます（117ページ）。

取り込んだ画像が、すべてカレンダー上で1月1日に表示される。

- 本機の日付が設定されていません。日付を設定する（98ページ、→*別冊「はじめに」手順3*）。

“メモリースティック デュオ”

本機に入らない。

- コンパクトフラッシュスロット対応メモリースティック デュオ アダプターを使用して、本機に入れる（→*別冊「はじめに」手順4*）。

記録できない。

- 誤消去防止スイッチのある“メモリースティック デュオ”を使用し、スイッチが「LOCK」になっている。解除する（139ページ）。
- “メモリースティック デュオ”の容量がいっぱいになっているときは、不要な画像を消去する（85ページ、→*別冊「はじめに」手順6*）。

フォーマットできない。

- 誤消去防止スイッチのある“メモリースティック デュオ”を使用し、スイッチが「LOCK」になっている。解除する（139ページ）。

誤ってフォーマットしてしまった。

- “メモリースティック デュオ“内のデータはすべて消去され、元に戻せません。誤消去防止スイッチのある“メモリースティック デュオ”を使用し、スイッチを「LOCK」にする（139ページ）と誤フォーマットを防げます。

“メモリースティック”スロット付きパソコンで“メモリースティック PRO デュオ”が認識されない。

- “メモリースティック PRO デュオ”非対応の場合は、本機をパソコンにつないでください（106 〜 107ページ）。パソコンが“メモリースティック PRO デュオ”を認識します。

CFカードまたはマイクロドライブ

本機に入らない。

- CFカードまたはマイクロドライブを入れる向きが違っている。正しい向きにして入れる（→*別冊「はじめに」手順4*）。

記録できない。

- CFカードまたはマイクロドライブの容量がいっぱいになっている。不要な画像を消去する（85ページ、→*別冊「はじめに」手順6*）。
- 本機では使えないCFカードが入っている（→*別冊「はじめに」手順4*）。
- 誤消去防止スイッチのある記録メディアを使用し、スイッチが「LOCK」になっている。解除してください。

マイクロドライブが熱くなっている。

- 長時間使用している。故障ではない。

誤ってフォーマットしてしまった。

- フォーマットすると、CFカードまたはマイクロドライブ内のデータはすべて消去され、元に戻せない。

プリントする

次の「PictBridge対応プリンター」も合わせてご覧ください。

画像の色合いがおかしい。

- Adobe RGBで撮影した画像を、Adobe RGB（DCF2.0/Exif2.21）に対応していないsRGB環境下のプリンターで印刷すると、低彩度な画像になります（48ページ）。

PictBridge対応プリンター

プリンターと接続できない。

- 本機は、PictBridge非対応プリンターには直接接続できません。対応の有無は、プリンターのメーカーにお問い合わせください。
- プリンターの電源が入り、接続可能な状態になっていることを確認する。
- 記録メディアが本機に入っていないと接続できません。記録メディアを本機に入れて接続し直してください。
- ［USB接続］を［PTP］にする（97ページ）。
- USBケーブルを抜いて、接続しなおす。プリンターにエラー表示が出ている場合は、プリンターの取扱説明書をご覧ください。

プリントできない。

- 本機とプリンターがUSBケーブルで正しく接続されているか確認する。
- プリンターの電源が入っているか確認する。詳しくはプリンターの取扱説明書をご覧ください。
- RAWデータファイルはプリントできません。
- 本機以外で撮影した画像、またはパソコンで加工した画像はプリントできない場合があります。

日付、ファイル名の挿入やインデックスプリントができない。

- プリンターが日付、ファイル名の挿入やインデックスプリントに対応してない。対応の有無は、プリンターのメーカーにお問い合わせください。
- プリンターによっては、インデックスプリントでは日付が挿入されない場合があります。プリンターのメーカーにお問い合わせください。

日付部分に「---- -- --」などが印刷される。

- 画像ファイルに印刷可能な撮影日時情報が入っていない。［情報印刷］を［なし］にしてプリントしてください（125ページ）。

プリントしたい用紙サイズが選択できない。

- プリンターがプリントしたい用紙サイズに対応しているか、プリンターのメーカーにお問い合わせください。

プリンターの用紙サイズどおりに印刷できない。

- 本機とプリンターを接続したあとにプリンターの用紙を別のサイズの用紙と取り替えた場合は、1度USBケーブルを抜いてプリンターを接続しなおしてください。
- 本機での印刷設定と、プリンターの設定が合っていない。本機の用紙サイズ設定を変更する（125ページ）か、プリンターの用紙設定を変更する。

印刷を中止すると、他の操作ができない。

- プリンターが印刷中止の処理をしているので、しばらくお待ちください。プリンターによっては時間がかかることがあります。

その他

操作を受け付けない。

- 本機で使えるバッテリーを使う（142ページ）。
- ▭ が表示されているときは、バッテリー残量が少ない。充電する（→*別冊「はじめに」手順1*）。

レンズがくもる。

- 結露している。電源を切って約1時間そのままにしてから使用する（147ページ）。

電源を入れると、「日付/時刻を設定してください」というメッセージが表示される。

- バッテリーが消耗したまま、または本機のバッテリーをはずしたまま放置したため、日時の設定が失われた。バッテリーを充電して、日時を再設定してください（→*別冊「はじめに」手順3*）。バッテリー充電のたびにリセットされる場合は、内蔵充電式バックアップ電池が消耗している場合があるため、ソニーデジタル一眼レフカメラ専用ヘルプデスクにお問い合わせください。

撮影残り画像数が減らなかったり、一度に2コマ減ったりする。

- JPEG画像の場合、画像によって圧縮率や圧縮後のファイルサイズが変わるためです（80ページ）。

リセット操作をしていないのに、設定内容がリセットされる。

- POWERスイッチが「ON」のままバッテリーをはずした。バッテリーをはずすときは、POWERスイッチを「OFF」にして、アクセスランプが点灯していないのを確かめてからはずしてください（→*別冊「はじめに」手順1*）。

カメラが正常に作動しない。

- 本機の電源を切ってバッテリーを一度取り出し、入れ直してください。ACアダプター/チャージャー（別売）などの使用時は、一度コードを抜いてください。温度が上がっているときには、本機の温度が下がってからこれらの処置を行ってください。それでも直らない場合や何度も繰り返す場合は故障ですので、お買い上げ店またはソニーデジタル一眼レフカメラ専用ヘルプデスクにお問い合わせください。

アクセスランプが点滅するだけで、カメラが動かない。

- バッテリーが消耗しています。充電されたバッテリーを取り付ける。

ファインダー右下の手ぶれインジケーターが、5つとも点滅する

- 手ぶれ補正機能が作動していない。そのまま撮影できますが、手ぶれ補正は機能しません。POWERスイッチをいったん「OFF」にして、再度「ON」にしてください。それでも戻らない場合は、お買い上げ店またはソニーデジタル一眼レフカメラ専用ヘルプデスクにお問い合わせください。

液晶モニター右下に「--E-」が表示される

- 記録メディアを一度取り出し、入れ直してください。それでも直らない場合は、記録メディアをフォーマットしてください。

警告表示

画面には、次のような表示が出ることがあります。

対応バッテリーをお使いください

- 指定以外のバッテリーを使用している。

電池がなくなりました

- バッテリーがなくなった。充電する。

日付/時刻を設定してください

- 日付と時刻を設定する。頻繁に出る場合は、内蔵バックアップ電池が消耗しているので交換する(135、148ページ)。

このカードは使えません
フォーマットしますか?

- パソコンでフォーマットを行い、ファイルシステムを変更した、または他のCFカード機器でフォーマットを行った。
  [はい]を選んでフォーマットを行ってください。このカメラで使用できるようになりますが、カード内のデータはすべて消去されます。また、フォーマットに多少時間がかかることがあります。
  それでも「このカードは使えません。」のメッセージが出る場合は、カードを交換してください。

カードがロックされています

- "メモリースティック デュオ"などの誤消去防止スイッチを「LOCK」にしている。

カードエラー

- 本機では使えないカードが入っている。

ノイズリダクション実行中

- シャッタースピード1秒以上またはバルブ撮影時には、シャッターが開いていた時間分だけ、ノイズ軽減処理を行う。この間は次の撮影はできない。
  ノイズリダクション機能をなしにすることもできます。

カードが入っていないのでシャッターが切れません
カスタム設定で変更できます

- [カードなしレリーズロック]が[あり]になっている。[なし]にするか、記録メディアを入れる。

レンズが装着されていないので
シャッターが切れません

- [レンズなしレリーズロック]が[あり]になっている。レンズを取り付ける。
  天体望遠鏡などにカメラを取り付ける場合は、⚙ カスタムメニューでこの設定を[なし]にする。

電池が少ないので実行できません

- CCDのクリーニングを実行しようとしたが、バッテリー残量が少ないので実行できない。バッテリーを充電するか、ACアダプター/チャージャー（別売)を使用する。

表示できない画像です

- 他のカメラで撮影した画像や、パソコンで画像を加工した場合は表示できないことがある。

画像がありません

- 画像の記録されていない記録メディアで再生しようとしている。

コマ指定がありません

• 画像を指定せずに、消去を行おうとした。

プロテクトされています

• プロテクトされている画像を消去しようとしている。プロテクトを解除する。

DPOF指定できません

• RAW画像をDPOF指定しようとしている。

USB接続中

• USB接続を開始した。USBケーブルを抜かないでください。

USB接続エラー

• USB接続が確立できない。USBケーブルを抜いて接続し直す。

プリンタを確認してください

• 用紙切れなど、プリンターで問題がおこっている。

プリントを中止しました

• プリントが中止された。USBケーブルをはずすか、カメラの電源を切る。

しばらく使用できません カメラの温度が下がるまでお待ちください

• 連続撮影したため、カメラの温度が上がった。
本機の電源を切って、本機の温度が下がり再び撮影可能になるのを待ってから撮影してください。

システムエラー CAMERA ERROR CODE=□□□□ (□は数字またはアルファベット)

• 本機の電源を切ってバッテリーを一度取り出し、入れ直す。何度も繰り返す場合はソニーデジタル一眼レフカメラ専用ヘルプデスクにお問い合わせください。

“メモリースティック”について

“メモリースティック”は、小さくて軽いIC記録メディアです。“メモリースティック”のうち、本機で使えるのは下表のとおりです。ただし、すべての“メモリースティック”の動作を保証するものではありません。

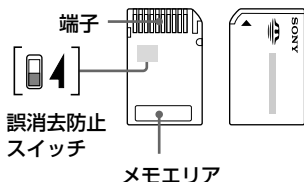
“メモリースティック”の種類	記録・再生
メモリースティック（マジックゲート非対応）	–
メモリースティック（マジックゲート対応）	–
メモリースティック デュオ（マジックゲート非対応）	○
メモリースティック デュオ（マジックゲート対応）	○*1*2
マジックゲート メモリースティック	–
マジックゲート メモリースティック デュオ	○*1
メモリースティック PRO	–
メモリースティック PRO デュオ	○*1*2

*1 マジックゲート搭載の“メモリースティック デュオ”です。“マジックゲート”とは暗号化技術を使って著作権を保護する技術です。本機ではマジックゲート機能が必要なデータの記録/再生はできません。

*2 パラレルインターフェースを利用した高速データ転送に対応しております。

- パソコンでフォーマットした“メモリースティック デュオ”は、本機での動作を保証しません。
- お使いの“メモリースティック デュオ”と機器の組み合わせによっては、データの読み込み/書き込み速度が異なります。

“メモリースティック デュオ”（別売）使用上のご注意

- 誤消去防止スイッチを先の細いものでスライドさせて「LOCK」にすると記録や編集、消去ができなくなります。

誤消去防止スイッチの有無や位置、形状は、お使いの“メモリースティック デュオ”によって異なることがあります。

- データの読み込み中、書き込み中には“メモリースティック デュオ”を取り出さないでください。
- 以下の場合、データが破壊されることがあります。
  – 読み込み中、書き込み中に“メモリースティック デュオ”を取り出したり、本機の電源を切った場合
  – 静電気や電気的ノイズの影響を受ける場所で使用した場合
- 大切なデータは、バックアップを取っておくことをおすすめします。
- メモエリアに書き込むときは、あまり強い圧力をかけないでください。
- “メモリースティック デュオ”本体およびメモリースティック デュオ アダプターにラベルなどを貼らないでください。
- 持ち運びや保管の際は、付属の収納ケースに入れてください。
- 端子部には手や金属で触れないでください。
- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 分解したり、改造したりしないでください。
- 水にぬらさないでください。

• 小さいお子さまの手の届くところに置かないようにしてください。誤って飲みこむおそれがあります。
• 以下のような場所でのご使用や保管は避けてください。
  – 高温になった車の中や炎天下などの気温の高い場所
  – 直射日光のあたる場所
  – 湿気の多い場所や腐食性のものがある場所

コンパクトフラッシュスロット対応メモリースティック デュオアダプター（以下CFスロット対応メモリースティック デュオアダプター）（付属）使用上のご注意

• “メモリースティック デュオ”をCFスロット対応メモリースティック デュオ アダプターに入れるときは正しい挿入方向をご確認のうえ、奥まで差し込んでください。差し込みかたが不充分だと正常に動作しない場合があります。
• “メモリースティック デュオ”をCFスロット対応メモリースティック デュオ アダプターに装着して対応機器でご使用になるときは、正しい挿入方向を確認のうえお使いください。間違ったご使用は機器の破損の原因となりますのでご注意ください。
• CFスロット対応メモリースティック デュオ アダプターに“メモリースティック デュオ”が装着されていない状態で、対応機器に挿入しないでください。このような使いかたをすると、機器に不具合が生じることがあります。
• コンパクトフラッシュ － PCカード変換アダプターを使用して、CFスロット対応メモリースティック デュオ アダプターをパソコンなどのPCカードスロットに接続したときのサポートは行っておりません。
• 付属のCFスロット対応メモリースティック デュオアダプターは本機用です。他の機器でもお使いになれますが、動作保証はしておりません。
• “メモリースティック デュオ”をCFスロット対応メモリースティック デュオ アダプターから取り出すときは、一度押してください。押し込まずに引き抜くと、故障の原因になることがあります。

“メモリースティック PRO デュオ”（別売）使用上のご注意

• 本機で動作確認されている“メモリースティック PRO デュオ”は4GBまでです。

使用可能な“メモリースティック”についての最新情報は、ホームページ上の「メモリースティック対応表」をご確認ください（裏表紙）。

CFカード/マイクロドライブについて

- 初めてお使いになるときは、必ず本機でフォーマットしてからお使いください。
- 以下の場合、データが破損したり記録メディアそのものが使用できなくなることがあります。
  - データの読み込み中、書き込み中に記録メディアを取り出した場合
  - 強い磁気のそばに記録メディアを近づけた場合
- 使用直後は記録メディアが熱くなっている場合があります。取り扱いには充分ご注意ください。
- 記録メディアのラベルをはがさないでください。また、上からラベルを重ねて貼らないでください。
- 記録メディアの持ち運び時や保管時は、記録メディア付属の専用保護ケースに入れてください。
- 水にぬらさないでください。
- ラベル面を強く押さないでください。
- 端子部に手や金属で触れないでください。

マイクロドライブ使用上のご注意

マイクロドライブはCompactFlash TypeIIに準拠した小型、軽量のハードディスクドライブです。

- マイクロドライブは小型ハードディスクドライブです。回転系記録媒体であるため、フラッシュメモリーを使用した“メモリースティック”に比べ振動や衝撃に強くありません。
  マイクロドライブ使用時、特に記録や再生中はカメラに振動や衝撃を与えないでください。
- 5℃以下の環境でのご使用は、マイクロドライブの性能劣化を招く場合がありますのでご注意ください。
  マイクロドライブ使用時の動作温度：
  5℃～40℃
- 気圧の低い場所（海抜3000 m以上）ではご使用になれません。
- マイクロドライブのラベルには何も記入しないでください。

バッテリーについて

バッテリーはNP-FM55Hをご使用ください。

NP-FM50、NP-FM30は使用できないのでご注意ください。

充電について

周囲の温度が10℃～30℃の環境で充電してください。これ以外では、効率のよい充電ができないことがあります。

バッテリーの上手な使いかた

- 周囲の温度が低いとバッテリーの性能が低下するため、使用できる時間が短くなります。より長い時間ご使用いただくために、バッテリーをポケットなどに入れて温かくしておき、撮影の直前、本機に取り付けることをおすすめします。
- フラッシュ撮影などを頻繁にすると、バッテリーの消費が早くなります。
- 撮影には予備バッテリーを準備して、事前に試し撮りをしてください。
- バッテリーは防水構造ではありません。水などにぬらさないようにご注意ください。
- 高温になった車の中や炎天下などの気温の高い場所に放置しないでください。

バッテリーの残量表示について

本機で使用される場合は、残量時間の分単位は表示されません。

バッテリーの保管方法について

バッテリーを長時間使用しない場合でも、機能を維持するために、1年に1回程度満充電にして本機で使い切り、その後本機からバッテリーを取りはずして、湿度の低い涼しい場所で保管してください。

バッテリーの寿命について

- バッテリーには寿命があります。使用回数を重ねたり、時間が経過するにつれバッテリーの容量は少しずつ低下します。使用できる時間が大幅に短くなった場合は、寿命と思われますので新しいものをご購入ください。
- 寿命は、保管方法、使用状況や環境、バッテリーパックごとに異なります。

バッテリーチャージャーについて

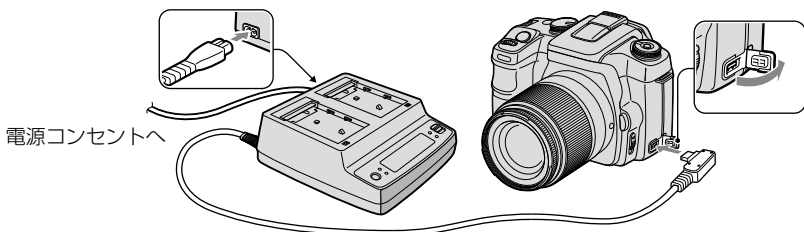
バッテリーチャージャーについて

- バッテリーチャージャー（付属）で、NP-FMシリーズ以外のバッテリーを充電しないでください。指定以外のバッテリーを充電すると、バッテリーの液漏れ、発熱、破裂、感電の原因となり、やけどやけがをするおそれがあります。
- 充電したバッテリーはバッテリーチャージャーから取り出してください。そのまま取り付けていると、バッテリーの寿命を損なうことがあります。
- CHARGEランプが点滅した場合は、バッテリーの異常、または指定以外のバッテリーが挿入された場合が考えられます。指定のバッテリーかどうか確認してください。また、指定のバッテリーを挿入している場合は、一度バッテリーを抜き、新品のバッテリーなど、別のバッテリーを挿入してバッテリーチャージャーが正常に動作するか確認してください。バッテリーチャージャーが正常に動作する場合は、バッテリーの異常が考えられます。
- バッテリーチャージャーが汚れていると正常に充電できないことがあります。乾いた布などで汚れを拭き取ってください。

別売りアクセサリー

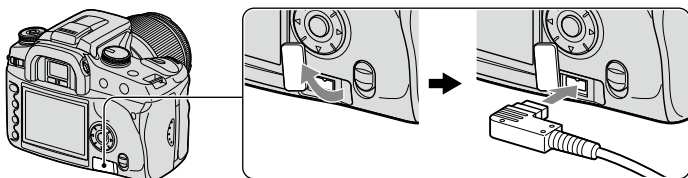
ここでは代表的なアクセサリーの本機での接続方法、操作方法を紹介しています。
詳しくは、各アクセサリーの取扱説明書をご覧ください。

ACアダプター/チャージャー AC-VQ900AM

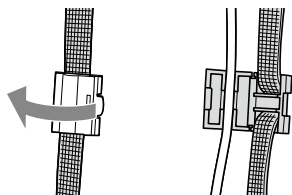
屋内など家庭用電源（AC電源）が使える場合は、ACアダプター/チャージャーを使用するとバッテリー切れの心配がなく、安心です。

接続するときは、POWERスイッチを「OFF」にしてから、カバーを開け、DC-IN端子にプラグを差し込みます。

- はずすときも、電源を切ってからはずしてください。
- 本機では、AC-VQ900AM以外のACアダプター/チャージャーは使えません。

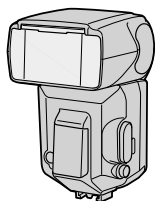
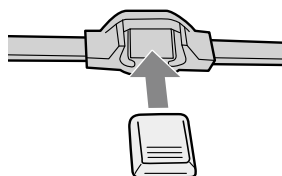
リモートコマンダー RM-S1AM

カメラから離れてシャッターを切ることができます。カメラぶれを防ぐと同時に、バルブ撮影時（37ページ）には、シャッターボタンを押したまま固定することができます。

取り付けるときは、REMOTE（リモートレリーズ）端子のカバーを開け、リモートコマンダーを差し込みます。

- 上図のように右から開き、反時計方向に回します。使用後は、逆の方向に回して閉じます。

ストラップに付いているリモートコマンダークリップで、コードをはさんで止めることができます。

フラッシュ HVL-F56AM/HVL-F36AM

内蔵フラッシュでは光が届かないような距離でも、より大光量のフラッシュを用いれば、美しいフラッシュ撮影ができます。

フラッシュ
HVL-F56AM

フラッシュ（別売）を使う際には、アクセサリーシューキャップをはずしてお使いください。はずしたキャップは、ストラップに付いているアイピースカバーに収納することができます。

ハイスピードシンクロ（HSS）撮影

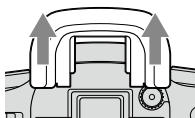
HVL-F56AMまたはHVL-F36AMを使うと、ハイスピードシンクロ撮影ができます。

フラッシュHVL-F56AMまたはHVL-F36AMをこのカメラに取り付けて、フラッシュの液晶表示部にHSSが表示されている状態にすると、フラッシュ同調速度*の制限がなくなり、カメラの持つシャッタースピード全域（30秒〜1/4000秒）でフラッシュ撮影ができるようになります。その結果、絞り値の選択幅が広がりますので、フラッシュを使った撮影でも絞りを開いて背景をぼかし、人物が浮き上がって見えるポートレートらしい写真を撮ることができます。
また絞り優先モードやマニュアルモードで開放側の絞り値でフラッシュ撮影をするとき、背景が非常に明るくて通常は露出オーバーとなるようなシーンでも、高速シャッターを使って適正露出にすることができます。

* このカメラでは、手ぶれ補正オン時で1/125秒、手ぶれ補正オフ時で1/160秒。ハイスピードシンクロ撮影以外のフラッシュ撮影では、これより高速のシャッタースピードにはなりません。

- ハイスピードシンクロ撮影となるとき（シャッタースピードが上記の同調速度より高速になる場合）は、ファインダー内と液晶モニターに「H」が点灯します。
- ハイスピードシンクロ撮影となるときは、通常のフラッシュ撮影よりも調光距離の範囲が短くなります。撮影前に、被写体がフラッシュの表示部に表示されている距離の範囲内にあるかどうか確認してください。
- 2秒セルフタイマー、後幕シンクロ選択時には、ハイスピードシンクロ撮影にはなりません。
- フラッシュメーターやカラーメーターを使用する場合は、適正露出が得られないためハイスピードシンクロ撮影はできません。ハイスピードシンクロを解除する（フラッシュの液晶表示部にHSSが表示されていない状態にする）か、同調速度より低速側のシャッタースピードを選んでください。

アングルファインダー FDA-A1AM/マグニファイヤー FDA-M1AM

アングルファインダー、マグニファイヤー使用時は、アイカップを取りはずしてください。

- ファインダー下のアイセンサーが作動することがあるため、[アイスタートAF]を[なし]にして使用することをおすすめします（82ページ）。

使用上のご注意

■ 使用/保管してはいけない場所

- 異常に高温になる場所
  炎天下や夏場の窓を閉め切った自動車内は特に高温になり、放置すると変形したり、故障したりすることがあります。
- 直射日光の当たる場所、熱器具の近く
  変色したり、変形したり、故障したりすることがあります。
- 激しい振動のある場所
- 強力な磁気のある場所
- 砂地、砂浜などの砂ぼこりの多い場所
  海辺や砂地、あるいは砂ぼこりが起こる場所などでは、砂がかからないようにしてください。故障の原因になるばかりか、修理できなくなることもあります。

■ 持ち運びについて

使用しないときは、必ずレンズキャップまたはボディキャップを付けてください。ボディキャップを付ける際には、カメラ内部にほこりが入るのを防ぐため、ボディキャップのほこりを落としてから付けてください。

■ お手入れについて

液晶モニターをきれいにする

液晶モニターに指紋やゴミが付いて汚れたときは、液晶クリーニングキット(別売)を使ってきれいにすることをおすすめします。

レンズをきれいにする

- レンズ面を清掃するときは、レンズブロアーでほこりなどを取り除いてください。汚れがひどい場合は、柔らかい布やレンズティッシュにレンズクリーナーを染み込ませ、レンズの中央から円を描くように軽くふいてください。レンズクリーナーを直接レンズ面にかけないでください。
- シャッター幕、レンズ信号接点、ミラーなどマウントの内側にあるカメラの内部の部品には触れないでください。ミラーおよびその周辺のほこりはオートフォーカスに影響を与えることがあるため、ブロアーで吹き飛ばしてください。CCDに付着したほこりは画像に写り込むことがあるので、カメラをクリーニングモードにして(102ページ)ブロアーで清掃してください。また、内部をボンベタイプのブロアーで吹かないでください。故障の原因となります。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤を含むクリーナーは絶対に使用しないでください。

表面をきれいにする

水やぬるま湯を少し含ませた柔らかい布で軽く拭いたあと、からぶきします。本機の表面が変質したり塗装がはげたりすることがあるので、以下はご使用にならないでください。

- シンナー、ベンジン、アルコール、化学ぞうきん、虫除け、日焼け止め、殺虫剤のような化学薬品類
- 上記が手についたまま本機を扱うこと
- ゴムやビニール製品との長時間の接触

■ 動作温度にご注意ください

本機の動作温度は約0 ～ 40℃です(マイクロドライブ使用時:5 ～ 40℃)。動作温度範囲を超える極端に寒い場所や暑い場所での撮影はおすすめできません。

■ 結露について

結露とは、本機を寒い場所から急に暖かい場所へ持ち込んだときなどに、本機の内部や外部に水滴が付くことです。この状態でお使いになると、故障の原因になります。

結露が起こりやすいのは

- スキー場のゲレンデから暖房の効いた場所へ持ち込んだとき
- 冷房の効いた部屋や車内から暑い屋外へ持ち出したとき、など。

結露を起こりにくくするために

本機を寒いところから急に暖かい所に持ち込むときは、ビニール袋に本機を入れて、空気が入らないように密閉してください。約1時間放置し、移動先の温度になじんでから取り出します。

結露が起きたときは

電源を切って結露がなくなるまで約1時間放置し、結露がなくなってからお使いください。特にレンズの内側に付いた結露が残ったまま撮影すると、きれいな画像を記録できませんのでご注意ください。

■ 内蔵の充電式バックアップ電池について

本機は日時や各種の設定を電源の入/切に関係なく保持するために充電式バックアップ電池を内蔵しています。充電式バックアップ電池は本機を使用している限り常に充電されていますが、使う時間が短いと徐々に放電し8か月程度まったく使わないと完全に放電してしまいます。充電してから使用してください。ただし、充電式バックアップ電池が充電されていない場合でも、日時を記録しないのであれば本機を使うことができます。

内蔵の充電式バックアップ電池の充電方法

本機に充電されたバッテリーを入れるか、ACアダプター/チャージャー（別売）を使ってコンセントにつないで、本機の電源を切ったまま24時間以上放置する。

バッテリー NP-FM55Hの充電方法

→*別冊「はじめに」手順1*

■ 記録メディアを破棄/譲渡するときのご注意

本機やパソコンの機能による「フォーマット」や「消去」では、記録メディア内のデータは完全には消去されないことがあります。破棄/譲渡の際は、記録メディア本体を物理的に破壊するか、市販のパソコンによるデータ消去専用ソフトなどを使って記録メディア内のデータを完全に消去することをおすすめします。

主な仕様

本体

[形式]

カメラタイプ	フラッシュ内蔵レンズ交換式デジタル一眼レフカメラ
使用レンズ	ソニーレンズ

[撮像部]

総画素数	約10 800 000画素
有効画素数	約10 200 000画素
撮像素子	23.6×15.8 mm（APS-Cサイズ）、インターレーススキャン方式、原色フィルター付き

[手ぶれ補正]

形式	CCDシフト方式
効果	シャッタースピード約2～3.5段（撮影条件・レンズにより異なる）

[アンチダスト]

システム	帯電防止コートとCCDシフト駆動の併用

[ファインダー]

形式	アイレベル固定式（ルーフミラー式ペンタプリズム使用）
フォーカシングスクリーン	スフェリカルアキュートマット
視野率	95%
倍率	0.83倍（50 mmレンズ、無限遠、-1 m^{-1}時）
アイポイント	最終光学面から約20 mm、接眼枠から約16mm（-1 m^{-1}時）
視度調整	-2.5～$+1.0$ m^{-1}

[オートフォーカス]

形式	TTL位相差検出方式、CCDラインセンサー（中央クロス9エリア8ライン）
検出輝度範囲	EV 0～EV 18（ISO 100相当）

[露出]

測光素子	40分割ハニカムパターンSPC
測光範囲	EV 1～EV 20 (スポット測光時はEV 4～EV 20), (ISO100相当、F1.4レンズ使用)

[シャッター]

形式	電子制御式縦走りフォーカルプレーンシャッター
シャッター速度範囲	1/4000～30秒、バルブ
フラッシュ同調速度	1/160秒（手ぶれ補正OFF時）、1/125秒（手ぶれ補正ON時）

[内蔵フラッシュ]

ガイドナンバー	12（ISO100・m）
充電時間	約3秒

[記録メディア]

CFカード（TYPE I、II）、マイクロドライブ、"メモリースティック デュオ"（CFスロット対応メモリースティック デュオアダプター使用による）

[液晶モニター]

形式	6.2 cm（2.5型）TFT駆動
ドット数	230 000 (960×240) ドット

[電源]

バッテリー	リチャージブルバッテリーパックNP-FM55H

［その他］

PictBridge	対応
Exif Print	対応
PRINT Image Matching III	対応
外形寸法	133.1×94.7×71.3 mm（幅×高さ×奥行き、突起部を除く）
本体質量	約545 g（電池、記録メディアなど、付属品含まず）
動作温度	0～40℃（マイクロドライブ使用時5～40℃）
Exif	Exif 2.21
USB通信	Hi-Speed USB（USB2.0準拠）

バッテリーチャージャー BC-VM10

定格入力	AC100～240 V、50/60 Hz
定格出力	DC 8.4 V、750 mA
動作温度	0～40℃
保存温度	－20～＋60℃
最大外形寸法	約70×25×95 mm（幅×高さ×奥行き）
本体質量	約90 g

リチャージャブルバッテリーパック NP-FM55H

使用電池	リチウムイオン蓄電池
最大電圧	DC 8.4 V
公称電圧	DC 7.2V
容量	11.5 Wh（1 600 mAh）
最大外形寸法	約38.2×20.5×55.6 mm（幅×高さ×奥行き）
本体質量	約78 g

本機や付属品の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

保証書とアフターサービス

必ずお読みください

記録内容の補償はできません

万一、カメラや記録メディアなどの不具合などにより記録や再生されなかった場合、記録内容の補償については、ご容赦ください。

保証書は国内に限られています

このカメラは国内仕様です。外国で万一、事故、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめの上、大切に保存してください。

アフターサービス

■調子が悪いときはまずチェックを

“故障かな？と思ったら”の項を参考にして故障かどうかお調べください。それでも具合の悪いときはソニーデジタル一眼レフカメラ専用ヘルプデスクにご相談ください（裏表紙）。

■保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

■保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

■部品の交換について

この商品は修理の際、交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

■部品の保有期間について

当社はカメラの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造打ち切り後７年間保有しています。この部品保有期間が経過したあとも、故障個所によっては修理可能の場合がありますので、ソニーデジタル一眼レフカメラ専用ヘルプデスクにご相談ください（裏表紙）。

リセット一覧表

○　リセットされるもの
×　リセットされないもの
カッコ内はページ数
* →別冊「はじめに」のページ数です。

ダイヤルやボタンで設定するもの

項目	リセット内容	オート撮影 (28)	シーンセレクション (29)	撮影モードリセット (84)	設定値リセット (103)	ページ
手ぶれ補正	—	×	×	×	×	*14**
視度調整	—	×	×	×	×	*17**
撮影情報画面	詳細画面	×	×	×	○	23
露出モード	—	–	–	×	×	31
ISO/ゾーン切り替え	AUTO	○	○	○	○	40、41
ホワイトバランス	オート(自動設定)	○	○	○	○	42
プリセットホワイトバランス	太陽光 ±0	–	–	○	○	43
色温度/CCフィルター	5500K、CCフィルター±0	–	–	○	○	44
カスタムホワイトバランス値	太陽光 ±0	–	–	×	○	45
Dレンジオプティマイザー	スタンダード	○	○	○	○	46
画像仕上げ・コントラスト/彩度/シャープネス	スタンダード、±0(全項目とも)	○[3]	○[3]	○	○	47
フォーカスフレーム	ワイド	○	×	○	○	49
AFモード(AF-S/DMF/AF-A/AF-C)	AF-A	○	○[2]	○	○	51
フラッシュモード	自動発光	○[4]	○[4]	○[4]	○[4]	52
調光補正	±0	○	○	○	○	55
測光モード	多分割測光(40分割ハニカムパターン)	○	○	○	○	56
ドライブモード	1コマ撮影	○	○[1]	○	○	58
露出補正	±0	○	○	○	○	63
フォーカスモード(MF/AF)	—	×	×	×	×	69
再生画面	1コマ再生(データあり)	×	×	×	○	70

[1] スポーツモード時は連続撮影になります。

[2] スポーツモード時はAF-C、マクロモード時はAF-Sになります。

[3] オート撮影、シーンセレクション撮影時は、カメラが推奨する設定になります。

[4] 自動発光または強制発光になります。後幕シンクロとワイヤレスは解除されます。

撮影メニュー

項目	リセット内容	オート撮影(28)	シーンセレクション(29)	撮影モードリセット(84)	設定値リセット(103)	ページ
画像サイズ	L：10M	×	×	×	○	80
画質	ファイン	×	×	×	○	80
アフタービュー	2秒	×	×	×	○	81
ノイズリダクション	あり	×	×	×	○	82
アイスタートAF	あり	×	×	×	○	82
赤目軽減発光	なし	×	×	×	○	83
調光モード	ADI調光	○	×	×	○	83
フラッシュモード初期値	自動発光	×	×	×	○	84
ブラケット順序	0 → − → ＋	×	×	×	○	84

再生メニュー

項目	リセット内容	オート撮影(28)	シーンセレクション(29)	撮影モードリセット(84)	設定値リセット(103)	ページ
インデックス画面	タブブラウズ	×	×	×	○	87
DPOF指定	—	×	×	×	×	88
日付プリント	なし	×	×	×	○	89
インデックスプリント	—	—	—	—	—	89

カスタムメニュー

項目	リセット内容	オート撮影(28)	シーンセレクション(29)	撮影モードリセット(84)	設定値リセット(103)	ページ
フォーカス/レリーズ優先	フォーカス優先	○	○	×	○	91
フォーカスホールドボタンの機能	フォーカスホールド	×	×	×	○	91
AELボタン	押す間AEL	×	×	×	○	91
コントロールダイヤル設定	シャッター	×	×	×	○	93
露出補正の効果	定常光＋フラッシュ	×	×	×	○	93
AF補助光	あり	×	×	×	○	94
カードなしレリーズロック	なし	×	×	×	○	95
レンズなしレリーズロック	あり	×	×	×	○	95
AFフレーム投光時間	0.3秒	×	×	×	○	95
モニター自動消灯	あり	×	×	×	○	96
撮影情報画面	縦横自動切り替え	×	×	×	○	96
撮影構図（縦横）	記録する	×	×	×	○	96

セットアップメニュー

項目	リセット内容	オート撮影 (28)	シーンセレクション (29)	撮影モードリセット (84)	設定値リセット (103)	ページ
モニター明るさ	標準	×	×	×	○	97
USB接続	マスストレージ	×	×	×	○	97
ビデオ出力	—	×	×	×	×	97
ブザー音	あり	×	×	×	○	98
日時設定	—	×	×	×	×	98
ファイルNo.メモリー	あり	×	×	×	○	99
フォルダ形式	標準形式	×	×	×	○	99
フォルダ選択	—	×	×	×	×	100
撮影情報表示	5秒	×	×	×	○	101
パワーセーブ	3分	×	×	×	○	101
メニュー呼び出し先	先頭	×	×	×	○	101
消去確認画面	"いいえ"が先	×	×	×	○	102

安全のために

→ 3ページもあわせてお読みください。

下記の注意事項を守らないと、**火災、大けが**や**死亡**にいたる危害が発生することがあります。

分解や改造をしない

火災や感電の原因となります。内部点検や修理はソニーデジタル一眼レフカメラ専用ヘルプデスクにご依頼ください。

内部に水や異物（金属類や燃えやすい物など）を入れない

火災、感電の原因となります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電池を取り出してください。ACアダプターやバッテリーチャージャーなどもコンセントから抜いて、ソニーデジタル一眼レフカメラ専用ヘルプデスクにご相談ください。

運転中に使用しない

自動車、オートバイなどの運転をしながら、撮影、再生をしたり、液晶画面を見ることは絶対おやめください。交通事故の原因となります。

撮影時は周囲の状況に注意をはらう

周囲の状況を把握しないまま、撮影を行わないでください。事故やけがなどの原因となります。

指定以外の電池、ACアダプター、バッテリーチャージャーを使わない

火災やけがの原因となることがあります。

機器本体や付属品、記録メディアは、乳幼児の手の届く場所に置かない

電池やアクセサリーシューキャップなどの付属品や、"メモリースティック"などを飲み込む恐れがあります。乳幼児の手の届かない場所に置き、お子様がさわらぬようご注意ください。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。

電池やショルダーベルト、ストラップを正しく取り付ける

正しく取り付けないと、落下によりけがの原因となることがあります。
また、ベルトやストラップに傷がないか使用前に確認してください。

電源コードを傷つけない

熱器具に近づけたり、加熱したり、加工したりすると火災や感電の原因となります。また、電源コードを抜くときは、コードに損傷を与えないように必ずプラグを持って抜いてください。

可燃性/爆発性ガスのある場所でフラッシュを使用しない

警告

下記の注意事項を守らないと、**火災**、**大けが**や**死亡**にいたる危害が発生することがあります。

フラッシュやAF補助光などの撮影補助光を至近距離で人に向けない

- 至近距離で使用すると視力障害を起こす可能性があります。特に乳幼児を撮影するときは、1m以上はなれてください。
- 運転者に向かって使用すると、目がくらみ、事故を起こす原因となります。

カメラのファインダーや取りはずしたレンズを通して、太陽や強い光を見ない

視力障害や失明の原因となります。

⚠注意

下記の注意事項を守らないと、**けが**や**財産に損害**を与えることがあります。

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所では使わない

火災や感電の原因になることがあります。

ぬれた手で使用しない

感電の原因になることがあります。

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いた所に置いたり、不安定な状態で三脚を設置すると、製品が落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

コード類は正しく配置する

電源コードやパソコン接続ケーブルは、足に引っ掛けると製品の落下や転倒などによりけがの原因となることがあるため、充分注意して接続・配置してください。

通電中のACアダプター、バッテリーチャージャー、充電中の電池や製品に長時間ふれない

長時間皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。

使用中は機器を布で覆ったりしない

熱がこもってケースが変形したり、火災、感電の原因となることがあります。

長期間使用しないときは、電源をはずす

長期間使用しないときは、電源プラグをコンセントからはずしたり、電池を本体からはずして保管してください。火災の原因となることがあります。

フラッシュの発光部を手でさわらない

フラッシュ発光部を手で覆ったまま発光しないでください。発光後も発光部に手を触れないでください。やけどの原因となります。

レンズや液晶画面に衝撃を与えない

レンズや液晶画面はガラス製のため、強い衝撃を与えると割れて、けがの原因となることがあります。

電池や付属品、記録メディア、アクセサリーなどを取りはずすときは、手をそえる

電池や"メモリースティック"などが飛び出すことがあり、けがの原因となることがあります。

直射日光の当たる場所に放置しない

太陽光が近くの物に結像すると、火災の原因になります。やむを得ず直射日光下に置く場合は、レンズキャップを付けてください。

⚠危険 電池についての安全上のご注意とお願い

漏液、発熱、発火、破裂、誤飲による大けがややけど、火災などを避けるため、下記の注意事項をよくお読みください。

⚠危険	• バッテリーパックは指定されたバッテリーチャージャー以外で充電しない。 • 電池を分解しない、火の中へ入れない、電子レンジやオーブンで加熱しない。 • 電池を火のそばや炎天下、高温になった車の中などに放置しない。このような場所で充電しない。 • 電池をコインやヘアーピンなどの金属類と一緒に携帯、保管しない。 • 電池を水・海水・牛乳・清涼飲料水・石鹸水などの液体でぬらさない。ぬれた電池を充電したり、使用したりしない。	禁止
⚠警告	• 電池をハンマーなどでたたいたり、踏みつけたり、落下させたりするなどの衝撃や力を与えない。 • 外装シールをはがしたり、傷つけたりしない。外装シールの一部または、すべてをはがしてある電池や破れのある電池は絶対に使用しない。	禁止
⚠注意	• 電池は、+、−を確かめ、正しく入れる。 • 電池を使い切ったときや、長時間使用しない場合は機器から取り出しておく。 • 新しい電池と使用した電池、種類の違う電池は混ぜて使わない。	指示 禁止

お願い	リチウムイオン電池はリサイクルできます。不要になったこれらの電池は、金属部分にセロハンテープなどの絶縁テープを貼って充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。 Li-ion リチウムイオン電池 **充電式電池の収集・リサイクルおよびリサイクル協力店については** 有限責任中間法人JBRC ホームページ http://www.jbrc.net/hp/contents/index.html を参照してください。

用語の解説

色温度(44ページ)
光の色を数値で表したもので、光源自体の温度ではなく、光の色を人間の目に見える感覚に置き換えて表した数値のこと。単位はK(ケルビン)。色温度が低くなるほど赤みを、色温度が高くなるほど青みを帯びた光に感じる。

インストール(113、120ページ)
ソフトウェアなどをコンピューターにコピーして組み込み、使用できる状態にすること。

拡張子(111、112ページ)
ファイルの種類を表す3 ～ 4文字の英数字のこと。ファイル名の末尾にピリオドで区切られた一番右側の部分。

画素(14ページ)
画像を構成する最小単位。画素数が多いほど画像サイズが大きくなり、画像の解像度が高くなる。

画像サイズ(14ページ)
画素数を縦×横で表示したサイズ。画像サイズが大きいと、画素数が多くなり画像の解像度が高くなる。

撮像素子(13ページ)
光を電気信号に変換する半導体の一種。

シャッタースピード(13、33ページ)
撮影時に撮像素子に光を当てる時間のこと。シャッタースピードを速くすると動きのある被写体も止まって写り、遅くすると流れて写る。

ドライバ
どのような周辺機器がどのように接続されているかをコンピューター側に知らせ、周辺機器を正しく動かすために必要なソフトウェアのこと。

ノイズ(11、82ページ)
撮像素子が光を受け取り信号として出力するまでの過程で発生する画像のざらつきのこと。

パワーセーブ機能(→*別冊「はじめに」手順3*)
電源を入れたまま一定時間操作をしないと、バッテリーの消耗を防ぐため、本機が節電モードに入る機能。

半押し(→*別冊「はじめに」手順5*)
シャッターボタンを押し込まず、半分押した状態にしておくこと。シャッターボタンを半押しすると、静止被写体の場合はピントと露出が固定される。

ピント(→*別冊「はじめに」手順5*)
被写体に対する焦点のこと。本機はピントを自動調整する。撮影距離を手動でも設定できる。

フォーマット(86ページ)
「初期化」とも言い、記録メディアにデータを書き込めるようにすること。フォーマットすると、記録メディアに保存されているデータはすべて消える。

フォルダ（99、100ページ）
本機で撮影した画像をまとめて格納する場所。目的別（イベント別）・日付別に画像を分類するときに便利。

ホワイトバランス（42ページ）
光源に合わせて色を調整する機能。被写体の見た目の色は光の状況に影響される。例えば、電球の下で撮影すると白い被写体が赤っぽく写る。ホワイトバランスを設定すると、自然な色合いで撮影できる。

マスストレージ（97ページ）
"メモリースティック"が入ったデジタルカメラ自体を、外付けの記憶装置として認識し、USB接続したパソコンから操作可能なモード。

"メモリースティック"（139ページ）
"メモリースティック"は小さくて軽いIC記録メディア。

有効画素数（149ページ）
撮像素子が光から電気信号に変換できる画素数。有効画素数から画像処理をしたものが記録画素数になる。

露出（13ページ）
絞りとシャッタースピードの値により決まる光量。

Adobe RGB（48ページ）
「アドビ・アール・ジー・ビー」と読み、米Adobe Systems社が提唱した色空間（色を数値の組み合わせによって表現するための方法、カラースペース）。Windowsなどで使われる一般的なモニターなどで採用されている色空間sRGBと比べると、シアンからグリーンにかけて広い色空間を持ち、色が鮮やかになるため、主に印刷物などに用いられる。

AE（65ページ）
「Auto Exposure」の略で、被写体の明るさをカメラが判断して、自動で露出を決める機能。

AF（49ページ）
「Auto Focus」の略で、カメラが自動でピントを合わせる機能。

DCF（9ページ）
「Design rule for Camera File system」の略で、（社）電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された統一規格。

DPOF（88、121ページ）
「Digital Print Order Format」の略。「ディーポフ」と読み、DPOFプリント指定したい写真を記録メディア上に指定できる。

Dレンジオプティマイザー（46ページ）
撮影されたシーンを解析し、画像処理を行うことによって最適露出画像を得る機能。スタンダードでは画像全体に、アドバンスでは画像の領域ごとに適切な補正を行う。

Exif（150ページ）
（社）電子情報技術産業協会（JEITA）が制定した撮影情報などの付帯情報を追加できる静止画像用のファイルフォーマット。

ISO（40ページ）
「イソ」と読み、カメラフィルムの光に対する感応度で、ISO単位で表す。数値が大きいほど高感度に撮影できる。

JPEG（111ページ）
「ジェイペグ」と読み、インターネットで扱う代表的なカラーの静止画を圧縮する形式。本機では、通常の静止画撮影時、JPEG形式で画像を保存する。

MF（69ページ）
「Manual Focus」の略で、手動でピントを合わせる機能。

OS（105、119ページ）
「Operating System」の略。コンピューター全体を管理し、コンピューターを操作するのに必要な基本ソフトウェアのこと。

PictBridge（121ページ）
「ピクトブリッジ」と読み、カメラ映像機器工業会（CIPA）で制定された統一規格。PictBridge対応のプリンターと本機を接続して、画像ファイルをプリントできる。

PTP（97ページ）
「Picture Transfer Protocol」の略。パソコンに画像データを簡単にコピーできる接続方法。

RAWデータ（80ページ）
「ロー」と読み、撮像素子の生データをそのまま保存するため、圧縮、保存、解凍による画像劣化がないファイル形式のこと。専用ソフトウェアで画像処理を行い、「現像」する。画像補正機能を使用することによって、最適な画像を創ることができる。

USB（105、119ページ）
「Universal Serial Bus」の略。キーボードやマウスなどのパソコンの周辺機器を接続するための規格。

索引

ア行

カ行

サ行

タ行

ナ行

ハ行

マ行

ヤ行

ラ行

ワ行

アルファベット順

用語の解説／索引